

文芸特集号 目次

ハワイアン音楽とともに	新本 稔	4
炎精の剣 <small>えんせい つるぎ</small>	山田 遼	6
終末期の患者―命の限り	浜名 新	32
物語と歴史の診療メモ	安田 修一	45
五日チャーハン	吉元 昭治	55
五十年の思い出の数々	小川 昭子	60
芭蕉は三度高野山に登った	後藤 健	62
記備談語 (きびだんご)	佐藤 玄祥 (博)	64
忍耐は幸福の鍵	豊泉 清	96

第 59 卷 通算 625 号

	▽編集後記	▽文芸部雑記	▽執筆者一覧	雑感	【詩】朝食・悔恨・終末	機上の名画座	慢性医療の一コマ	【医芸柳壇】
	主治医への遺言 二編
表紙の言葉	白矢 勝一	藤倉 一郎	鈴木 啓之	豊泉 清
.....	斎藤 三朗
鈴木 啓之
.....
31	120	119	118	114	112	108	101	100

ハワイアン音楽とともに

新本 稔

今年も、平成27年7月14日(火) 広島市内のリーガロイヤルホテル広島の大ホールで、「ハワイアンの夕べ」を開いた。毎年開催してきたこの夕べも9回をかぞえることになった。

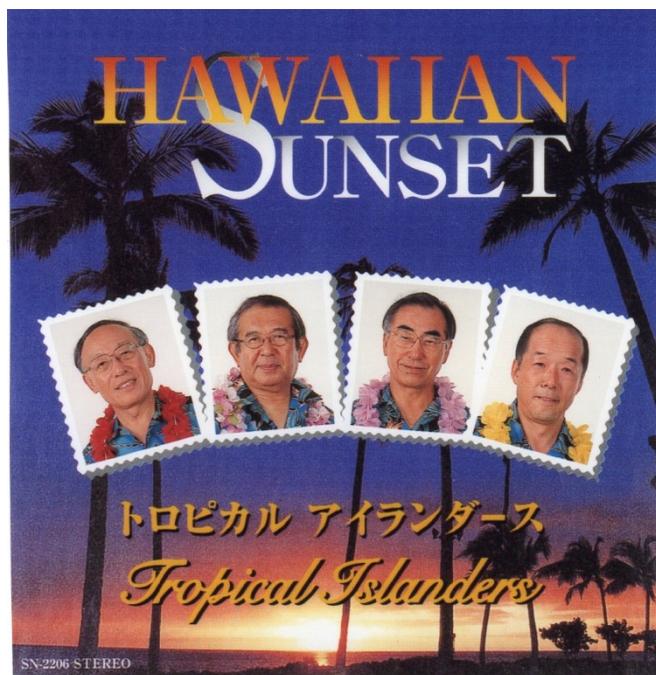
このメンバーは、広島大学医学部・学生時代のハワイアン部の先輩・後輩から成り立っている。スチールギター・井原俊彦(婦人科)、サイドギター・小林邦彦(内科)、エレキベースは原田貴志(耳鼻科)が受け持ち、私はウクレレを弾き、歌を唄っていた。

平成2年1月私が開業したのがきっかけとなり、昔の音を楽しみたいとの願いもこめて、「トロピカル・アイランダーズ」のバンド名のもとに、4名で再結成された。

この年の10月には、広島県医師会主催の第2回医家音楽祭に初出演し演奏活動を開始した。この音楽祭には毎回、メンバーの誰かがハワイに行った時に買ってきた4人が揃いのアロハシャツを着てレイを首からかけると、一致団結し、ハワイの雰囲気は会場内に充分

に漂った。

この会も第13回で終了となり、その後は小さい演奏会に出演する機会もあり練習はしていた。この頃から歌った曲をCDで残そうということに、暇を見つけては録音を始めた。「歌のアルバム」である。演奏にも力



が入ってきた。

平成19年の夏、私達だけの演奏会をしようとの企画が持ち上がり、トロピカル・アイランドスの「ハワイアンの夕べ」を開催することになる。ホテルの軽食付きのディナー・コースとハワイアン音楽。夏の夜にはもってこいの催しである。

演奏会の当日は、受付係はそれぞれのメンバーの家族がその任務に当たる。アナウンスも、ナレーションも奥さん達の協力で、一家総出の大演奏会である。

初回からこの夕べには約400人近い家族や知人、友人が応援団として集まってくれた。結婚式の時と同じように会場が暗くなり、ホールの入口の方にスポットライトが照らされると、4人が一列になり、入場となる。まるで結婚式の新郎新婦ご入場のように。

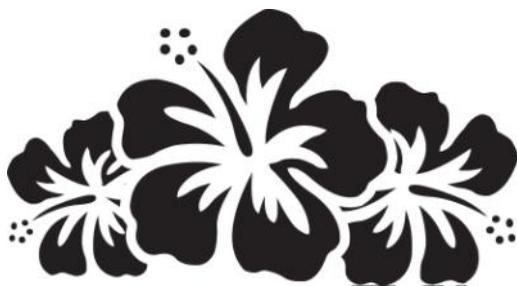
第1回目の演奏会が好評であったため、年一回開催しようとの団結が固まった。柳の下にウナギはいるのか？

毎回、ハワイアンの曲の選定がたいへんであるとともに楽しみでもある。

今回は、年齢とは裏腹に声は細くなってくる。歌を聴かせるために、私は14日間大好きなアルコールを絶った。来場して下さった皆様には、その違いは分から

なかったと思うが、本人は禁酒の効果はあったものと考えている。

今まで、演奏したハワイアンの音楽は、6枚のCDに収録され記念として残している。



炎精の劍 えんせい つるぎ

山田 遼

唐の元和年間のことである。

らくよう洛陽から長安に至る街道筋の南側に、たいくわ太華山がゆったりとそびえている。その麓に小さな宿場があった。

晩秋の傾いた日差しが太華山の長い影を伸ばすと、その中にすっぽり包まれるようなささやかな集落で、村はずれの一軒の旗亭には、青い酒旗が吊るされていた。

乾いた冷い秋風が、時折り吹き過ぎる。

太華の山裾を下り、一面の芒すすもの原を白くなびかせながらドツと通り抜けると、くすんだ酒旗が竿先でぐるぐると翻える。

陽はすでに山陰に隠れていて、一面に秋枯れた白っぽい明るさの中で、突き刺すような寒気がどこまでも

拡がっていた。

人の行き来が途絶えた街道を、西方から馬に乗った人影が現われたのは、ちょうど亭主が、店を閉じようと戸口へ出た時だった。

騎乗したその姿は、ひどく緩慢な動きで次第に近づいてきた。

見ればこの寒さの中で、肩のあたりに灰色の刺子の布をかけているが、あとは青い葛布の頭巾に白い木綿の長衣、黒い組紐の帯あらがわに粗皮くわの履をはいているだけである。

乗っている馬といえは、とても長途の旅には耐えられそうもないほど痩せ衰えている。

ただ、腰に帯びた長剣だけは、不釣り合いに華やかな装飾がほどこされていた。

「親父、まだ開けているのか」

「そろそろ締める時刻ですが……。お寄りになります

かい」

「うむ」

うなずいた旅人は、ゆるゆると馬を下りた。

肋骨の浮き出た腹を大きく喘がせた馬は、今にも前足を折りそうで、いったい飼葉を与えているのかと疑わせるほどである。

手綱を渡すとその男は、おし黙ったまま店の中へ入った。

年の頃は三十才前後、六尺余りのがっしりした長身である。だが、その白皙はくせきの整った容貌は、よほど疲れ切っているらしく、双眼の配りが陰鬱に輝いていた。

馬を繫つないで亭主が店へ戻った時、彼はただ一人で卓子に片肘をついて、じつと炉の火を眺めていた。

「風が出てきましたな。薪きを足しましょう」

「それより、酒がないか」

「何がよろしいので」

「宜陽酒はあるか」

「いざいます」

「親父、実はな鏢びた一文持ち合わせがない。カタになりそうなのはこの劍だが、これは手放すわけにはいかん。あの馬でどうだ」

燻くすりながら燃える太い木の根を見つめながら訊ねたが、亭主が承諾するかどうか、さほど気にしていない様子だった。

「寝酒にしようと一壺暖めてあります。まあお代の方は、この次ということに致しましょうか」

ゆっくり振り向いた旅人はわずかに目を和ませてうなずいた。

本来、明朗闊達な気質の持ち主らしいが、いまその身辺に色濃く漂っているのは、凄気せうきともいうべき切迫したものだ。

黄昏が迫り、さらに風が吹きつのはててきた。

時折り激しくかすめて過ぎる野分の叫びが、屋外の
厳しい寒さを伝えているが、旗亭の中はまずまずの暖
かさだった。

粗朶そだが炉にはぜ、天井と壁に二人の影が大きくゆら
めく。卓上にはやや大ぶりの、黒ずんだ素焼きの壺が
置かれている。

「お客さんは宜陽の方で」

「いや、少し離れた昌谷ハルコウの産だ」

「長安ミヤコからお出ですな」

「そうだ」

言葉少なに応える彼は、壺を大きくあおると、両手
で宜陽酒の壺を持ち上げた。

盃スベに注ぎ足す前に、じつと壺の口から内を覗きこん
でいる。ややあつて酒を盃スベに注ぎ終ると壺を卓上に戻
した。

「むかし、洛陽の街に、壺売りの仙人が住んでいたと

いう噂はなを聞いたことがあるか」

彼は呟くように言う。

「いや存じません」

「街角に蓆むしろを敷き、いくつかの壺を並べて売っていたらしい。いつも夕方店を閉じる時には、壺を片隅に集め蓆をかぶせて立ち去るのだが、ある時、その壺の中へひよいと飛びこむのを、物陰から見ていた者がいた。あんな小さい壺の中に、どうして人間が入れるのかと、不思議に思つて翌日店の主に尋ねたところ、貴方に見られた上は仕方がない。では内へ案内しましょうと、壺の中に導いてくれた。壺中には広々とした天地が拡がり、街も村も田園もあつた。すっかり感じ入った男は、この仙人の弟子になったということだ」

身体が暖まり酒が廻ったせいかわ、旅人の口がほぐれ、滑らかに言葉が続く。

「なかなか面白い話ですな。だがお客さん、それはた

だの宜陽酒の壺ですぜ」

「ふむ、そういうものか」

言いながらも旅人は、やはり壺の口から目を離そうとはしない。やがてそのまま、ゆつくりと言葉を継いだ。

「先ほどから何度も、壺中の天に呼びかけたが、何としても雲が開かぬ」

「では何ですかい。もしも入口が開いたら、中へとびこむおつもりで」

「そうだ」

「じゃその天地が、とんでもない地獄だとしたら」

「まあ少なくとも、ここよりはよほどマシであろうよ」

彼は軽く言つてのけたが、言葉の端々には、苦く澀んだものが含まれている。

しばらくの間沈黙が続き、やがて亭主が口を開いた。「お客さんには、相当な事情がおありのようですな」

「うむ」

彼はようやく向き直った。

「さしでがましいが、ひとつそのあたりをお聞かせ願えませんか」

「それで、何の益になる」

「いえね。夜も更けたもので、一夜の宿りといくばくかの夜食を進せようかと思ひましてな。つまり宿賃のカタに、身の上斬ということぞ」

「なるほど」

彼はしばらく腕を組んで考え込んだが、やがて顔を上げた。

「まあ見ての通り。わしを人を殺め、追われている身の上だ。長安のさる高官の邸に、警固の役で雇われていたが、若殿の愛妾とつねんごろになり、それがバレて何人かの同僚を殺傷して、逃亡しているというわけだよ」

「それじゃ、劍の腕にはよほどの自信がおありですな」

「うむ、劍技にかけては、いささか覚えがある」

「そのお刀にしても、こしらえも立派だが、ずいぶんと使いこんでいるように見えますが」

「わかるか」

「はい。おおよそは……」

亭主は言葉を切って、そのまま黙って炉の薪の回りをかきならしていたが、やがて口を開いた。

「実は私も若い時分、血気にはやって都の遊侠どもと交わったことがございます。お客さんの眼の配り、身のこなしからして、劍の方は達人どころか、並はずれた腕前とお見受けしておりますよ」

「いや、それは亭主、買かぶりというものだ」

旅人は軽く受け流している。

「それじゃ、ひとつ鞆の中身を拝見させて頂けませんか」

「よかろう」

彼は粗皮を黒い漆で固めた鞆に左手をかけた。そして銅製の地肌に、金銀の象嵌をほどこした華麗な柄に右手をそえる。

「抜くだけでよいのか」

「では、その板壁に、何か跡を遺して頂きましょうか」

二間四方ほどの室内は薄暗い。

炉の中で燃える火炎と、卓上におかれた油皿の燈芯の灯りだけである。

彼は無造作に抜刀した。三尺足らずのやや小ぶりな直刀が鋭く光り輝く。しばらくの間、刀身の表裏を打ちかえし眺めてから、ゆっくり立ち上り、背後の板壁の前に立った。

ハッと無言の気合いがほとぼしり、右手が電光のはためくように動き、次の瞬間、劍は鞆に納まっていた。

「見るがよい」

席へ戻った彼の言葉に、亭主は燈明皿を手にして板壁に近づいた。

「なるほど、華岳と刻まれておりますな。それもなかなかの達筆でもって」

亭主は感じ入った様子で言う。

「いわば、宿賃の足しだな」

彼は淡々と呟いた。

宜陽酒の壺が呑み尽され、その後に粟粥の夜食が供され、それからあとは部屋の片隅に置かれた牀台で、眠りにつくばかりという時に、亭主が申し出た。

「実は、少々ワケありの珍しい酒がございます。よろしければご覧に入れまじょうか」

「ああ、見せてくれ」

亭主が奥から持ち出したのは、七、八寸ほどの白い磁器の酒瓶だった。

「昨年の秋、旅の坊さんが残して行きました。何でも、遠い西域の産物だそうで」

卓上の酒瓶は、ほつそりした何とも優雅な姿で、よく見ると表面に、唐草様の模様が浮き出ている。

「それで中味を飲んでみたのか」

「ひと口だけ含んでみたことありますが。何ともいえぬ香りと、口の中が燃えあがるようで、とても飲みこめませんでした」

「他にだれか、飲んだものは」

「ございません。誰しも見ただけで尻込みします。その坊さんの話では、愁うれいを晴らすのに大変な効用があるが、人によってはその身を損なうということで」

「なるほど、面白そうだな」

旅人は言いながら空の酒杯を手にした。

「まず一杯、注いでくれ」

「お飲みになりますかい」

「それは、この目で確かめてからだ」

瓶の口を嚴重に封じた詰めものを抜いて、酒杯に注ぎこまれたのは、濃厚な緑色の液体だった。

たちまち鋭い香気が、あたりに拡がる。

「ふむ、何とも言いがたい香りだな」

酒杯を顔前に近づけて、彼は言った。

「この香りは何かを思い出させるが、親父はどうだ」

「そうですね。そういえば以前にも、同じような問いかけをされたことがありますな。お客さんは何だと思いで」

「うむ」

彼はしばらく黙っていたが、やがて言った。

「これは人の心を荒々しくゆさぶるものがある。色は緑色とも碧色とも言えるが、奥に潜むものは、やはり血潮の匂いだな」

「いや、おっしゃる通りだ。私もそう思います」

「そうか。それでは親父は、人を殺めたことがあるな」

彼は亭主の顔を直視した。

「ごさいますよ」

「何人だ」

「いやもう古い話で、よく覚えちゃいませんが、一人や二人ではありませんな」

亭主はさらりと云つてのける。

「ところで、お客さんの方は」

「わしか、わしは先ほどさる官邸で、警固役をしていたと言つたが、それは表向きでな。実のところは、密命を受けて邪魔者を暗殺するのが本業だった。だから奪つた命は、かなりの数になる」

旅人の口調は、相変わらず平穩である。

「そのお邸を、不義密通で退去なすつたということでしたな」

「その通りだ。若殿の愛妾と密かに通じて、とどのつ

まり手に手を取つての逐電だが、残念ながら直ぐに追手がかった。わし一人なら何とでも血路を開くのだが、連れがあるので結局、完全に追いつめられてしまった」

「それで……」

「うむ、女の言うには、邸へ連れ戻されたら、なぶり殺しは必定。この上は貴方の手にかかつて死にたいとな」

「では、その剣で」

「左様、せめて苦痛の少ないようにと、一太刀でもって済ませたが、これだけは何とも応えた。当然、その場で切り死にするつもりだったが、気が付いてみると、こうして一人囲みを破つて、生き延びているわけよ」

彼の言葉は、さすがに重く沈んでいる。

「そうでしたか。もし壺の中に天地があれば、そこへ逃れたいお気持はよくわかります。ところでいかがで

す。効用のほどはとにかく、ひとつこの酒を飲んでごらんになりますか」

亭主の言葉に、彼は手にしている酒杯をつくづくと眺めた。

「無論、このまま逃げおせるとは思えぬ。追手の手にかかるのも、この酒で命を失うのも同じようなものだ。つまりこの緑酒にそれだけの効能があればの話だが」

彼はつと立ち上り炉端へ歩み寄つて、手にした酒杯の液体を、火の中へサツとぶちまけた。

どつと紫紅色の火炎が立ち昇り、濃密で心をゆり動かすような芳香が、室内を満たす。

そして炎の奥からは、人の叫びのようなものが響いてきた。その中には大勢の悲鳴や泣き声が混じっているようだった。

彼はそのまま、じつと耳を傾けていたが、やがて火

炎の輝きが薄れると、ゆつくり振り向いて言った。

「よし、この酒は十分な効きめがあると見た。一杯、貰うとしよう」

彼が差し出した酒杯に、なみなみと緑色の酒が注ぎこまれた。

盃を軽く眼前にかざした旅人の顔面には、これまでの暗鬱な霧は消え失せ、独立不羈の壮気が漲っている。

「酔裏乾坤 大にして、壺中日月 永しだ」

言葉と共に、彼は緑酒を一気に飲み干した。

変化はすぐには起きなかった。

口中から咽喉もとへ、強烈な灼熱感が駆け抜けたが、やがてそれが鎮まり、心の底に何かが沸々と湧き上ってきた。

目指す獲物に相対する時に、いつも現われる研ぎすまされた闘志。物陰にひそみ、刻々と近づく相手の足

音を数えている時の、押し殺された激情……。その修羅場での闘争心が、みるみる中にふくれ上って、体外へあふれ出した。

そして、それらの情動がいつしか速い流れに変わり、波浪となって押し寄せてくる。

巨大な黒い怒涛は眼前に立ちほだかり、一気に碎れ落ちた。激しく翻弄され、渦の奥に吸いこまれて、意識を失う直前に耳にしたのは、我が手で刺し殺した女の、苦痛と歓喜の入り交わった断末魔の喘ぎだった。

気がついた時、彼はただ一人で河底に佇んでいた。

冷たい水の流れが、膚に心地よくゆつたりと過ぎていき、先ほどまでの激情は、跡形もなく消え失せている。

あたり一面は平坦な砂地で、深い渚の底でありながら、ほのかな明るさが漂っていた。

すぐ右脇の蒼黒い岩肌は、ほとんど垂直にそそり立ち、そのはるか上方の、明るく輝いているあたりが水面と思われた。

見上げるばかりの崖壁が、湖北、四川の境界をなす巫山三千丈の絶壁であることも、この流れが長江（揚子江）のそれであることも、彼にはよくわかつていた。

こうして呼吸もせずに水中にいるのが、さほど奇異には感じられない。これからなすべきことも、すでに頭の中に刻みこまれていた。

華陰の旗亭で飲んだ一杯の酒の効能が、いかに絶大であったかは、この異世界に転移していることで明白だが、まだ碧酒の酩酊は完全に覚めやらず、半ば夢心地が続いていた。

右手に連なる滑らかな岩肌を確かめながら、彼は上流に向けて、ゆっくりと歩き始めた。

幸い河床は比較的平坦で、所々に横たわる岩塊を避

ければ、歩行はさほど困難ではない。ただ視界の及ぶのは、ごく限られた範囲であつて、この湧がどれほどの広さをもっているのか、まったく見当がつかなかった。

間もなく崖壁の間に、背丈ほどの高さの洞窟が出現した。

ようやく通れるほどの狭い裂隙で、足許の砂地が、奥の漆黒の闇へ溶けこんでいた。

これが目的の場所に違いなかった。

片膝をついて中を窺おうとした時、眼下の砂がにわかにならみ、一匹の魚が尾鰭で体を支えて、ゆらりと立ち上った。目の下三尺はありそうな巨大な鯨である。やけに生真面目な眼が、一杯に見開かれている。

「中へ入ってもよいか」

眸で問いかける彼に向けて、この洞窟の番人は、全体でうなずきながら、フウーツと勢いよく砂を吐い

て見せた。

彼はためらわずに足を踏み入れた。

内部は予想以上に広い。とにかく急がねばならなかった。腰の剣がすでに失われている。それに替るものが、この奥にあるはずだった、

ものの数歩も進まぬうちに、青白い燐光を發する小魚が、十数匹現われた。

小犬が足にじやれるように、きらきらと身をひるがえし、もつれあいながら巧みに周囲を照らし出してくれる。

あたりはすべて、蒼黒い岩盤に変わっていた。

右に左にと時折り折れ曲りながら、洞窟はほぼ一定の広さで続いている。足許はまるで削り取ったように平滑だった。

不安や危惧は浮かんでこない。一種の好奇心と強い使命感が、彼の胸をいっぱいに充たしていた。

華山の山裾の宿場では、きびしい探索の手が身辺に迫り、すっかり追いつめられていたのである。

三十余にして非業の死を遂げる……。さして惜しい命ではないが、まったく無意味な死にざまは耐え難い。

胸中には、それなりの志もあり、身についた精妙な剣の技もある。そのすべてが無に帰そうとしていた時、思いもよらぬ活路が開けてきた。やはり天は俺を見捨てなかつたのだと感嘆しながら、彼はひたすら先を急いだ。

およそ一里を過ぎたかと思われる頃、行く手から澄んだ音が、規則的に響いてきた。

次第に音が近づき、最後の角を曲って鋭い光が目に入った時、突然、彼は乾いた空間に踏みこんでいた。

洞窟を満たしていた河水は、一瞬にして消え失せ、ほんの一呼吸の間に、衣服の湿りもあとかたもなくなっている。

大伽藍がそのまますっぽり納まりそうな、巨大な岩窟である。藍紫色の岩床は、まるで磨き上げられたように平滑で、向い側の片隅には赫々と火が燃えて周囲を照らし出し、二、三人の人影が忙しそうに立ち働いていた。

振り返って見ると、たつたいま通り抜けた洞窟は、透明な壁でびったり封じられており、案内を務めた小魚たちが、キラキラとたわむれながら遠ざかって行った。

これまでの律動的な金属音が途絶え、人影の動きがゆるやかにになっている。彼は真直ぐ、燃える火に向けて進んだ。

こちらへ背を向け、片膝をついた後姿は、白い雲冠うんかんを頂き、白銀色の鶴氈かくしゅうをまとい、端然と侵し難い威厳があたりを払っている。

炎々たる紅蓮を隔ててうづくまつているのは、大柄

な二匹の邪鬼じやきだった。ゆがんだ顔に鋭い牙を光らせ、息をはずませている。

豹皮の緋こんをつけただけの半裸体は、全身にしたたる汗にまみれ、隆々とふしくれだった両腕が、それぞれ大小の鉄槌をにぎりしめていた。

岩床に開いた一尺ほどの穴からは、大地の奥底から吹き上げるかのように、激しく火炎が奔騰しており、その色は鈍い暗紅色から鋭い白熱光へと、絶え間なく移り変っていた。

五、六歩を隔てて彼は両手を組み、うやうやしく佇立ちよりつした。

「徐庶じよしよか。よく参ったの」

背を向けた人物が声をかけた。

徐はここへ彼を呼び寄せたのが、この羅浮仙人らふふであることに、ようやく思い当たった。

「お言葉に従い、急いで参上致しました」

「うむ、酒の味はいかがじゃった」

「では、あれは」

「そうよ、わしの仙丹せんたんを崑崙山こんろんの湧き水に溶いたもの

じやよ」

つややかな赫顔しゃがん、長く垂れた華雪かせつの眉、威厳と温容

を兼ね具えた神仙しんじんの、神韻縹渺しんいんひょうびょうたる姿が眼前にあつた。

「実はな、お前の寿命は、この数日で尽きることにな

つておつた。しかし、わしはお前の異才を惜しんで、

生死簿を書き改めさせたのじや。ただそのかわりに、

ひと働きも、ふた働きもして貰わにやならんのでな。

かように剣を鍛えておるわけよ」

仙人は厳かに告げた。

「いましばらく待つがよい。間もなく仕上がるが、そ

の前にお前の血が少し必要じや」

二匹の邪鬼が二かかえ以上もある青銅かみその鼎かみそを運ん

できた。

「その上に手をかざすがよい」

差しのべた徐の左の薬指の先端から、ツツと血が

鼎の中の水面へ滴下した。

「それでよい」

言われて手を引いた時、もう傷痕は消えていた。

再び剣の鍛錬が始められた。

焰の中にある透明な台の上に、一塊の金属が置かれ

ている。

仙人の唱える低い呪文に合せ、渾身の力をこめて、

邪鬼たちが大小の槌を振り下す。四肢の筋肉が躍動し、

汗が周囲にほとばしり、紅蓮の火炎が轟々と息づく。

時折り激しい気合が発せられ、鋭い閃光がどつと乱れ

散った。

巫山の全重量と峽谿の河水を沸騰させるに足る熱量

が注ぎこまれ、次第に剣が形をなしてきた。

「喝かっッ……」

仙人の右袖がひるがえると、宙に躍った刀身は、そのまま鼎の中に吸いこまれた。どうツと水蒸気が立ち昇り、熱気が駆け巡る。

「よしよし、良く出来たわい」

器の中から引き上げ、皎々たる双刃四尺の直刀をあためながら、仙人は満足げにうなずいた。

傍らの邪鬼が手早く櫛と鏝をはめ黄銅の鞘に納める。

「炎精と名づけようかの」

まさにそれは、凝結された白炎そのものであった。

徐は両手で剣をおし頂き、それからずしりと冷やかな爛銀の剣帯にはめこみ、腰につけた。

その途端、にわかには余も背丈が伸び、五体がひと回り以上大きくなったように感じられる。そして右手掌にしっくり適合した劍櫛を握ると、刀身に秘められた圧倒的な破壊力がびたりと制御され、僅かな腕の動きにも、滑らかに呼応するのがよくわかった。

「お前の血が入っておるでな。他人には無用のものじや。呪文などなくとも意のままに動くぞ。ひとつ使うて見るか」

言葉と共に、徐の身体がスツと左へ流れた。そしてこれまで彼がいた床上に、音を立てて鉄槌が振り下ろされた。

次の瞬間、白光が一閃して、鮮やかに両断された柄を握った邪鬼が、呆然と立ちすくんでいた。

「うむ見事じゃ。ただこの剣は神通力を有しておるでの。よつてその意思には、決して逆らわぬことじゃ。では行くがよい。これからなすべきことは、巫山の頂きで瑤姫が教えてくれるであろう」

邪鬼の一匹が案内に立った。

いろいろと尋ねてみたいことがあるが、羅浮仙人は、よしよし今にわかると言つて取り合つてくれない。深く叩頭して、徐はそのまま仙人の許を辞した。

巫山十二峰の肩を並べた峻峻は、暮れなずむ夕靄の中に峩々と聳え立っている。

黄銅色の大きな日輪は、いままさに巴蜀の山々のかなたへ落ちこもうとしていた。

幾重にも連なる峰々の中で、ひときわ群を抜いている神女峰の頂きに、半ば朽ち崩れたような祠があった。巨巖の根方に寄りそう、その小さな祠の濡れ縁に腰をおろして、徐庶は果てしなく拡がる下界を眺め、たえ間なく吹きすぎる風の音に耳を傾けていた。

この高峰の頂上に辿りつき、彼はようやく我に返った心持ちだった。

仙酒を飲んでからの時刻の経過は、まったくわからない。あの日の黄昏といま眼前にある日没の間に、どれほどの時間が経過しているのか、見当もつかなかった。

とにかくここが、現実とは異質の別世界であることは確かだった。そして不思議な宿縁に導かれて、無可有の境地に踏みこんだという実感は次第に強まっている。河中の大岩窟の仙人や邪鬼の姿も、いま眼前にある。壮大な風景も、俗世ではとても起り得ないものである。また常日頃、自分の胸中にあつた言い難い焦燥感や満たされたことのない飢渴の念がすっかり消失している。替って全身の隅々にまで滲透しているのは、静謐な充足感であり、これまで覚えたことのない湧き立つような昂揚であつた。

このような感覚が、矛盾することなく自分の中に同化しているのは、あるいは腰に帯びた炎精の力によるものかも知れない。しかし、剣に支配されているという自覚はなかつた。むしろ、それと一体化することにより大きな自己が芽生えたと感知されていたのである。すでに夕陽は完全に沈んでいた。

はるかに遠い巴蜀の山々も、深い闇の中に没し去ろうとしていた。

いつの間にか、宙天に月が輝いている。よほど天に近いのか、驚くほど大きく輪郭の鮮やかな満月だった。何かの気配を感じて、降りそそぐ月光の中を立ち上った時、ぴたりと風が止んだ。

それが嫦娥の訪れで、サツと拡がった妙なる香りが、その告知だった。

「あなたは楚の襄王せうおうに、とてもよく似ています」

低く囁くような響きが明瞭に聞き取れ、何か精妙な楽の調べを聞く趣きがあった。

「もう千年も前のことですよ。でも、あの人は、もつと繊細な貴公子で、あなたのような覇気はなかった」
声がどこから流れてくるのか、見当がつかない。

「私は、貴女からお指図を受けるよう、申しつかつております」

言いながら徐庶は、す早く周囲に眼を走らせたが、それとおぼしき姿は見当たらない。

「あなたがこの峰に姿を見せた時から、ずっと眺めていました。羅浮仙人の推挙でしたが、わたしは、自分の眼でもって確かめたかったです」

嫦娥の声が近づき、つい眼前にあるように思われた。

その吐く息が頬にふれ、佩環はいかんが鳴り響き、裳裾が足尖をかすめるかのようなだが、あたりはただ一面の月光と、黒い岩陰ばかりであった。

「私は嫦娥、神農しんのうの娘です。神通力をもたないあなたには見えませんが、とても美しいですよ」
少し残念そうに声は告げた。

しかしそのあとに続いた言葉は、深い翳かげりを帯びていた。

「あなたに来て貰ったのは、ほかでもありません。永劫の平穩が約束されているこの土地に、起きるはずの

ない不祥事が持ち上がったからです」

愁いを含んだ声は、さらに一層魅惑的だった。かぐわしい香気が、まるで彼女の息づかいのように眼前にたゆとう。

「姫、私は一命を救って頂いたのです。どうか何なりとお命じになって下さい」

片膝をついた徐が言う。

「では申しましょう。北の雁門がんもんの城内に叛乱が起きました。大守は殺害され、夫人と公主が捕えられています。何か邪悪な力が入りこんだに違いありません。わたしたちのこれまでの努力は、すべて退けられ、賊どもはさらに一層勢力を拡げています。

ですから、あなたの方で、まず夫人と公主を救い出し、一刻も早く叛乱を鎮めてほしいのです。この天地に調和と秩序が失われたら、わたしたちは滅びるしかありません」

炎精が与えられた理由が、ようやくわかった。しかしこれはずいぶんと過大な要望だった。

「ご期待に添いたいと思いますが、それは私一人の手にあまりまず」

「いえ、あなたはすでに充分な力をお持ちです。決して惧れることはありません。自信をもって事に当って下さい」

言い終わったところで、嬌姫の気配が忽然と消失して、山頂には再び颯々さつさつと風が吹き始めていた。

月は宙天にかかり、低く北斗星がまたたいている。徐庶は嬌姫に呼びかけながら、さらに前へ進み出ようとして、ようやく思い留まった。

何しろ脚下は三千丈の断崖絶壁である。

立ちこめる雲の切れ間から、西から東へ長江が深い巫山峽を形ち造り、月の光を受けて静かに輝いているのが望まれた。

雁門といえはるか数千里の北方の要衝である。そこで発生したという大規模な叛乱に、単身乗りこんでどうなるというのか。それとも、姪姫には何か秘策でもあるのだろうか……。

疑問は尽きないが、現状は何の答えも返ってこない。選択の余地はないらしい。窮地を逃れたかに見えた彼に課せられたのは、さらに大きな危難だった。

天性の剣技に磨きをかけ、無類の腕前と自負していたが、結局のところ惚れこんだ女を手にかけて、九死に一生の形でこの異界へとびこんだのである。

これまでであれば、進退窮まった所だろう。だが、現在の徐庶の胸中には、いかなる難題にも動揺しない確固たる気力が漲っている。そこには炎精の魔力も関わっているかも知れない。しかしそれだけではなかった。彼は己の心の奥底で、ついに真の自我をさぐり当

てたのだと確信していた。

徐はかすかな姪姫の視線を意識しながら、崖縁を離れた。

振り向くといつの間にか、一人の老人が目の前にうずくまっている。湿った土の匂いが、あたりに漂っていた。

「何者だ」

褐色の長衣をまとい、藜の杖をついた老翁は、さらに低く叩頭してから顔を上げた。

いかにも好人物らしい柔和な容貌だが、顔面は深い皺に埋もれ、長く垂れた鬚には、びっしりと錢苔が生えていた。

「この峰の土地神でございます。姪姫さまからご案内せよと申しつかり、まかりこしてございます」

この土地神は、大変な名誉と思っっているようで、す

つかり恐懼きようくしながら説明してくれた。

山西に築かれた雁門の城塞は、北の辺境に対する重要な拠点であり、同時にまた別世界への関門でもある様子だった。

安穩なこの天地に、さほどの武備があるはずはないが、その大部分がこの雁門に集中されていたという。

叛乱は何の前ぶれもなく突発した。

都から巡察に出向いてきた驃騎將軍崇儀すうぎを首謀者とした三万の将兵が、一斉に蜂起し、天子の末弟にあたる大守呂障ろしょうとその側近は、抵抗の余裕もなく討ち果たされ、大守夫人と若い公主が、城内に幽閉されているというのである。

「で、きやつらは、一体何を望んでいるのだ」

「それでございます。都へ使者が参り、崇儀に帝位を譲れと申したよしにございます」

「つまり、篡奪さんだつを目論んでいるのだな」

「さようでございます。これだけの軍勢に太刀打ち出来るものはありません。その上、向うには張天士ちやうてんしとか申す軍師がおりまして、これがなかなかの神通力を操る曲者と聴いております」

「ではその、崇儀と張天士を倒せば、叛乱は終息するというのか」

「はい、貴方様は炎精の名剣をお持ちでございます。実は私めも、劍の鍛錬にあたり、多少のお手伝いを致しております。どうか貴方様のお力と劍の威徳でもって、ぜひこの大役を果して頂きとう存じます。

本来なれば、雁門の土地神もここへ参るはずでございますが、どこぞへ封じこめられておるようで、いくら呼んでも応えがございません。私めに出来ますことは、幽閉されている李夫人の許へ、お送り申すことだけでございます」

どうしてこんな老翁が、長い道程を同行出来るのか

と案ずるまでもなかった。

「まずこちらへ、お出でなされませ」

土地神は、祠の扉をゆっくり押し開いてその中へ案内した。

扉の格子から射しこむ月光で内部はほの明るい。朽ちた床の上に立つと、正面にはささやかな祭壇があり、その背後は苔むした大きな岩根である。

祭壇が少しずつ横に動かされると、やがて身をかがめてようやく入れるほどの、狭い洞窟が現われた。

「この穴を抜けますと、向う側は雁門の城中となっております。ほゞ三千里の道程ではありませんが、貴方様ならば七十歩ほどでもって行きつけましょう。ただ、通力をお持ちではないので、途中は決して声を立てぬよう、お願い致しまする」

土地神はくどく念を押した。

「よしわかった。それで行先は、城内のどこへ通じて

いるのか」

「はい、李夫人の部屋でございます」

なぜ三千里が七十歩なのか、訊ねてみても始まらない。この異世界の風変りな仕組みに、徐はさほど驚かなくなっていた。

「少々お待ちになつて下され」

土地神は祭壇の上に置かれた、小さな振鈴しんれいを手に取った。軽く振ると澄んだ音が、いかにも嬌姫まっを祀るにふさわしい。

洞窟の前に跪いて、鈴を鳴らしながら静かに洞中へ転がすと、可憐な音が尾を引いて闇の中へ消えて行く。じつと耳を傾けていた土地神が、ハッと身を震わせた。ドツと虚ろな哄笑ともざわめきともつかぬ響きが、伝わってきたからである。

「やはり、何か邪魔が入っております」

「そこを退け」

徐は老翁をおしのけて、洞窟の前に立った。

「七十歩と申したな。途中で分れ路はないのか」

「ごいません」

もはや逡巡する時ではない。

右手を劍の柄頭にそえ、腰を落して呼吸をはかっていたが、やがて徐はさつと身を翻して、闇の中へ踏み込んだ。

瞬時にして、周囲の光が消滅した。まったくの闇黒の中の足許は、固い巖の感触である。

ゆつくりと足先で探りながら、二歩、三歩と足を進めた時、ぐらりと天地が逆転した。

—墜おちる—と思つた時には、もうその感覚は消失していた。それはごく短時間の眩暈とでもいふべきものだった。それからしばらくは何事もなかった。

徐は自分が呼吸をしていないのに気づいた。巫山峽の河底でもそうだったが、別に苦しくはない。しかも

この暗黒の洞内は、光も音も匂いもない。空虚そのものである。軽く手を振ってみても風は生じない。やはり大気も存在していなかった。

念のために足許を探ってみると、手に触れるものは何もない。脚下に岩床があると思つていたが、實際はまったくの虚無の空間であつた。

しかしながら、上下や方向の感覚は確固として備わつていて、狭い洞窟の中を一步一步進んでいるように感じられる

三十歩を数えた時、突然、背後から迫ってくるものがあつた。

—虎と—

充分に力を矯め、次の瞬間グワツと襲いかかろうとするのは、まさしく巨大な猛虎の気配である。

劍が鞘走り、徐は振り向きもせず後方を薙なぎ払つた。したたかな手ごたえを覚え、得もいわれぬ心地よい戦

慄が右腕から全身に走った時、もう幻の兇獣は消え失せていた。

ほゞ六十歩を過ぎた。

―あと僅かだな―と思つた時、にわかにも脚が重くなつた。まるで千斤の重錘をとりつけたようで、びくとも動かない。同時にやはり後方から激しい熱気がどつと襲つてきた。

徐は無言の気合いをこめ、力一杯剣鞘を叩いた。

音もなく銅吼が轟き渡り、とたんに両脚の束縛が解け、熱気も失せた。

障害はそれで終りだつた。

最後の一步を踏み出した時、足裏の感触が木の床に変わり、光と大気が一時に甦つた。

さして広くはないが、豪華なしつらえの部屋である。

その中央のあたりに、彼は忽然と立つていた。そして眼前には、濃い青緑色の裙子に同色の軽衫をまとい、

驚愕の表情を浮かべた。四十歳ほどの豊満な貴婦人の姿があつた。

「貴方は……」

その眸は決して怯えてはいない。やゝ蒼ざめて見えるが、威厳を失わぬ気丈な態度だつた。

「大守夫人でございますな」

うなずくのを見て、徐はつとめて穏やかに語りかけた。

「姪姫さまの命を受け、貴女がたをお救いするため参上しました。決して、ご懸念には及びません。どうか私をご信頼下さい」

彼は自ら名乗り、これまでの経緯を手短かに語つた。

生気を顔面に甦らせた夫人は、人目についてはなりませんと、徐を奥の部屋に導いた。

深い紫紅色の絨毯を敷きつめ、綾絹の帳下には華麗な寝台が置かれている。枕許の青磁の香炉からは、一

筋の香煙が静かに立ち昇っていた。

厚い緞子の壁かけを少し動かして、外の様子を窺っていた彼女は、やがて戻ってきて、小さな床几をすすめた。

ほの暗い短檠たんけいの光が、その面おもはやつれた姿態を濃艶濃艶に浮び上らせている。

「貴方のお力を信じないわけではありませんが、間もなく娘の生命が失われようとしています。もう手遅れではないかと……」

夫人は途切れがちに、さし迫った状況を告げた。

城砦の正面に築かれている主楼閣の上で、この払眺、公主・英蓮が軍門の血祭りにあげられるというのである。

榻上うすまに泣き伏すのを見下ろして、徐は思案を巡らせた。

「この部屋の見張りは」

「外の回廊で、いつも二人ほど張り番をしています」

「扉は外から閉ざされていますな」

「はい」

「では、これから扉の前で身体の苦痛を訴えて、見張りを中へ引き入れて頂きたい」

手筈を打ち合わせると、徐は外部へ通じる扉の傍らに、びたりと身を寄せた。

取り乱した姿で夫人が扉を叩く、覗き窓を通して二言。三言やりとりがあり、にわかはその姿が床上に倒れ伏した。

直ちに扉が開き二人の軍兵がとびこんできた。銀灰色の兜が、燭台の灯に照り映える。彼等は徐にはまったく気付かず、夫人を抱え起して。奥の寢室に運びこもうとした。

「動くな」

弾かれたように振り向いた二人は、徐の姿を見るや

いなや夫人から手を放し、身を翻えして一斉に剣を引き抜いた。

「無駄な手向いはやめた方が良い」

後手に扉を閉じながら、徐は警告した。

「何奴だ」

「一体、どこから忍びこんだ」

共に屈強の若者で、かなりの腕前の持主らしいが、思いもよらぬ闖入者ちんにゆうが果して一人なのかと周囲に気を配っている様子で、容易に仕掛けてこない。

「言う通りにすれば、命までは取らぬ」

言いながら徐は、無造作に前へ出た。

「くそッ」

右手の方がひと声喚いて跳躍した。

一瞬、その身体は宙に停止し、そのまま床に叩きつけられる。鏘然しやうぜんと鞞鳴りが響いた。

真二つに両端された兜の間から、どっと脳漿がほと

ばしり、蘇芳すおうをぶちまけたように、血潮が床上を染めた。

「貴様もこうなりたいか」

低く押えた言葉には、すさまじい凄愴の気がにじんでいた。

徐はこれまでに随分人を斬っている。時には人骨を断つ快感に陶醉し、切り口の見事さに見とれたこともあった。しかし今はまったく違う。すでに昂揚も陶醉も完全に超越していた。

ほとんど無意識のうちに身体が動き、自分で剣を使っているのか、あるいは剣に操られているのかわからない。まさに人と剣が混然と一体化した境地だった。

相手はハッと身を沈めてとび退り、やにわに夫人を抱きかかえて人楯とした。

「見ろ。このお方も道連れだぞ」
それは悲鳴に近い叫びだった。

「ふむ、そうかな」

徐はつかつかと近づいた。

相手は、夫人の首に刃を当てたまま、じりじりと後退して、ついに壁際に追いつめられた。

「刀を捨てる!!」

叱咤しったと同時に軍兵の腕に力がこもった。

だがそれより早く、一筋の剣気が走り、柔肌に食い

こもったとした刀が戛然かつぜんと碎け散った。

「助けてくれ」

がっくり膝を折った軍兵が助命を乞う。

「別状はございませんか」

徐は崩れ落ちようとする夫人を支えた。

「恐ろしいございました。でもお陰で助かりましたわ」

気を取り直して礼を述べる声は、意外にもしつかりしている。

「もはや、時刻が迫っております。直ちに公主を救助

に参りましょう」

「私も参るのですか」

「そうです。この有様が知れたら、貴女にも危害が及びます」

公主の処刑まで、どれほどの余裕があるのか判然としない。軍兵に問い質したが、まったく知らない様子だった。

徐は彼に命じて、屍体の鎧を取りはずさせ、手早く身につけた。

鉄甲を固く鎧い、剣を腰に帯びると、さらに一層鬪志がかき立てられる思いである。

打ち割られた兜は使えないので、生き残った方をを召し上げて徐は命じた。

「では楼閣へ案内しろ。途中で見咎みとがめられたら、大守夫人を召し連れるように命令されたと答えろ。おかしな振舞いがあれば、即座に斬る」

部屋を出る時、床上に横たわる屍体に目をやって

「これまで、随分と目をかけてやった若者でしたが…

…」

と夫人が呟いた。

〈続く〉

表紙の言葉

『砂嵐の日（サハラ）』

埼玉県 鈴木 啓之

今年の2月、サハラ砂漠の広大な光景を見てモロッコに出かけた。ところが砂漠のホテルに着いた翌日から、風と雨がたたきつける砂嵐にみまわれた。滞在予定の4日間はホテルに缶詰めのまま過ごすことになってしまった。どんよりした灰色の空。風がつよい。地を這うように砂粒が吹き飛ぶ。強風に叩かれて木が倒れそうだ。ところが、この苛酷な天候のなかを、ラクダを連れた地元のひとが長い民族衣装で体を包み、風に逆らって黙々と歩みを進める。感動的な光景である。帰国後、その感激の思いを描きたくて絵筆をとった。あの崇高な光景に出会えたのは天の配慮であったのか。いまはそう思えてならない。

（第六十三回 医家美術展 展覧作品）

終末期の患者―命の限り

浜名 新

日本は長寿社会になり、年間120万人が亡くなる多死社会に突入し、死に場所として病院が断トツで、8割を占めているようだ。

多くの病院では、さまざまな感染症の重症状態、がん性疼痛を伴うがん進展増悪状態、なんらかの手術後の増悪状態、呼吸不全・心不全の進展・増悪状態、神経難病が進展し肺炎などを併発した重症状態などに対して、精力的な治療による延命と、寿命との壮絶なせめぎ合いで、1次的に回復する人はいるが、多くの場合病状が再燃して、亡くなる人が多い。まさに苦しみを伴う死闘といえる。最終的に、旅立たれることにより、ようやく苦闘から開放される。

昔風の老衰による自然な死に方は平穏死などと提唱され、在宅や特別養護老人ホームなどで、看取りとして行われているが、頻度としては少数の域に留まっている。療養型病院においても、食べられなくなれば、栄養管を留置しないで、点滴（手足の静脈、あるいは皮下注射）で最低限の水分を補給していけば、喀痰も少なく、平穏

で、安らかな、老衰による死を迎えることが出来る。生活の場・憩いの場として自宅での死亡頻度は1割強と推定される。少ない理由は、病人が、家族に迷惑をかけたくないから最後は病院で、と考える人が多いからである。自宅で生活する際、介護や療養の面で、マンパワーの問題、訪問診療、訪問看護、訪問介護の面から、24時間体制で診てくれて、病人が安心して任せられる施設が充実していないのも、大きな理由かもしれない。

独居生活の人で、いま自立して生活できていれば、在宅での生活に生涯こだわる人が大多数と思われる。在宅での孤独死は想定内と思われるが、家族、親兄弟・親戚、地縁の方、福祉などとの連携が必要であろう。死は多くの人に迷惑が及ぶからである。

最近体験した事例を紹介したい。

息子は在宅で、がん性疼痛を伴う大腸がん末期の母親（80歳代）を介護していた。訪問診療で医師に診てもらい、麻薬の貼付剤・舌下錠で腹痛を抑えていた。だが、母親の病状が日増しに悪くなり、何箇所かに床ずれが出現し、食事を摂ると嘔吐し、脱水になり、傾眠状態になった。「今以上の介護が出来ないので、病院で面倒を診てもらえないか」と訪問診療の医師に訴え

た。医師は紹介状をしたためた。病院での入院相談を経てようやく入院となった。患者は療養病院に入院後まもなく亡くなった。訪問診療の医師は、在宅で、看取りたかったに違いない。しかし、息子には仕事があり、これ以上在宅で世話できない母親への思いなどから、最期は病院で介護してもらおう道を選択したのである。訪問診療の医師は、病人の厳しい状態を把握し、かつ孝行息子の願いを無視するわけにはいかなかったようだ。

介護には、介護される人に対する食事・排泄・清拭・入浴などに、人手が必要である。今の日本の家庭では、老親のみの家族、独居住まいの人が多く、2世代、3世代の複数世代の家族構成は稀であろう。在宅介護では介護保険を利用するにしても、老老介護（夫婦のどちらかが介護）、老子介護（老親の実の子供は介護で婚期を逸し独身をとらし、あるいは、介護でやむを得ず会社を休む回数が増え、退職勧告され、離職する頻度が高くなる）にならざるを得ず、介護人の負担が重くなるばかりである。

高齢者の日常生活動作が低下し、あるいは病気がちとなれば、介護人の負担が増え、同時に訪問介護、訪問看護、訪問診療が必要となる。どうしてもコストが

増える。病人への十分で、安心な介護・治療の面を考え、在宅での訪問介護・治療を断念して、病院に入院・治療する道を選択する人が大多数となるであろう。

療養型病院に転院してくる患者の供給先として、救急指定の一般病院、特別養護老人ホーム（特養）、介護老人保健施設（老健）、在宅などが主たるものである。例えば、一般家庭で高齢者が肺炎、外傷による骨折、脳卒中発作、がんの症状、神経難病の増悪・発熱を伴う肺炎、摂食不良から脱水でレベルが低下すると、家族は病人を救急指定の一般病院に搬送してもらい、一定期間入院・治療してもらおう。病状が改善し、口から水分栄養を摂ることができ、日常生活動作が自立できなければ、在宅へ戻れる。

しかし、治療で臥床状態の期間が長く、日常生活動作に必要な筋力が低下し、自力で出来なくなり、同時に嚥下機能が低下し、むせがひどくなり誤嚥性肺炎を併発し、繰り返す場合、あるいは、認知機能が一気に低下すれば日常生活動作に支障を来し、在宅復帰は厳しくなる。

そこで、一般病院の担当医は、本人・家族に水分・栄養保持の手段として、胃に管を留置する（経鼻胃管の留置、あるいは内視鏡的に胃ろうを造設し胃ろう菅

の留置) 経管栄養の方法、中心静脈にカテーテルを留置し中心静脈栄養を図る方法を勧め、どちらかの方法をチョイスするよう要請する。そして、本人・家族がチョイスした方法を、担当医の所属する科、あるいは専門科で、水分栄養保持の補給路を「しらせてもらう」。

病人に水分栄養補給路が確保されると、担当医は入院期間を短縮させるため、「もうこれ以上当科で行う治療・処置がありませんので転院してもらいます」との決めせりふで、転院を勧める流れが一層強くなってきた。つまり、厚労省が勧める医療の分担化(一般病院から療養型病院へ)が定着してきた。

退院後引き続いて、病人に治療(酸素吸入・肺炎などの感染症の治療とか)、処置(経鼻・胃ろう管・気管チューブ・膀胱留置チューブ・褥瘡処置など)が必要ならば、療養型病院が候補になる。担当医は診療情報提供書を作成し、院内の医療福祉相談員に手渡す。医療福祉相談員はそれを複数の療養型病院にファックスする。療養型病院の医療福祉相談員は家族へ連絡し、都合の良い日時に病院に来ていただき、入院後担当する医師が同席し入院相談を行う。同時に病院の内部を見学していただき、折り合いがつけば双方の病院・家族の都合のよい日を転院日とする。病院間の医療相談

員のネットワークの運用は極めて重要といえる。

転院当日あるいは、その前日、先方の病院の医療相談員から、患者の容態が増悪して、転院を延期したい旨を伝えられるときがある。症状が落ち着けば、忘れて頃に転院してくるのだが・・。転院の延期を決めたのは、担当医の患者の病状の判断からであろう。良心的対応といえる。

しかし、反対の場面も最近しばしば遭遇する。つまり、患者の容態が日に日に増悪し、寿命の一步手前の状況と評価されても、転院の日時が決定しているからと、かまわず転院させる事例がある。

この場合、療養型病院の担当医は、転院当日、炎症値の上昇(CRP値・WBC値)と胸のX P撮影での浸潤陰影の所見から、肺炎が持続・再燃していると評価すれば、転院の日から点滴・抗生剤などを鋭意継続させねばならない。家族に治療の継続を説明しなければならなくなる。

あるいは、転院時のバイタルサイン(生命徴候)から判断して、がんの終末期、あるいは心不全あるいは呼吸不全の終末期と評価すれば、亡くなる公算が高くなり、「寿命(終末期)が近づいているので覚悟して下さい、遠くへ出かけないで自宅で待機して下さい」と

伝えざるをえない。家族は終末期が近づいたとの宣告に嘔然とさせられ、言葉もない。何のための転院であったか！一般病院での在院日数を短縮するだけの意味しかない転院だとしたら、弱者である患者・家族をないがしろにした対応といわざるを得ない。患者本人・家族の負担を無視し、医療不信を増幅させる原因となるに違いない。あるいは、厚生労働省の医療戦略に沿う措置です、と強く弁明するかもしれない。

読売新聞（27年8月4朝刊）の記事によった。

国立がんセンター、がん連携拠点病院409施設の2013年の診療実績では、がんと診断された症例62万9491例（国内のがん全症例の約70%）で、高齢化の進行で増加し前年より約3万9千例増加、最多は大腸がん（9万1530例）、胃がん（7万5265例）、肺がん7万3017例）となった。男性では①大腸がん（5万4千強）、②胃がん（5万2千強）、③前立腺がん（5万強）、④肺がん（5万強）、女性では①乳がん（6万4千強）、②大腸がん（3万7千弱）、③肺がん（2万2千強）、④胃がん（2万2千強）が上位4つを占めたという。長寿社会になり、2人に1人ががんに侵される時代だという。

前記新聞の、同年8月29日朝刊の健康寿命の記事によった。

日本は男女共に健康寿命が世界で最も長いという調査結果を、米ワシントン大などの国際チームが英医学誌「ランセット」に発表した。健康寿命は病気など日常生活が制限されることなく、自立的に生活できる期間。世界保健機構（WHO）が健康の指標として提唱。日本もその延伸を健康目標の柱に掲げている。健康寿命上位5カ国（2013年）、男性 ①日本71・11歳（平均寿命80・05歳）、②シンガポール70・75歳（79・71歳）、③アンドラ73・39歳（80・88歳）、④アイスランド69・72歳（80・81歳）、⑤イスラエル69・46歳（80・25歳）、女性では①日本75・56歳（86・39歳）、②アンドラ73・39歳（86・62歳）、③シンガポール73・35歳（84・03歳）、④フランス72・32歳（84・91歳）、⑤キプロス72・22歳（84・73歳）。2013年の世界の健康寿命の平均は男性60・59歳、女性64・13歳で、1990年と比べて、男性は5・19歳、女性は5・62歳延びた。数値は大半の国で改善しており、感染症対策などが進んだのが原因と分析している。

がん、さまざまな難病、心臓病、COPD（慢性閉塞性呼吸器疾患）、脳卒中、事故、災害などに、人は突然、場合により、徐々に侵されて症状を現し、当人のみならず家族、兄弟、親戚をも巻き込んで、その後の人生、生活を苦しめます。まことに、病气や事故は不条理なものです。生きとし生きるものは逃れることもできません。

ある重複がんの終末期で、転院に伴う一期一会を思いだすままに綴りました。転院してきた翌日の早朝に亡くなった、重複がんを患っていた男性患者、清国（仮名）さんがいた。

肝臓がんと、胃がんとを併発した70歳代の清国さんは、午前11時前に某自治体病院の消化器内科から転院してきた。以前、いただいた紹介状には「手術適応が無く、胃がんと肝臓がんの末期の状態で、今後の経過を貴院でお願いしたい、云々」

早速、転院してきた患者が仰臥している個室に、診察するために入ると、

「ハーハーとせわしい呼吸する音が聞かれ、時折、深い、失調性の呼吸が診られた。」

同時にのどにつばや喀痰が溜まり呼吸のたびごとに

ゼイゼイと苦しい喘鳴の音が混じって聞かれた。苦しいか、口は開いたままで、苦悶の表情が見て取れた。

額に手を添えると熱感がジワツと手に伝わってきた。手首の動脈を触れると脈がせわしく、ときに中断して触れ、脈の不整があるようだ。

腕には点滴ビンとチューブにつながった留置針と、膀胱に留置されたバルーンの管が出ている。顔を覆う酸素マスクが装着され、酸素が毎分3リットル出ている。鼻の穴から胃に留置された管が出て胃液を排出させている。

意識レベルは日本昏睡分類でⅢ―200と低下し、痛み刺激を加えると手足を多少動かし、顔をしかめるが、刺激がされれば元の状態に戻る。こん睡状態に悪くなっていた。

目の輝きがみられず、目の表面の角膜には薄くにごった膜を張ったようにくすんでいる。医療関係者が呼称する死に目に近づいているようだ。結膜・皮膚の色は黄色に染まり、黄疸指数も増加しているに違いない。肝癌の進行が推定された。

病衣を少し開き、心肺を聴診すると、呼気と吸気のためごとにバリバリと奇妙な音が聴取され、肺胞の炎症や細い気管支の管に浸出液や痰が移動する雑音が混

在している。心臓はトツ、トツと早鐘を鳴らしたように気ぜわしい心拍の音に、異質な心臓の音が聴取された。腹部を診ると、はちきれそうに腹が膨らんでいる。左右に少し動かすと液体が移動するのか、タブタブとし、ガスも充満しているようだ。腸の動きは少なく、腸管麻痺に移行しているのかもしれない。肝心な血圧は最高血圧が80 mmHg以下に低下し始め、尿の排出量も無いに等しいようだ。要するに、容態は進行性に増悪し、終末期が近づいていると評価された」

——以前いただいた紹介状の様子と比べれば、相当悪くなっている。がんの終末期だから止むを得ないが、それにしても意識障害も三桁と昏睡状態で、血圧が下りだし、尿も出ていないではないか。終末期の状態へ悪くなっている患者を承知の上で、よくもまあ、転院させたことだ。これじゃわざわざ、当院に死にきたようなものじゃないか！ 医師はどう思っているのだろうか。患者や家族は浮かばれないな。ひよっとすると、今夜、危ないかもしれないぞ。しっかりと、病状を家族に説明して、了解してもらいたい、覚悟してもらわんと、トラブルになつてはかなわんし……。

入院時に行く医療側と家族側との打ち合わせで、僕は、先ほどの診察所見を念頭に、家族にどう伝えたら

理解してもらえるか思案した。

「当院に転院していただき大変でしたでしょう。担当する医師です」

「よろしくお願いします」

「転院された当日、悪いニュースをお伝えしなければならぬことを、お許し下さい」

「——」

「拝見しますと、意識レベルはこん睡状態で、その他の生命徴候、つまり呼吸・脈拍・血圧・尿量などの所見から判断しますと、相当悪い状況になっております。終末期が近づいていると思います。覚悟してください」

「まあ！」と妻は一瞬絶句した。

不用意に言った『覚悟して下さい』という文言が、今まで看病して疲れ切っていた母娘（おやこ）の気持ちを、ズタズタに切り裂いてしまったのかもしれない。もう少し、穏当な表現をするべきであったかもしれないと、僕は後悔した。

すると、母親と一緒に付き添っていた30歳くらいの娘は、さめざめと泣きだしてしまった。妻の目にもひかるものが浮かんでいる。

「事実を率直にお伝えして、お気に障ったとしたら

ごめんなさい。転院する前に担当医から病状説明を受
けませんでしたか？」

「いいえ、先生から、『これ以上の治療が無いから転
院しましょう』といわれまして、命が差し迫っている
とは一向に申されませんでした」と妻が応えた。

「病状経過など知らされなかったというわけですか」
「転院の日時が本日の午前中と決まっております、先生
からじかに転院を延期する指示はありませんでした。
家族は指示に従うだけでした」

「本日、担当医が診察していれば事態が変わったか
もしれません」

「夫の容態は差し迫っているのでしょうか」

「車の搬送で症状が悪くなる可能性があります。例え
ば脳卒中発作で、くも膜下出血が再出血するとか、シ
ョック状態になるとか経験します。でも車の搬送だけ
で容態が変化したとも思えません。少しずつ容態が悪
くなって来た、と判断したものですから」

『「覚悟して下さい』といわれ、ショックでした。が
んの末期なので回復するとは思っておりません」

「病状から命の終焉が近づいていると判断しました。
厳しい容態です」

「ほんとに命が指し迫っているのですか？ 転院し

た当日、いきなりそう指摘されてびっくりです。がん
の末期ですから覚悟しておりますが・・・」

「当院は療養型病院で終末期医療を担当し、ケア中
心で、治療は全て対症的な対応となります」

「対症的とは」

「原病を治療し、根治療法をする方針はありません。
前院でおこなわれていた対症的な処置を続けます。食
止めにして、酸素吸入、輸液の点滴を続けます。留置
バルーンからの尿量がすく減ってきております。その
原因として血圧が低下しだしております」

「血圧が下り、尿が出ないとはとても心配です。何
か手立てが」

「そうですね、強心利尿剤を使う方法があります。
つまり、血圧を上げて、腎臓への血流量を増やし利尿
を図る試みです。しかし、どのくらい血圧が上がリ、
尿量を増やしてくれて、容態が改善して、持ちこたえ
るか見当が付きません」

「転院した日に亡くなるのは、縁起でもないですわ」
「ごもっともです」

「手のほどこし方がありませんか」
「そのように判断します」

「呼吸状態はあえぐような、失調性の呼吸状態で、

悪くなつております」

「先方の先生が病状をはつきり知らせてくれないのですから」

「あまり意味がないかもしれませんが、延命を図る試みとして、強心利尿剤を使いましょうか。少し生存時間を延ばす効果はあるかもしれませんが」

「でも危ないんでしょう。少しでも延ばして下さいませんか。転院した日に死ぬなんて嫌ですわ」

「試みてみます」

「寿命の瀬戸際に陥った患者を、無理やり転院させるとは、あまりにもひどい仕打ちです。納得できません」

「確かにがん末期で、命の終焉が近づいているのに、わざわざ転院させるとは理解できません」

「まだ、大丈夫と思つておりました。お話を伺いましてショックです」

「早速、強心利尿剤を使つてみますが、期待されても困りますが・・・」

「よく分かりました。結果はどうあれかまいません。使つてください。ここまで来たら主人には1日でも生きて欲しいですわ」

妻は、夫がこのまま亡くなることに、到底納得でき

ない様子でした。

「最悪の事態もあります。お身内の方にご連絡していただき、可能なら来院してもらつてください」

「承知しました」

「ベッドサイドに付き添われない場合、ご自宅で待機していただきます」

「はい」

「もし、万が一、心肺停止状態になつても、心肺蘇生術を行います。心臓マッサージで肋骨がしばしば折れて胸腔内に出血します。がん死ですから、蘇生することはありません。気管内挿管して人工呼吸器の使用もしません。がんに攻められて散々苦勞して生きてこられました。患者さんの尊厳を敬い、静かに看取つていきます」

「よく分かりました」

母親は娘に言い聞かせるように話しかけた。

「あやこちゃん、今、先生のお話を、聞いたでしょう。転院などさせるべきではなかったね。もう時間的に迫つていて、危ないようだよ」

「父はがんで攻められて、転院そうそう亡くなるなんて、あまりにもかわいそうです」と娘は悔し涙を浮かべていった。

妻は押しだまつたままうつむいてしまった。涙をこらえているようだった。

妻の脳裏に、夫が体調を崩して、会社を休みがちになった当時のことが思い起こされた。

——夫は食欲がなくなり、食べた後、トイレに駆け込み、無理やり食べたものを吐いていたようだ。家族に心配させまいとした心配りであつたのであろう。トイレに入る回数が増えていた。よく吐いた。しばらくすると、疲れた表情になり、会社を休むようになった。

「消化器内科に診てもらいにいきましよう。病気が手遅れになったら困るでしよう」と夫に催促した。

「なーに、体調が悪いだけよ」と夫は強がりを行い、病気の心配を遠ざけて、病院を受診しようとはしなかつた。しかし、ほほがこけ、体重が減つてきた。内心あわてていた。がんで亡くなつた人のうわさを思い出していた。新聞の死亡広告の欄を見るようになっていた。

「いつか健康診断で糖が出たと言つていたでしよう。糖尿病が一気に進行したのかもしれないわ。ひどくなると、がんみたいに痩せるといふわよ」と妻は聞きかじりの情報を口にした。

妻と娘から受診の催促の集中砲火を浴びて、夫は駅

前の消化器内科を受診した。後期高齢者保険証をさしだした。受付嬢は調査票を手渡し、

「初診の方は、待ち時間に記入してください」

先生は調査票を一瞥して、改めて問診を行うと、大体の病歴を把握したようだ。

「急に体調を崩されたようですね。それでは診察台に仰向けに寝てください」

先生は、みぞおちの近辺を入念に触診した。硬いシリコリのようなものを手の指に感じた。肋骨の下辺りに肝臓が触れる。腫れてサイズが大きくなっているにちがいない。

触診が終ると、

「悪いものでなけりやーいいですが。急いで胃カメラと超音波の検査をしましょう。よろしいですか」

「お願いします」と神妙に応えた。

腹部超音波で診ると、肝臓に異変がみつかった。辺縁が滑らかでサイズが大きく、内部に異常部位が見つかった。胆石は認めず、膵臓は少し腫れている。腹水の貯留を認めた。検査の後、ナースが採血した。

指定された日に再受診した。糖尿は無いが、肝臓機能の検査値が異常を示していた。腫瘍のマーカーは高値を示し、進行がんを暗示していた。

胃カメラで精査すると、案の定、おできが見つかり、
バイオプシー（生検）を受けた。

消化器内科医は胃と肝臓に悪性の病変があり、治療
については消化器内科の専門医の意見を聞くべきだと
受診を勧めた。多摩の医療センターへ、紹介状を作成
してくれた。

清国氏は診察結果を聞くとがつくりし、つぶやいた。
『なんてこった。よりによって、2箇所が悪性腫瘍
（重複がん）の存在とは、お陀仏じゃないか』

そして、しばらく放心状態が続き、自宅でブラブラ
していた。第2の就職先である非常勤で勤めていた職
場に早速退職願をだした。

彼はある日、家族に心配をかけまいと決断した。
身の回りの必需品をバッグに詰め、紹介状を持参し、
最寄の駅からタクシーで医療センターを受診した。受
付で手続きをすませ、消化器内科外来を受診した。受
担当医は紹介状を読むと、病状から判断し入院の必
要を認めた。入院係りに連絡すると個室が空いていた。
コストは割高だが、そのまま入院させてもらった。

その日のうちに腹部と胸部のCTがなされた。肺に
は転移部位は無いが、胸水が貯留していた。心臓は拡
大していた。腹水が貯留し、肝臓も異常吸収部位が複

数あり相当腫れていた。精査が行われた。

当初、粥食と点滴の併用をお願いした。しかし、し
ばしば吐き、腸管の動きも悪いため、腸管内にガスが
たまり、麻痺性の腸閉そくの症状を認めるため、禁食
とされ、点滴のみに変更された。同時に、鼻の穴から
経鼻胃管を挿入され、自然に胃液を体外へ排液させよ
うとする処置であった。だが、腹水の貯留が増えるの
か、腹部膨満が常時観察された。それ以降、口から食
べられる状況にはならなかった。

臨床所見と検査所見、がんマーカーの数値から、手
術や化学療法 of 適応は無く、保存的治療が始まった。
腹部の容積が増大し、横隔膜が下方から圧迫され、胸
水貯留も加わり、酸素飽和度が90%を切るので、早い
うちから酸素吸入を受けるようになった。

だが、進行がんの進展による病状の深刻さは、予想
外に早く増悪した。意識障害は少しずつ進行し、栄養
障害のためむくみも広がっていた。

まだ入院してから1か月位の頃であった。妻はベッ
ド脇で、夫の病状を案じていると、担当の先生が回診
に来てくれた。

「いつもお世話になります。よろしくお願いします」
と妻が挨拶した。

担当医は、妻に、意外な内容を告げた。

「当院での治療はこれ以上の内容は出来ません。

突然ですが、終末期医療を行っている療養型病院に、転院していただけないでしょうか」と要請した。

「はい」妻はやつとのおもいで応えた。

「については当院の医療相談員と相談して下さい。

通知がきたら先方の病院に向いて、入院相談を受けていただけないでしょうか。突然で申しわけありません」

「承知しました」と小声で応えるしかなかった。

そういう経緯で、いつの間にか、今日という転院の日を迎えてしまった。そして転院した当日、療養型病院の担当の医師から、夫の終末期が近づいており、命の終焉が迫っている、と指摘されるとは、なんということでしょうか。妻は、患者という弱い立場を、あからさまに自覚させられてしまった。

僕は帰宅する前に病人を診察した。もう見守るしかない。

母娘は気落ちしたのか、自宅で待機するようで、ベッド脇にその姿は見られなかった。

妻は自宅へ着くと、かねてから紹介されていた葬儀

社に連絡した。

「清国です、実は、夫は〇〇病院に転院したのだが、担当医から死亡が迫っていると指摘されました。その際は貴社の車で、病院から自宅まで搬送をお願いしたい」と申し出た。

「承知しました。病院の住所、病院名、電話などお知らせ下さい」

「はい。〇〇病院、〇〇市〇〇、電話、〇〇〇、〇〇〇〇、〇〇〇〇、当方の自宅の住所と、電話番号をお知らせします」

「当直の担当者が待機しておりますので、急ぎの節でもご連絡下さい」

「その節はよろしく願います」

「あやこ、亡くなれば、葬儀という儀式が終わるまでは気が抜けないわね」と母親は娘にしんみりして言った。その日、親娘は夕食をとると、疲れて早く休んだ。

心電図のモニター画面に、リズム不整の波形と数値が見られた。モニター所見から急変するとはとても思えなかった。でも、亡くなる時には数値が一気に低下し、あるいは徐々に数値が減り、異常波形を出現させながら、あれよ、あれよと思うまもなく、数値はゼ

口となり、臨床的に心肺停止に陥ることが多い。

巡り合わせがよければ、清国さんに何とか生き延びていただき、担当医として日勤で看取ってやりたいと思っただが、翌朝、出勤して医局のデスクに置かれた当直日誌の昨日の欄に、清国氏の死亡記録が記されているのを認めた。

清国さんは翌日の午前2時頃、突然、心肺停止に陥ったようだ。外勤の非常勤の当直医は、緊急連絡を受けた家族が到着し、看取りをしたその時刻を、死亡確認の時刻としたことが判明した。つまり、清国さんの母娘は、夜勤のナースから緊急連絡を受け、急いで来院したが、夫の臨終に間に合わなかったようだ。僕は取り留めのない妄想に浸った。

——昨日担当したばかりの患者で、一期一会とはいえ、やはり死は寂しく、もの悲しい。いまごろ、あの親娘は夫の死に直面して、生活上の目標・はりを失い、虚脱状態に陥っているかもしれない。反面、看病の重圧と経済的負担から開放されて、ほっとしているのかもしれない。そして、葬儀社が執り行う葬儀の流れを待つ心境かもしれない。

入院した直後、容易ならざる終末期の状況を説明したとき、母娘が受けた驚きの様子から判断すると、深

刻な病状にもかかわらず、転院させられた状況に納得できず、後悔し、医療側に悪い感情を抱いたのは間違いないであろう。

がん末期のきわめて悪い容態での転院は、何のためだったのか。

厚労省は、救急医療を行う一般病院での治療後の患者で、治療や処置を要する場合、療養型病院で対応してもらおう医療の分担化を推進している。一般病院では、平均在院日数の短縮化を図ることを、各医師に強い現状がある。入院3か月以上入院すると、入院医学管理料金が1か月ごとに大幅に減額するからである。病院側の意思に沿う転院だとしても、寿命の1歩手前の患者を、わざわざ転院させることもないであろう。

救われないのは、一番の弱者である患者・家族にしか寄せが来る現実なのかもしれない。そうあって欲しいは無いのだが・・・。

清国氏が死亡退院して2週間以上経た、ある日の昼下がり、病棟の師長から僕のPHSに連絡がはいった。

「清国さんの奥様が病棟にこられ、先生にご挨拶したいと申しております」

「直ぐうかがいます」

お互い、目が会うと自然にお辞儀をした。

奥様はさばさばした様子で、

「入院中、主人がお世話になりました。おかげさまで、家族葬として葬儀を行うことが出来ました。ありがとうございますました」

彼女は転院の件については、きっぱりと水に流したのか、一切ふれられなかった。

僕は、一呼吸おくと、

「ありきたりのことしか出来ませんでした。苦しめないで旅立たれたと信じております。お亡くなりになりさぞ無念でしたでしょう。外勤の医師がお看取りさせていただきました」

入院して10数時間で旅立たれた、清国さんとの一期一会が、記憶に留まっている。

(27、9)



物語と歴史の診療メモ

安田 修一

①プロローグ

晩秋のひととき、机に向ってペンをとる。

昭和20年8月15日、太平洋戦争が終わったその日、私は工場にいた。中学3年のときである。それから10年後、学生時代が終わり、インターンがあった。更に10年の後、大学の関連病院に行ったのである。そして、50年が過ぎた。

かつて読んだ本、映画のストーリー、古代ギリシャの物語、医学の歴史、診療メモなどでまた、若干の断片的な文章を書いてみたいと思う。

②副甲状腺

オーケストラは、さまざまな楽器で音楽の世界を表現する。ヴァイオリンやピアノやフルートなどが、それぞれ音色をもって名曲を演奏すれば、美しい音の調和をもたらさずである。

人体の生理機能は、絶妙なハーモニーの如く、種々の調節因子が関与して行われている。重さ140ミリグラ

ムの小さな器官、副甲状腺が、血液や骨のカルシウムの濃度を一定にするために重要な役割を演じている。

「一八七七年、私は犬の甲状腺に、別の小さな器官が付着しているのを見つけた。これだけのものが今まで発見されないでいた可能性は、非常に少ないとは思ったが……」と調査を始め、人の副甲状腺が通常4個存在することを明らかにした。それは、スウェーデンのサンドストレームである。そして、一九二五年にカナダのコリップ等によって、副甲状腺ホルモン（PTH）が分離された。

カルシウムの調節は、PTHと共に、活性型ビタミンD、カルシトニンが重要で、骨や腎臓や小腸などが密接に関与している。

③アキレス腱

最近、壮大な歴史映画「TROY・トロイ」をDVDで見た。今から三二〇〇年前にあったトロイア戦争の物語である。

それは、和平のためにギリシャのスパルタを訪れていたトロイアの王子の一人、弟のパリスが、絶世の美女といわれるスパルタの王妃ヘレネに恋心を抱き、トロイアに連れ去ったことが原因で始まった。事件が発

覚し、千十三艘のギリシヤの大船団が後を追う。その中に武将アキレスがいた。

アキレスは、出発の前に海辺にいた母親を訪れていた。

「誘いがきたのね　あなたの生まれる前から分かってた　トロイで戦うと。貝の首輪を作ってるの

昔もあなたに作ったわ　覚えてる?」。「母さん今夜決めます」。「フリサに留まれば　安らぎを得

られる　よき伴侶を得て　やがて子供が生まれ孫も出来る　家族に愛され　いつまでも彼らの心

に残る　でも、家族が一人もいなくなると　あなたの名

は消える。トロイに行けば　栄光が手

に入る　あなたの勝利は何千年も語り

継がれ　あなたの名は世に残る。で

も、トロイに行けば

ここへは戻れない　あなたの栄光は



アキレス 映画「トロイ」

「生への別れ」と一体だから　私は二度と会えない」。

戦争は10年間に及んだ。アキレスは、トロイアでプリアモス国王の娘、ポリュクセネーを見て心を奪われ、

アポロン（ギリシヤ神話で、弓矢の神、医学の神、太陽の神、音楽の神、予言の神といわれる）の神殿でひそかに結婚の相談をしていた。そのとき、トロイアの

王子パリスが彼をめぐめて毒矢を放ったのである。矢は、アポロンに導かれてアキレスの踵を傷つけた。踵

は、アキレスの唯一の弱点だったのである。

ギリシヤ神話によれば、海の女神である母のテティス

が、アキレウス（アキレス）の幼いときにステュクス川（三途の川）に浸して、全身を不死神にしよとしたが、彼女のつかんでいた踵だけが水につからなかったからであるという。

テティスは、その美しさのために神々の王ゼウスに

言い寄られることがあった。プロメテウス（人間に火を与え、人類の恩人といわれる巨人）は、ゼウスの王位を危うくする秘密を知っていた。ゼウスはそれを明らかにするように迫ったが、彼は従わなかった。ゼウスは激しく怒り、プロメテウスをコーカサスの岩山に

鎖で縛りつけ、大鷲を送ってプロメテウスの肝臓を食

鎖で縛りつけ、大鷲を送ってプロメテウスの肝臓を食



ルーベンス〈鎖に繋がれたプロメテウス〉
フィラデルフィア美術館蔵
(大鷲がプロメテウスの肝臓を食べている)

い荒らさせる。昼間食べられた肝臓は夜の間に再生するので、毎日食べにやってくる。プロメテウスの苦しみは止むことがなかった。しかし、長い年月を経てヘラクレスが鷲を射落し、鎖を断ち切って彼を救うのである。そして、プロメテウスはゼウスに秘密を明かす。「テティスに言い寄り続けければ、王座から追い落とす息子が生まれるだろう」。

ゼウスは、父のクロノスを追放したことを思い出し、求婚を諦めた。そして、プロメテウスを許すことにした。しかし、鎖で繋がれていた日々を忘れないように、

常に鉄の輪を指につけているように命じた。これが、指輪が装身具になる始まりだったという。

テティスは、人間であるペレウスと結婚し、アキレウスが生まれたのである。

④腹水

「坐ると飲んだ」といわれる。その人の名は、ルトヴィツヒ・ヴァン・ベートーヴェン（ロマン・ロラン著、ベートーヴェンの生涯より）。肝臓硬縮（肝硬変の意）が腹水と下肢体（下肢）の浮腫を伴っていると医師は診断した。

「……私は、なお二、三の大きな作品を世に送り出し、そのあと、よい人々に囲まれてもして、私の地上の遍歴を終わりにしたいと願っています。」と口述したあと病状は悪化した。腹水の量が腹部破裂の危険を思わせるほどに膨れ上がってきた。手術が行われ、大量の腹水が排除された。そのとき、ベートーヴェンはユーモアを忘れず、「先生、あなたは杖で岩をたたくモーゼのように見えます。」といったという（旧約聖書、出エジプト記、山根銀二著、ベートーヴェンの生涯より）。

歌人、若山牧水の歌に、

しらたまの 齒にしみとほる 秋の夜の
酒はしづかに 飲むべかりけり

ひとの世に たのしみ多し 然れども
酒なしにして なにのたのしみ

がある。彼は、肝硬変で四十三年の生涯を閉じた。

肝硬変の cirrosis は、フランスのレンネックの造語で、ギリシャ語の kirrhos (黄褐色の) + osis (状態) に由来している (医語語源便覧、東北大学名誉教授、岩月賢一著、医学図書出版株式会社)。又、腹水 ascites は、ギリシャ語の askos (ワインを入れる革袋) に由来する (岩月) という。

腹水は、肝硬変で最も頻度が高く、肝硬変の成因は、今日、C型肝炎が最も重要である。

⑤肺結核

プルモナリアという花がある。ラテン語でプルモナリは「肺」の意味で、白い斑点の入った葉が、病気になる肺を連想させることから名づけられたといわれる (花の事典、八二〇種、金田初代、金田洋一郎、西

東社)。

春になると、青や紫の小さな花が美しい。

肺病と呼ばれ、不治の病ともいわれた肺結核は、昭和10年から長い間、国民病となっていた。

「今ひとたびの」(原作・高見順、監督・五所平之助、音楽・服部良一、キャスト・暁子



プルモナリア

高峰 三枝子、野上 龍崎一郎……) という映画があった。昭和22年の作品で、戦後の荒廃の中から生まれたメロドラマであった。それは、一人の男が軍服姿で外苑の絵画館の前に立っているところから始まる。大学医学部の時計台の下で、数人の学生たちが語り合う。その中に主役の一人、野上がいた。彼は、仲間と異なり、自分の医学を貧しい人のためにとセツルメント(社会福祉施設)で働く道を選ぶ。彼は、あるところで一人の女性に逢い、忘れ得ぬ人となった。そして、戦争があり、今ひとたびの約束をする。彼が軍隊に行つて

いる間に、彼女は看護師（元は上流社会の令嬢）となつて、そこで働いていた。過労があつた。ラストシーンはサナトリウム（結核療養所）に入っていた暁子が野上と会う場面である。堀辰男の「風立ちぬ」もまた、サナトリウムで過ごす二人の物語である。

ピアノの詩人、楽聖シヨパンは、39歳で肺結核により生涯を閉じた。又、ノルウェーの画家、ムンクは、「病める子」「春」という絵の中に、肺結核に侵された



映画「今ひとたびの」(セツルメントで)



(サナトリウムで)



ムンク「病める子」
オスロ国立美術館蔵

母と姉への悲しみを描いている（名画の医学、横田敏勝著、南江堂）。

肺結核は、昭和25年の死因の一位を最後に減少傾向を示しているが、多剤耐性菌の出現などにより難治化している（国民衛生の動向、厚生統計協会）。平成24年の統計で、65歳以上の割合は62.5%を占めているという。高齢者の肺結核は、感染してから長い年月を経て、免疫力の低下によって再燃することが多いといわれる。

結核菌は、一八八二年、ドイツのコッホによって発見された。

⑥ 膝石症

かつて、「千五百万年前の真珠の化石発見」という記事があった。貝殻に直径5ミリメートル、重さ0.17グラムの真珠が入っており、灰黄色の化石は炭酸カルシウムから成る方解石の結晶であったという。その石は、山の中で見つかった。南海に浮かぶ赤や青や緑の珊瑚礁は、小さな珊瑚虫がつくった炭酸カルシウムの巨大な建造物である。この石が人間の体内につくられることがある。腹部のX線検査で、膝石が恰も大洋の列島の如く出現する。膝臓 Pancreas は、ギリシャ語の Pan (すべての) + kreas (肉) に由来する(岩月)。

多量のアルコールを長い間飲んでいると、膝石症を招来することがある。



『メドウサ』ベルニーニ作
見る者を石に変えてしまう怪物メドウサ。切られた首にもなお、魔力が残っていたという。
(1630年・ローマ、カピトリノ美術館蔵)
私のギリシャ神話 阿刀田 高 著 (集英社)



カラバッジョ「メドウサ」フィレンツェ
ウフィツィ美術館蔵
名画の医学・横田 敏勝 著 (南江堂)

⑦ メドウサの頭

昭和31年の医師国家試験で、次のような問題が出題されていた。

第6問、次の各項を説明せよ。

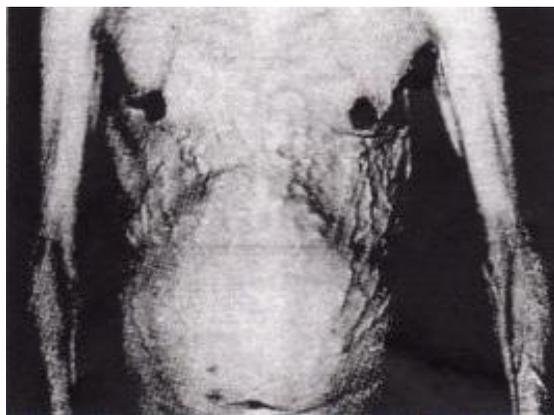
8. メズサ頭 (Caput Medusae)

この医学用語は、古代ギリシャの物語に由来している。Medusaは美貌で、特に髪が美しかったが、美の女神 Minerva と競って敗れ、そのために髪の毛をすべて

蛇にされてしまう。

肝硬変の進行によって門脈圧亢進がおこると、稀に、この症状が出現することがある。

左の写真は、かつて、私が勤務した大学の指導者の著書からのものである。



腹壁静脈怒張

「メズサの頭 肝硬変その診断と治療」

東京慈恵会医科大学客員教授

国立王子病院長 井上 十四郎 著

(新興医学出版社)

⑧ 遺伝

「瓜(うり)のつるに茄子(なすび)はならぬ」という諺(ことわざ)がある。平凡な親からは非凡な子は生まれない、という意味である。それと反対に、「鳶(とび)が鷹(たか)を生む」ともいわれる。よく似かよった二人は瓜二つと表現されるだろう。

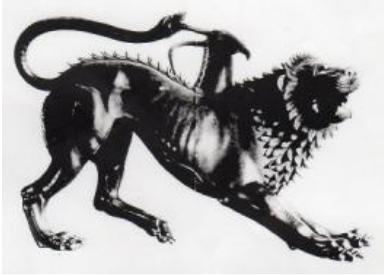
人間はこの世に生をうける時、姿かたちや知能をはじめとして、計り知れない数の遺伝子を両親からゆずりうける。その中には、祖父や祖母からのものも決して少なくないであろう。

すべての生物は、細胞の中にある染色体の数が一定で、例えば、馬は六十四、トウモロコシは二〇である。人間は、二十三対、四十六本の染色体で、半分は父親から、半分は母親からのものである。大きさの異なる二十二対の常染色体と二本の性染色体から成り立っているが、染色体の異常による種々の病気がある。二十一番目の染色体が三本の場合にはダウン症候群である。常染色体の中にある遺伝子の異常によって、若はげ、白内障、近視、網膜色素変性、腋臭(わきが)などがおこることがある。性染色体は、XXは女、XYは男であるが、XXYやXXXXYのことがある。

「追想」という映画があった。バーグマンの演じたアナスタシアは、ロシア皇帝ニコライ二世の王女であるが、その弟であるアレクセイ皇太子は血友病であったという。英国のビクトリア女王からの遺伝といわれ、ヨーロッパの王室に多くの患者が出た。いずれも男性で、女性は保因者となっていた。アナスタシアも、この遺伝子をひそかに持っていたかも知れない。この遺伝子は、X染色体の上にある。

遺伝と環境が関与する多因子性疾患は極めて多い。その発症に関与する危険因子は、感受性遺伝子、又は、易罹患性遺伝子などと呼ばれている。

根にポテト、枝にはトマトが生るといふポマトや、葉はパセリ、根がニンジンという野菜が作り出された。移植などによって、遺伝的、免疫学的に異なる組織から成る個体はキメラである。キメラはギリシヤ神話のキマイ



キマイラ
(ライオンの頭、牡山羊の胴、
竜の尾を持っている)

ラに由来する。

⑨ 超音波

森で妖精（ニンフ）たちが遊んでいた。その中に、ひととき美しい妖精がいた。ある日のこと、ヘラ（神々の王ゼウスの妻）が夫を探しにオリュンポスの山から下りて来た。夫がまた、妖精たちと遊び戯（たわむ）れているのではないかと思つたのである。その美しい妖精に嫉妬深い妻の相手をさせて、王は好きな妖精と楽しく過ごそうという魂胆だつた。利用されているとも知らず、ヘラを自分のおしゃべりで釘づけにしたが、小細工は発覚した。ヘラは激怒し、彼女に罰を与える。「もうお前には、私をだました舌を使えなくしてやる。相変わらず減らず口をたたかせてやるが、お前の方から最初に口をきくことが出来ないようにしてやる」と。その妖精の名は、エーコー。

ある日、エーコーはナルキッソスという美しい青年に出会つた。彼女は、この青年がたまらなく好きになり、跡を追う。彼が先に話しかけてくれるのを今か今かと待つていた。「誰かそこにいるのかい?」「誰かそこにいるのかい?」「早くそこから出ておいで」「早くそこから出ておいで」。彼女は、彼のいるところに向

て行った。しかし、エコーを見たナルキツソスは、冷たい言葉を残して走り去ってしまう。エコーは、悲しみのあまり深い洞穴や、山奥の崖の間に住むようになった。身体は消え失せ、とうとう声だけになってしまった。山の谷間や洞穴の中で呼べば応える木霊(こだま)は、エコーであるという。ギリシャ神話の物語である。

昭和22年に放送された「山小舎の灯(ともしび)」という歌には、「寂しさに君呼べど わが声空(むな)しく はるか谷間より こだまはかえり来る」という歌詞があったし、昭和25年の「白い花の咲く頃」には、「さよならと 云ったら こだまが さよならと叫んでいた」という歌詞がある。

周波数が一万五千ヘルツを超える音は超音波と名づけられている。

超音波検査は、今日、多くの疾病の診断と治療に用いられている。ある職場の健康診断で、50歳以上の職員に腹部超音波検査を行ったところ、表のような結果を得た。腹水は、100 ml以上あれば、エコーによって検出される。

腹部超音波検査(50歳以上の常勤職員を対象)

年度	平成5年度	
受診者数	769人(100.0%)	
異常所見なし	365人(47.5%)	
異常所見あり	404人(52.5%)	
異常所見上位5項目	①脂肪肝	11.6%
	②腎嚢胞	10.5%
	③肝嚢胞	8.3%
	④胆嚢ポリープ	5.3%
	⑤肝内石灰化	3.2%

⑩ エピローグ

アポロンの子、アスクレピオスは、医術の神といわれる。その子、ヒュギエイアは健康の女神といわれ、父の重要な助手であった。

そして、二人の息子がいた。ポダレイリオスは内科の父、マカーオーンは外科医の父といわれ、トロイア戦争に参加している。アキレスも、兵士の傷の手当をすることがあった。

ギリシヤの医学に関する最も古い文献は、ホメロスの叙事詩、「イーリアス」であるという。それは、遠い



Sosias の内側の絵

「パトロクロスの腕の傷に包帯するアキレス」

ベルリン国立博物館蔵

(パトロクロスはアキレスの親友)



医神アスクレピオスとその娘である健康の女神ヒュギエイア

図説 医学の歴史

アルバート・S・ライオンズ

R・ジョセフ・ペトリセリ 著

小川鼎三 監訳

昔のトロイア戦争の物語である。
紀元前四六〇年頃にコス島で生まれた医学の父ヒポクラテスが述べた言葉の中に、「病気よりも病人をみよ」がある。
古代ギリシヤは、西洋文明の源流であり、西洋医学の発祥の地である。

五目チャーハン

吉元 昭治

戦いやんで七十年。全くお暑い日がつづいて、普段よりお弱いオツム（おっとオムツではありません）がますます沸騰している今日此頃である。書いてみただは色々雑多でまとまりがないので「五目チャーハン」とした。

◎「市太郎やーい」。のっけからなんの事かお分りにならないとおもう。先日テレビで江戸時代に別れの時手を振るのは横にか、縦にかとあった。私共は今、別れの手を振るのは左右横にふるが、江戸時代では縦にふつてたという（明治に入って西洋風の横ふりになった）。この時フト、昔、小学校の教科書にあった「市太郎やーい」という日露戦役に出征する息子、市太郎を母が岸壁まで送りにいき、船が離れる時「市太郎やーい、それに乗っているなら手を挙げる」と声も枯れよとさげふという場面の絵を憶い出した。たしか母は片手をまっすぐあげて手先きをふっているのだが、手の振り方でも時代があるという事だ。

◎円タク。子供の頃、タクシーは円タクで、一円で

市内どこでもという事らしいのだが、自動車はアメリカのシボレーか、フォード。ドライバーは何故かハンチングをかぶり、粋なスタイルで当時、あこがれの職業だった。メーターなどはまだなく、料金は交渉次第で、これがまたお互のカケヒキ、呼吸で、運転免許証はもつと初めは木札だったという。ところで今でも覚えてるのが、神田にいて、蒲田の六郷に父の経営する工場がありそこまで、一円五〇銭でいくか、いかないかの話しだった。交渉の結果、ドライバーがおれて一円五〇銭でいけたのを憶えている。

家の前は昭和通りという、関東大震災後に出来た帝都随一という立派な道路だったが、当時荷物の運搬には荷馬車も使われ、道路のあちこちに馬糞がちらばっていた。馬のお尻には木桶けがつけられ、そこうまく馬糞がおちる仕掛もあった。それで馬尻ほげの桶をバケツ (bucket) というのか。

◎自動車といえば、筆者の小学低学年頃、未だそう普及していないトラックを父は購入、「ダットサン」(ニッサン)であった。使用人であった天野君が撰ばれて免許をとり、活躍していたが戦争中、召集され、免許証を持っていたばかりに戦車隊に編入、戦死する。故

郷は世界遺産登録で有名になった富士山麓の今では観光名所となっている忍野八海である。

◎シャツポ。帽子の事だが、父は「シャツポ」「シャツポ」といつていた。冬はラシヤの厚手、夏はパナマ帽子ときまっていた。冬は毛皮の襟がついたオーバー、ステッキを足もわるくないのもっている。

◎ラクダのシャツ、今ではもうお目にかからないが、うす褐色の下着のシャツはラクダの毛で、いわゆるラクダ色という、高級で、ももひきもあつた。「ももひき」といつてもやはりお分りならないかもしれないが「ズボン下」の事である。もも引きの下は多くは猿又（ひもでしぼる）か禪で、パンツなどという言葉はなかつた。オーバーではないがケープ（cape）又はインバネスもあり、これも小粋で、海軍士官のケープは襟章の階級章がひかり、その袖から白い手袋の挙手をしているさまは憧れのスタイルであつた。まさに颯爽。シャローック・ホームズがいつも着ているアレである。

◎オイコラ。警官のこと、なんでも「オイコラ」といつていたのでこういうのだ。戦後、経済が混乱し「物々交換」といつて原始経済になり経済警察が駅にいて、買出しでやっ手に入った米や野菜を没収する。父母の故郷は富士吉田で、繊維業の盛んな処で、そこから織

維巻物を闇にまみれてもつてくると大きなお金になつた。当時「コラ千、ガチャ万」といつ言葉もはやつたが、コラ千とは見つかつたら千円、うまく売れば一万円という事だつた。永井荷風の『墨東綺譚』を見ると公園で男女がいるとやはり「オイコラ」がやつてきている。映画館もそういえば男・女席と別れてあり、うしろには臨官席といふ警官席もあつた（オイコラ席？）。

◎小学校唱歌「村の鍛冶屋」といつのがあつたが、村には鍛冶屋が必ずいたやうで、先程の富士吉田でも、鍛冶屋があつて、夏休みになると、その戸口に立つて、とび散る火玉、フイゴの熱風、トンテカンとたく音、あきもせず見ていた。

◎街から消えていつたもの

・街の水屋。昔は冷蔵庫のある家庭はよい方で、毎日の食材は市場なり街の八百屋、魚や、肉や、酒屋で求めていた。その良否は臭いをかいでみる事で臭いがないければ食べてよい事になつていた。それも戦争が激しくなるとすべて配給になる。ところで冷蔵庫は電気式でなく氷を上におくから、氷屋がリヤカーで氷を蒞で掩つて「氷屋、氷屋」といつて廻つていて。氷は一貫目、二貫目と買う。氷屋さんは大きなノコギリでガ

リガリと切って、大きなフックにかけ、お得意の台所まで届ける。そのすきに子供達がよつてたかつて、氷の切りカスやカケラを素早く口に入れる。

また「アイスキャンディ」屋さんもあった。自転車の荷台の箱の中には白・赤・青・黄などいろいろのアイスキャンディが並んでいる。値段は覚えていないが、「アイスキャンディ」という小旗をつけ鈴をならしてやってくる。町内にアイスキャンディ製造器を備えた水問屋もあった。割り箸を試験管のような形をした容器にさし、シロップを入れそれをいくつも並べて冷凍するのである。

水菓子屋とは果物屋の事で、今はなき日本橋の千足屋と二分した須田町角の万惣の前を通るとブーンと果物の臭いがした。何にしる宮内省御用達だからおそれおおい。万惣のとなりは地下鉄ビル（上野駅前にもあった）でその二階食堂のプリンは美味しかった。この地下から神田駅まで地下街がのび地下街のハシリであった。ついでに食べものといえば、淡路町のやぶ、天ぶらは須田町の天人、おしるこは連雀町の竹村、ビフテキは銀座のスエヒロ、中華料理は須田町の五十番、すずらん通りに中華第一楼があったが銀座にいつてしまった。映画はシネマパレス・南明座・銀映座・東洋

キネマなど学生街であり洋画館が多かった。会議は踊る、パリーの屋根の下で、巴里祭、ターザン、駅馬車、オーケストラの少女、舞踏会の手帖、格子なき牢獄、未完成交響楽、たそがれのウイーン、制服のおとめ、ベンガルの槍騎兵、雨ぞ降る、スミス氏都に行く、一連のチャプリン、ロイド・キートンなどどれも懐しい映画である。ニュースやまんが映画を上映するニュース劇場もあった。テレビもない頃だから日本や世界のニュースを知るにはよく、全体の時間もそう長くはないので安くもあった。神田にも日劇地下にもあった。寄席も数軒あり、須田町のたちばな亭は近いので夕食をすませても充分、前座が終わった頃に間に合った。

その他街から消えたもの。鉄掛や経師や、でんわや（電話の売買）、レコードや、ラジオや、裏地や、ボタンや、駄菓子や、呉服屋、瀬戸物屋、炭屋、小間物屋、乾物屋、ブリキヤ、流しの屋台の支那そばやなど。町で一番大きい建物は？ 町内に一〜二軒はあった風呂屋。朝一番は千葉からやってくる肩に背負った行商のオバサン達。大学帽をかぶった苦学生の納豆売り、藁苞わらびの納豆はもう見られない。そういうえば産婆とか街医者という言葉も絶えてきかない。どの町内にはいた街医

者。玄関にはたいて赤い電氣灯がついている。筆者自身は街医者の後裔と思っているのだが。

JR中央線の神田駅とお茶の水駅の間には万世橋駅があった。レンガ造りでミニ東京駅のようであり駅前には大きな広瀬中佐の銅像がたつていて、交通博物館もあつてここらはこどもの頃よく遊んだ。その先の坂を上ると聖橋でニコライ堂や湯島聖堂、神田明神があり、後ちに母校となる順天堂もあるのだが、そこまでは遊びのテリトリーではなかった。その順天堂について一言。当時順天堂は皇族、華族の御用達の感があり、筆者も入局した頃（昭和二十六年）まだその遺風はあつた。順天堂で診てもらつて駄目ならあきらめると全国から患者がおしよせたという。子供の頃、病院の前をよく通つたが敷居が高かつたか中に入った事はなかった。医者になつた頃でも玄関に順天堂という印伴天をきたおじいさんが脚絆をまき下足の木札をもつて応待していたし、浜田産院の入院部屋は和室であつた。神田駅と万世橋とは家から等距離にありどちらでもよかつたし地下鉄は小学校四、五年頃渋谷まで開通する。幼稚園の頃渋谷に忠犬ハチ公という大がいるときいた。朝はラジオ体操。道路に並んでラジオの音楽に合せて子供等は集まり「ラジオは叫ぶ一、二、三」となる。

ラジオといえばベルリンオリンピックの「前畑ガンパレ、前畑ガンバン」も聞いたし、ヒットラーの演説も流れた。意味は分らなかつたが力強い口調であつた。戦地における慰問袋をせっせつとつくり街には千人針をお願ひする御婦人がめだつた。

祭りは春の神田祭り、おみこしワッショイ、秋の靖国神社の例大祭、サーカスや見せ物が並び、屋台もでて大きなにぎわいであつた。夏は隅田川の花火大会、いまにつづくが、当持家からも花火のあがるのはよく見えた。

◎戦争も激しくなり、いわゆる代用品というのが多く見られるようになった。父はこの点に着目し、宮城県釜石にとんで当時盛んにとれた鯨を仕入れ、その肉で缶詰をつくつて（牛肉の缶詰のよう）で美味。戦災後、土中にうめておいた缶詰を掘り出しては食べていた。軍部に納入。またすじを伸してベルトをつくつたがこれは余りよい出来ではなかつた。これらの作業は八王子市を流れる川沿いにあつた売春長屋のあと（女郎部屋。この言葉もいけないかも。戦争で廃業、空き屋となつていた。）で行い、働く人は多分そこで働いてたかその点よく分らないが、半数近くは在日朝鮮人の婦人達であつた。現在、韓国人女性の「性奴隷」が問

題になつてゐるが、これら婦人達は全く自由意志で働
き、しかもその頃は日本人だから賃金差別はなかった
とおもう。もし彼女等がこのような仕事をしていたと
すれば一種の更生事業だったかもしれない。今では難
しい問題にもなつてゐるが少なくともこの場面では何
等問題なく、区別もなく強制など全くなく自由契約で
働いていた。一つの事例としてかいておく。

◎戦争中には多くのプロパガンダやいろいろのスロ
ーガンがあつた。順不同につづつてみよう。

・ガソリンの一滴は血の一滴（ついには木炭車、さ
らには松根油をとる）

・欲しがりません勝つまでは（おいしいものの味は
とうに忘れていた）

・贅沢は敵だ（それなら味方はビンボウか）

・パーマネントはやめましょう（愛国婦人会のオバ
サマ達が街頭でメガホンでさげんでいた）

・皇軍百万抗州灣敵前上陸（支那事変も初めの頃、
アドバルーンが上がつたのは覚えてゐる）

・壁に耳あり、障子に目あり（対スパイ標語。防諜
といつた）

・出せ一億の底力（もう全部出しきつた）

・勝つて胃の緒をしめよ

・向う三軒両隣り（となり組。今では隣は何をする
人ぞだ）

・撃ちてしまはん、後につづくを信ず（特攻隊）

・鬼畜米兵（戦況があやしくなつた頃）

・あの旗をうて（フィリピン戦）

・マレーのハリマオ（マレー戦）

・ワンワンタイヤコンワラワン殿下（タイ王室の戦

時中の人。ワラワン（笑わん）殿下といつた）当
時日本の厚生大臣は絶対に笑わなかつたので「笑
わん殿下」といつた。

このような平穩で子供でも楽しくしていられたが戦
争で一変、戦災にあい、さらに戦後の困窮が拍車をか
ける。今では神田はビルの街と化し神田駅から富士山
がよく見えたが、もう見る事はできない。「故郷は遠き
にあつて憶うもの」なのだ。（細かい下町の情景は本誌
に「東京の空は広がつた」に連載してある）またこの
つづきで下手な落語をかき一冊の本とした。人から文
才があるとおだてられたが、落語をかくにはこちらが
馬鹿にならないと書けない。この本は完売、絶版にな
る。

五十年の思い出の数々

小川 昭子

私の母校、帝国女子医学専門学校（現・東邦大学医学部）の大先輩、一回生の龍 知恵子先生を中心とする数人の先輩方が、五十年前に武蔵村山市に障害児の病院、社会福祉法人鶴風会 東京小児療育病院を創立して下さり、本年五十周年を迎えました。二月には祝賀会も終わり、この度、五十年の思い出を書かせて頂きました。

創立五十周年記念式典は、多くの方々のご努力で、各人に悲喜こもこものお思いを残して成功裡に終わりました。「はじまりのころ」の紹介の中に尊敬する代々の理事長先生の面影を拝見した時、懐かしさと共に忘れられない数々の思い出が蘇って参りました。その中で心に深く刻まれている二、三の思い出を記したいと思います。

開院間もない頃経営に一番困窮していた時、寄付の依頼がありました。その頃は無医村に近い狛江村で、姉夫妻と開業して日が浅く、分刻みの生活を過ごして

いました。「寄付をしたいのは山々ですが、何う時間がないので」等と生意気なことを申ししてしまい未だに深く反省しています。その後まもなく、先輩の一人が来宅して下さいました。これは氷山の一角で心身共にお疲れの中、この何十倍ものご苦勞を続けられたと思ふと胸が痛くなり、頭の下がる思いです。

その後、五島先生のご推薦で、評議員の末席に加えていただきました。理事の先生方や、病院関係の方々にいるいろいろご指導をいただきながら、微力ですが協力させていただけいております。

一年に二、三回何う編集会議の時、外来の隆盛の様子を拝見し、後輩の先生方やその他のスタッフの忙しく動き回るお姿を拝見し、天国の先生方に喜んでいただけると益々頑張ろうと自分に言い聞かせています。

また、多くの思い出の中に龍先生が三代目の理事長を務められた「脳性マヒ児を守る会」の活動があります。龍先生が脳性マヒ児の早期発見・早期治療のために力を注がれた財団法人 脳性マヒ児を守る会の（昭和四十一年）主な活動は、愛の診療・愛のつどい・出張講演。小冊子配布・協賛援助などでした。龍先生は村山の病院経営に努力しながら、三代目理事長として

の努めも熱され、その障害児の為の情熱、エネルギー、福祉の心に驚き、感動の極みでした。数人の先輩の先生方と共に、私も「愛の診療」に携わらせていただきました。毎月第三日曜日に、麹町の弘済会館の一室で、心身障害児総合医療センター長の坂口亮先生と社会福祉法人至泉会の大塚隆二先生（ケースワーカー）のご指導の下、全国から来診する障害児の方々やその御家族の診療、相談、指導に当たらせていただきました。

「脳性マヒ児を守る会」も創立二十年を迎えた頃、無料診療の患者数が減少し始めた感がありました。これは、全国各地の医療、療育指導、施設が充実した賜物と少しほっとしましたが、やがて発展的閉鎖になった時には、不安と淋しさに襲われたことを思い出します。しかしこの診療の経験は、出講した大学での講義の中で、また、市から依頼されて続けているファミリーサポートセンターでの育児学の中で、若い学生さんやお母様方のお役に立っていると確信しております。

最近、超高齢になつてから、加齢現象を感じ、自分の半世紀を振り返ることがあります。開業して五十余年、病児保育開室から二十五年、大きなトラブルもなぐ少しでも世のお役に立てたのかと自問自答しながら、あと少し仕事を続けてゆきたいと願っております。

芭蕉は三度高野山に登った

後藤 健

私の手元に高野山普賢院発行の「芭蕉と高野山」という小冊子がある。若い頃の一夏、私が中島坊普賢院に一宿した際、修行僧より頂いたものである。

大阪難波から南海高野線で高野山に向かう途中から河内の山々が眼前にせまり、そこを過ぎるとやがて歴史で名高い真田昌幸・幸村ゆかりの九度山、高野下などを通り一時間半程で極楽橋に着く。真言宗総本山金剛峯寺はここから更にケーブルカーで登らなければならぬ。五分程のケーブルカーを降りるとここはもう別天地である。ここ高野山は海拔千メートル前後に位置するが、高野山町で第一にびっくりすることは宿坊の多いことである。これらの宿坊寺院は平安時代に大小僧坊合せて千二百と称されたこともあるが、現在では五〇程度である。昔の高野山は現代の電車・車・ケーブルカーの時代と違い、正に登山ではなかったかと思ふ。

高野山と空海の出合は今を去る千余年前に真言密教の道場をここに開くべく時の嵯峨天皇に上奏したこと

に始まる。

それ以前にも、日本には山岳修験者を中心とした原始宗教的な雑密というものがあつたそうであるが真言密教はこれ等を更に止揚した純密なのだそうである。

現代から考えると非科学的であるが、現代の様に物事が科学的に錯綜した時代においても、不安にからみ宇宙的な何かに光明を見出したい心があることに変わりはない。

ここで話をタイトルに戻すと、高野山なくして俳聖芭蕉の存在はあり得なかつたのではないかと思う。

芭蕉と高野山との結びつきは芭蕉がまだ武士として藤堂家に仕えていた時、彼の主君藤堂新七郎良精の子良忠は俳号を蝉吟と言ひ、京の国学者に和歌・連歌・俳諧を学んでいたが、芭蕉は良忠の近習としての縁で一緒に学んだようである。この蝉吟は薄命で二十五歳の若さで病死しており、父良精は悲嘆のあまり蝉吟の菩提を弔うために芭蕉を使者として藤堂家の菩提寺たる高野山中島報恩院（現在の中島普賢院）につかわし子の冥福を祈つたとされている。この時芭蕉は霊山高野山での人の世の無常を感じ出家を願つた。その後すぐ同僚に「雲とへだつ友かや雁の生き別れ」という句を残し、芭蕉は高野山報恩院の門を叩いている。時の

報恩院の立盛権大僧都は芭蕉にいろいろと助言と暗示を与え、「何れに大場の江戸に下り、かの騒がしき処にて、心を鎮めよや、我餞別せん」そう言つて一書をしたため仏頂禪師なる人を紹介しているのである。芭蕉の俳諧は禅の精神が強い影響を与えているのはこの禅師によるものとされている。

四十五歳になった芭蕉は三度目の高野山に登り、蟬吟公はもとより、先年亡くなった父・母の菩提を弔い「父母のしきりに恋しきじの声」と吟じている。この後にいわゆる奥の細道に紀行しているのである。元禄七年十月十二日大阪の南御堂前花屋の客舎において芭蕉はその五十一年の生涯を閉じているが、「この道や行く人なしに秋の暮」という臨終吟や「旅に病んで夢は枯野をかけめぐる」という絶吟がある。

私は今、司馬遼太郎の「空海の風景」を読んでいるが、あの高野山に建ち並ぶ多数の宿坊を思い出すにつけ世俗を離れた彼の地で沈思する時「わび」「さび」の境地に至るのであるうか。

尚、芭蕉ゆかりの地普賢院には芭蕉堂が建立され、芭蕉像が祀られている。



〈随想〉

記備談語(きびだんご) 1・2 (26・7・27・6)

佐藤 玄祥 (博)

長寿とフレイル

日本老年医学会では、既報「サルコペニア」(26・04)と関連のある「加齢により生理的対応能力が低下し、様々なストレスに弱くなる健康問題を起こし易い「フレイル」という症状」がホットなテーマとして取り上げられているようだ。そして百壽者にはフレイルが皆無と報告されている。長生きの方々の余命には、精神的・社会的にも耐えられる能力が在り、運動(筋力をつけたり、速く歩くこと)や栄養を保つことが重要なファクターとされている。

これからの健康寿命を延ばす為にも、先人(百壽者)のフレイルに関心を持ち、自らもPPPK(ピンピンコロリ)を目指し、日常の生活態度を正して行きたい。

(26・7)

笑いの効果

今夏の甲子園高校野球石川県決勝大会で奇跡が起き

た。松井秀喜氏の母校「星稜」が9回裏0―8から逆転の勝利を挙げた。驚異的な粘りの裏には「笑顔」の対処があったようだ。

緊張に対し笑いは、リラククス効果が医学的にもNK(ナチュラルキラー)細胞の増加をもたらして免疫力を高めると証明されている。

暗い世相の中、ここから笑えることは少ないが、笑う門には福来たるだ。指圧の恩師浪越徳治郎指圧道名人は、自ら「笑おう会」笑裁として有名なスローガン『指圧のこころ母心、圧せば生命の泉湧く。アツハツハ』を唱え、自分の笑顔に相手も笑顔で返してくれる、笑顔の返報性を証明されていた。

普段(日常)の生活の中にも、常に笑顔を心掛け、おおいに声を出して、脳活性化と認知症予防のためにも「笑いの効果」を期待したいものだ。

(26・7)

運転免許返納(特典いろいろ)

既報「マイカーとタクシー」その後として、車検不合格(手入れ可能)のため、マイカーを廃車と決めた。次には運転免許証の自主返納を考える。

警視庁が1998年より返納制度を実施、高齢者に

よる事故防止に努めている。高齢返納者は身分証明として「運転経歴証明証」が渡され、返納促進と利便性高揚のため数々の特典（割引等）が付与される。次回更新時期にいよいよ特典を甘受することにした次第。

曾て優良運転表彰（中野警察）を戴いたが、60年間乗車率の割合には、安全運転に努め、殆ど無事故（駐車違反位）で過ごせたことを自らに感謝をしている。

（26・8）

過信と反省

7月の或る早朝、偶然TVコマーシャルに十数年前に転居のため、カラオケ教室を止められたN女史が健康食品の宣伝に出演され、相変わらずの元気さで語っておられた。

年賀状での交際ではあったが、喜寿を迎え、絵手紙・陶芸・水泳・合気道・フラダンスと多彩な行動に、趣味をこえた元気を謳歌されていた。

後で連絡しようと思っていた矢先、彼女の旧友から、脳梗塞でリハビリ中と聞かされ、「エエー！あのコマーシャルは何だったのか」と驚いた。メーカーは現況を確認して、タイムスパンがあったとは言え、放映は考慮すべきであったかも・・・。

無病患災、万全の健康管理の中でも無理と過信は、時には大事を惹起することがある。元氣な映像だっただけに、再起を願いつつ、健康を売り物にしている私自身も人ごとではない。他山の石として、無理せず、頑張らず、反省する次第である。

（26・8）

紫外線とエンドルフィン

夏は若者の天下。強い日差しは紫外線は皮膚の老化に繋がるという。少年時代、日本橋生まれの私たち兄妹は、毎夏避暑と風邪に負けない体力造りのために、片瀬腰越海岸で過ごし、黒んぼ大会に出た思いでが懐かしい。その後クロチャンと言われていたが！ 本当に、冬期には風邪をひかなかった気がする。

アメリカ・ハーバード大学の研究チームの論文で、日光浴により、脳中でモルフィネのように働く神経伝達物質「エンドルフィン」（快感物質）の分泌が、紫外線などを浴びることで、促進することが判明したようだ。

若者たちが、日光浴をしたくなるのは麻薬に近い物質のせいと思うのは気のせい？ チイムは、皮膚を守るためにも、強度の日光浴はエンドルフィンの誘惑に負けない意識も必要であると警告している。

（26・8）

白いカラス

「リケジョ」から半年、ノーベル賞候補とまで言われ、理系女子が脚光を浴び、世紀の発見といわれたSTAP細胞が騒がれたが、不幸な結末の様で、お先棒を担がず、絶賛しないでよかった。やはり、検証実験も多能性遺伝子は働かなかった。

科学研究では「存在」の証明は出来るが、「存在しない」ことの証明は「悪魔の証明」と呼ばれ、現実的には不可能であるとのこと。

「白いカラス」が「居ること」を証明するには、一羽でも見付ければ良いが「居ないこと」を証明するには、世界中のカラスを探さなければいけない。膨大な無駄がそこには潜んで居る。

例えが解り易い。STAP細胞の実験の必要性は無いみたいだ。
(26・8)

到達点は出発点

剣道談義で90歳近い現役のわが剣友会師範と激論を交わした。

それは、隣接の中学の学生が、昇段のため教えを乞うてきた時の話である。師範が二度指導して初段を受

験し合格した。師範いわく、小学生は6年間みっちり稽古しても受験出来ないのに、中学生は一寸習って初段に合格したことに矛盾を感じ、剣道連盟の金取り主義に憤りを感じておられたのだ。

私は指導方法の適性さと、受験慣れした中学生の対応の素晴らしさに、むしろ快哉を感じたのだが・・・しかし、甘く考えてもらってはいけない。老師はそこを言うのだ。

初段は、剣道人生での一つの目標であって、これから地位に相応しい実力を磨くための出発点として激励し、厳しく指導すべきと師範に納得して戴いた。

世の中には、数多くのライセンスがある。資格を取ることには、大変な努力と忍耐が必要である。然し乍ら、一旦取得してからが問題なのだ。その内容と実力が試されるのは、これからが大変なのだ。到達点は出発点である。
(26・9)

大学生活 頼りは奨学金

この年になると、大学生の懐事情を考えることも無縁になって来ている。大学が多くなり、小子化で代々木ゼミナールが規模を縮小する現今、大学生生活は両親がいても仕送り事情は苦しく、長い景気低迷と諸物

価高騰を受けて、学費援助が苦しく、一方学生は授業厳格でバイト減少や「ブラックアルバイト」等の苛酷な労働強化で苦しんでいる(法政大学調査)。

わたし自身、終戦直後の混沌とした社会情勢のなかで、苦学した生活状況を思い出し、当時受けた「奨学金」の有難味が懐かしく、いまなお感謝の念で胸がいっぱいである。

終戦直後、急逝した父の意志で、昭和23年薬学専門学校に入学と同時に、大日本育英会の奨学金(当時無利子・20年返済の恩典)が、仕送りゼロのわたしにとって生きるための命綱であった。理事長の星一先生の実施されたSSC(セルフサポートینگカレッジ)自立自存の、働きながら学ぶカレッジの制度にも助けられ、アルバイトと学業に勤しむ事が出来た。満20歳で薬剤師免許を取得し、その後の薬学人生のスタートが切れたのである。

奨学金制度も、その後返済率が悪く、有利子となったようだ。1999年度9人にひとり、そして昨年度は2.6人にひとり、日本学生支援機構から国の奨学金を借りたと報告されている。

若いうちの苦労は将来の人間形成に役立つ。足長おじさんにはなれなかったが「奨学金」のことを思い出

し、あらためて感謝した次第である。

(26・9)

赤十字マーク

一般社団法人日本指圧協会特別委員会である東京指圧救護赤十字奉仕団(指聖浪越徳治郎初代委員長)が発足(昭和59年4月)して30周年を迎える。

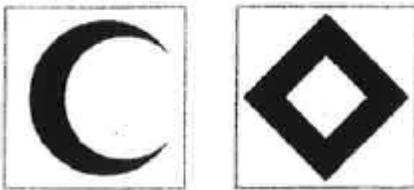
この間わが奉仕団は、災害援助・献血指圧・ボランティア指圧等永年の地道な活動に対し、今春厚生労働大臣表彰の栄誉を受けた。私も発足から参加し昨秋、個人最高の「金色有功賞」を受賞した。

近ごろ、医療機関(病

院・薬局等)で赤十字マークの使用の可否が問われている。白地に赤色(レッドクロス)のマークは医療を象徴するものでは無く、勝手な使用は不可である。ジュネーブ条約等を締結した機関・組織のみに限る。例外として、

「赤新月(赤色の三日

図 赤十字と同一の意味を持つ「赤新月」(左)と「レッドクリスタル」



※いずれも白地に赤のマーク

月型)「クロスがキリスト教を連想することで主にイスラム教国が、又「レッドクリスタル(宗教的理由でイスラエルのみ)」、がある(日赤企画広報室)。

偉大な「赤十字」の元、40周年に向かって新たな指圧奉仕を心掛ける毎日である。(26・9)

組合の解散

1955年結成創立の我が東京薬業協同組合連合会が9月30日を以て、60年の歴史を閉じることになりました。故郷日本橋の地で東京地域の組合を束ねる連合会の理事として30年間勤め、上部団体の全国組織の解散の煽りを契機に、苦渋の選択の中で静かに去って参ります。「寸考8月号」で理事長が「感謝」と「お詫び」の挨拶を最後に「寸考」も終了しました。長い間のご愛読ありがとうございます。

これまでの体験を生かし、今後は「記事・備考・談話・語録」「記備談話」として、折々の随想を書いて参ります。「東薬連」「寸考」ありがとうございます!感謝です。(26・9)

危険ドラッグ

薬系の化学者に告ぐ!悪魔の手先になるな!

9月、地元小学校のセフティ教室で、6年生に薬物乱用防止講座を受け持った。「危険ドラッグ」について映像とお話に「ダメゼッタイ」が理解され、全員のうれしい感想文を戴いた。時あたかも、危険ドラッグによる事故多発が報道され続けていた。

厚生労働省・警察庁は、脱法ドラッグと称される薬物の危険性が誤解され、安易に使用されることの無いよう、新呼称を「危険ドラッグ」と公表した。更に包括指定(既報)で緊急の押収が可能になった。そこには合成有機化学を学んだ薬系の知識が、成分の一部を変えて、試薬として合成する製造者が居る。君等は知らぬ間に人類破滅の悪魔の手先になっている。良心があるならば、絶対にその知識、体験、技術を間違った使い方(用いてはならない。危険ドラッグの基の化合物(原料)が作れるから恐ろしいのだ。「ダメ、ゼッタイ」は使う方(ほう)にも作る方(ほう)にも合い言葉で在りたい。(26・9)

「健康第一」は間違いか

老いを感じながら「健康第一」を実施していたら、それは誤りであるという挑発的な本(名郷直樹氏著)

が出た。

長生きを目指すのは間違いで、心疾患やガンが増加する要因になると指摘している。病気の早期発見、早期治療が「健康第一」の掛け声で、病院や製薬会社が医療の過剰検診や治療によって潤うというわけである。健康寿命を伸ばすことは否定していないが、限りある医療（費用）の分配には、余分な治療はしないで、高齢者は若い世代に譲る時代が来ていると問いかけている。

考え方の違いかも知れないが、逆説的にも感ずる。いよいよピンピンコロリ（PPK）が望まれる。

（26・10）

マララさん（17歳）

ノーベル平和賞受賞スピーチに感動

マララ ユスフサイさんは、パキスタンのタリバン（反政府武装勢力）の支配下、二つの選択枝（声をあげず殺されるか声を挙げて殺される）の中、権利のため立ち上がり、狙撃され、生死をさ迷いながら、新たな平和運動を展開した勇氣と信念がノーベル平和賞の推薦理由だった。

最年少受賞後のスピーチの中で、同時受賞のカイラ

シュ サティアルテイさん（インド）を讃え、両国の首相の受賞式への参加を要請した。その平和に対する崇高な信念と行動力は感動そのものである。マララさんの訴えた、女子教育の国際的関心が高まった意義は、平和ボケの我が国の意識を変えるものでもあった。改めて、素晴らしい人への受賞を讃えたい。

（26・10）

数値の変化

風呂好きで、あちらこちらの銭湯巡りをして自家風呂で味わえないマイナスイオンを満喫している。先日、身長計があつたので確かめたら、なんと3センチ近く縮まっている。

健康管理と、検査数値の変化（上がり下がり）には関心が高かったが何年も測って居なかつたので、愕然とした。髪の毛も減つたけれど、身体の衰えを数値で感じた次第。

電車内等で若者達が大きくなったのではなく、自分の目線が下がって居た訳だ。体力は年齢とともに衰えて行くのは仕方がないが、現状維持を続ける努力は欠かせないと感じた。

努力しても下がらないのは年齢だけと割り切るべき

か。

(26・10)

福德神社

「1100年流転の日本橋・福德神社がビルの谷間に安住の地」として、幼時よく遊んだ当時ささやかな鎮守の森として、小さな境内のあった福德神社が室町3丁目に新装再建され、10月24日一般参拝が始まった。

日本橋地区の再開発によって、コレド室町など新しい建物群の中に、千年以上の歴史をもつ古社が、羅災・戦災・再開発で移転を繰り返し、再開発を主導する三井不動産が建築費等を負担し、一端はビルの屋上に移った社殿が地上に戻ったのだ。

いわば、故郷の産土神(うぶすな)的存在だった福德(徳川に福を齎すとして保護された)神社が舞い戻った訳である。幼いころの関係者は既に無く、感無量である。

(26・10)

ミドリムシ(ユーグレナ)

0.05 ~ 0.1 mm 微細な単細胞生物である。植物同様、光合成で栄養分を体内に蓄え込む一方、細胞を変形させ自力で動く。生物学上はワカメ・コンブの仲間だが、

植物・動物の両方の性質を併せ持つと言う。栄養成分は、ビタミン・ミネラル・必須アミノ酸・DHA等計59種類が確認されている。植物にある細胞膜が無いため、効率良く栄養を吸収出来る未来型健康食材である。クロレラや抹茶様のうぐいす色の粉末で昆布だし様の味で、食品として様々な可能性を秘めた素材で、特殊培養液で大量生産が可能とのこと。また、油分を含有するので、将来的にはジェット燃料にも利用できる全くユニークな「ムシ」である。

栄養面では完璧でも、食べ物としての感触に、味気無さが無いことを祈る。

(26・10)

文武両道

第62回全日本剣道選手権大会で、21才5カ月の竹ノ内祐也四段が最年少・初出場優勝を果たした。筑波大学3年生である。並み居る常勝の警察関係者を連破しての快挙であった。

ロッテから指名を受けた京都大学史上初のドラフト選手田中英祐投手や日大薬学部の松島美奈さん(水泳100米平泳ぎ)等、近ごろ「文武両道」(スポーツと学業の両方で優れている)で、肉体と知力の鍛錬をバランス良く実行し、成果を挙げている選手が目立つ。

素晴らしい事である。その努力に敬意を表したい。

一芸に秀でた特に運動選手の推薦入学や特別枠の採用は、それなりの価値は有ると思うが、特に理系で学業を両立させている選手に拍手を贈りたい。

私事ながら、薬学博士を取得した愚息も、昭和62年頃水野監督率いる京都大学アメリカンフットボール部が日本一になった時の選手として、ただ一人薬学部在籍で出場し「文武両道」を達成し、親孝行をしてくれた。本人はあまり言わないが、親として誇りに思っている。

(26・11)

創薬支援ネットワーク

明るい選挙推進協議会会長として選挙に関する啓発と若年層への啓蒙を行って来た。従って、特定の政党・候補者を支援することは常に控えている。

この度、政府は日本医療研究開発機構を発足させ、ガンや感染症の治療薬の実用化推進の司令塔として、新薬開発の拠点を設置することになった。厚生労働省・文部科学省・経済産業省それぞれの所管の研究所と「創薬支援ネットワーク」の連携のため、日本薬剤師会会員の薬剤師の藤井基之参議院議員（文部科学副大臣）がその中核を担うことになりそうだ。

製薬会社と大学の癒着が問題になっている昨今、3省のネットワークは、新たな新薬候補支援に役立つものである。国際競争力の高揚と医薬品開発による輸出拡大を目指す藤井基之副大臣の活躍を願うものである。ここに来て、安倍総理の国民に信を問う解散総選挙になった。いい制度は残して戴きたいものだ。まさに参議院議員の出番である。

(26・11)

アポE4遺伝子

東京都医学総合研究所認知症プロジェクトチームによれば認知症には「アルツハイマー型」「脳血管障害型」「レビー小体型」「前頭・側頭型」の四つのタイプがあり、国内全体で6割を占めるのがアルツハイマー型である。

脳に蓄積された異常なタンパク質が脳機能を傷つけ、徐々に認知症が進行して行く。発症の危険因子として、遺伝型と生活習慣型がある。アポE4遺伝子を持っている人はアルツハイマー型の罹患リスクが3〜8倍と高いようだ。判定に伴う検査が、可成簡単（口中粘膜を採取する）になったようだ。

もう一つの生活習慣型も発注リスクに影響がありそうだ。原因解明と予防治療に医学的研究が待たれる。

健康的で老化の遅い人はボケ難いとも言われている。肥満予防とアルコール摂取等の生活習慣に関心が高まる訳である。(26・11)

転倒と関節固着

昭和一斤のエッセイスト黒井千次さんが、年寄りには転倒に気を付け、骨折しない注意の外に関節を伸展出来なくなる、いわゆる固着の状態に陥って難儀した体験を語っておられた。ガマンして曲げた腰が伸びなくなつて起きられない。

筋肉は関節を動かし、保護し、柔軟性のある緩衝体として骨を衝撃から守っているのに、加齢と共にサルコペニア(前出)のため、筋肉の固化により、伸展に著しい影響が出たことを示唆(しき)していた。

曲げられない、伸ばせない状態は、カチカチの筋肉のせいである。堅い針金も何度も折り曲げ続けられ折れる訳で、固まった状態にならぬよう筋肉・筋力を普段から鍛えることが必須で日常生活の「運動」があらためて問われていた。(26・11)

アミロイドβ (タンパク質)

アルツフアイマー検査速報 II

(25・11)「糖尿病との記事で既報した「アミロイドβ」が国立長寿医療研究センター(愛知)で、アルツフアイマー病の発生前の脳内変化を、血液から判定する方法を開発したと報道された。

10日前に東京発「アポE4遺伝子」の遺伝型の簡単な判定検査法(口内粘膜)を知見したが、さらに正確なアルツフアイマーの前兆を知ることが出来る朗報である。インスリン投与によるスリーパー的治療も可能となつた訳である。

PETと呼ばれる高度な脳画像診断や髄液からの検査から患者への負担を軽くしそうだ。

* (βアミロイドはアミロイドβと表現を統一する)
(26・11)

街路樹 II

既報「街路樹」(26・04)杉並区版が起きた。杉並百選の一つ、中杉通りケヤキ並木が樹影の濃い区間で1/3程切られ、黒いビニールを巻かれ、まるで焼けた電柱のようになっていた。500メートル間96本中32本を撤去、残りも根本近くから剪定すること(都庁)。50年後の並木の保存を考へてのこととは・・・戦後70年街路樹や公園整備も必要かも知れないが、環

境の保全といった無形の価値を忘れないで欲しいと訴えたい。
(26・11)

ベンゾ系睡眠薬

アルツプアイマー速報 III

睡眠薬や抗精神安定剤の多くを占めるベンゾジアゼピン系薬剤を長く服用した患者はアルツプアイマー病の発生リスクが1.5倍高まったとフランスのボルドー大学やカナダのモントリオール大学が纏め英国医学誌に発表された。

日本でも高齢者の該当例が多く、影響が懸念される。不眠や不安はアルツプアイマー病の先行症状である。医師は処方期間の長期化に留意すべきだ。処方をする薬局はどうすることも出来ないのではと危惧する。健康寿命を考える時、クスリの服用を避けるのが良いのか勝手な判断は禁物ではあるが、考えさせられる。
(26・11)

牛乳の害

(D) ガラクトース

スエーデン・ウプサラ大学の研究によると、牛乳多飲で骨が弱くなる成人10万人のデータを発表した。死

亡率も高いとのこと。

原因は牛乳に多く含まれる「D-ガラクトース」のためで、動物実験で老化が進み、寿命が短くなる。カルシウム・パラドックスが知られているが、リン酸が多い牛乳のせいで「脱灰現象」(骨から血中に取り込む)が起こるためと結論づけている。

牛の子が育ち切った分、大人に影響が出ると考えれば、成長期に必要でも成人はホドホドにした方が良さそうだ。
(26・11)

長野北部地震

11月22日午後10時8分マグネチュード6弱の地震があった。長野県北部、地域的には想定内「活断層の最北側」神城断層で発生、死者ゼロの報告があった。助け合い(既報の四助の中の「共助」)の成果と知る。常在地震国日本を考えれば、隣り近所の顔見知りの強い絆が齎したものであり、各方面から感激の声が挙がったのも頷ける。都会に当てはめることは容易ではないが、住民の「共助」があらためて望まれる。

余談だが、当日同時刻、長野行き新幹線の車内に3時間(途中停電停車、上田駅にて)閉じ込められ、家族に心配をかけた。長野市の実家が区画整理で解体立

ち退きの応援に行くところだった。ヒビひとつ入らない、勿体無い位安心だった。

(26・11)

声の変化

コーラスから始まった歌好きの趣味が高じて、歌の指導に当たって40年近くになる。自らの健康維持のため、心肺機能向上に努めている。

生理的には、年とともに「声」も老化するようだ。

喉(のど)や口中に細かいシワを生じ、周りの筋肉が衰え、声帯に繋がる神経が鈍化することなどが影響して高音が出憎くなったり、音程が外れたりしてくる。声帯も筋肉のひとつなので、体を動かすのと同様に日々の摂生と鍛練が必要になってくる。

普段から声帯を痛めない生活(乾燥・酷使・喫煙)を保持し、飲酒で怒鳴らず、こまめな水分補給とウイルス侵入の関門としてウガイの実践とカゼをひかぬよう心掛けたい。

腹式呼吸で正しい発声を続け、少しぐらい音量が落ちても最近は精度の良いマイクが強い味方、いつまでも楽しく歌い続けよう。

(26・11)

窮すれば通ず

百壽の呉清源さんの残されたメッセージに「平和とは公平な和。貴いのは「和」である」とあった。その理想は政治・経済への警鐘として、閉塞感を打破する方策は、「窮すれば通ず」であると活破された。本来は「窮まれば即ち変ず、変ずれば即ち通ず(易経)」の中間を略した慣用語を述べられていた。

日本に帰化された囲碁界の哲人の言葉は多くの示唆に富んで居た。すべては黒白・陰陽の調和であると。まさに、蘊蓄のあるお言葉であった。

囲碁は嗜まないが、師は異国人であり、その類い希なる才能の開花は戦前来日され、現今も囲碁界に燦然とした実績を残され、日本人として百壽を全うし、多くの弟子を育成された。坊主姿がまぶしい方であられた。(合掌)

(26・12)

「薬事法」一部名称変更

(略称:医薬品・医療機器等法) 11月25日施行

薬業人として長い間馴染んできた「薬事法」が、この度長い名称に変更になる。「医薬品・医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」である。

変更の理由として、医薬品・医療機器とは別に「再生

医療機器等製品」を新たに定義するためと聞いて、厚生労働省つて、そんなにヒマなのかと呆れ返った次第である。

「再生医療機器等製品」のソフトウェアを医療機器として製造販売の承認を対象にする等、その添付文書の位置付けと、医薬品・医療機器の安全対策を強化するためとは驚きである。附則・細則等で済むことである。それにしても「薬事」の文字が消え、一抹の寂しさを感じるが、「医薬品等」に関わる法の番人」として幅広い守備範囲を持つものと思えば、薬剤師への期待と役割がより一層多くなったと考えるべきか。

先人たちの遵守して来た「薬事法」の持つ意義をもっと大切にして欲しかった。
(26・12)

アデポネクチンと百壽

戦後間もない1950年に全国で1000人ほどだったが2014年には500倍以上の58000人の百壽者がおられる。

慶応大学医学部百壽総合研究センターによると、百壽者には脂肪細胞から分泌されるアデポネクチンというホルモン物質が多いことが判った。

太った人は分泌され難く、逆に糖尿病を惹起する物

質が多く、肥満は短命と結論付けられた。また、EPA（エイコサペンタエン酸「血栓予防」）の血中濃度も高く、視力も良い、つまり生活習慣病が少なく、フレイル（既報26・07）がなく性格的に、意欲的、明朗性、多幸性、外向性なのが特徴である。何事にも前向きで自然体で有られるのかもしれない。PPK（ピンピニコロリ）を目指し、目標としたものだ。
(26・12)

税・悦・脱

2014年は消費税8%で始まり税で暮れた。そのせいか一年の世相を示す恒例の清水寺管長の一文字漢字は「税」であった。

「税」は実りや收穫（禾）を抜き取る。

「悦」は実りを持ち去り喜びを分かち合う。「脱」は体を動かし、抜く動作を示す。このように漢字の左側の偏と右側の旁から「税」は「悦」「脱」と変化する中で、国民の三大義務である「税」から、脱デフレ・脱原発を叫びたいが、脱税は許せない。新しい年は喜びを味わい、悦に入っている境地に浸れる日を期待したい。
(26・12)

肺炎球菌

近ごろ新聞の死亡欄に肺炎で亡くなる高齢者が目立つ。肺炎による死亡者の96.8%が65歳以上という厚生労働省人口動態統計(2012)で発表された。日本に於ける主な死因は1位はガン、2位心疾患、3位脳血管疾患の中の事である。

肺炎を起こす原因菌のなかで肺炎球菌によるものが64.6%で急激に重症化し易い特徴がある。こういった観点から、65歳以上の(高齢者)の予防のため、国は5年毎に「成人用肺炎球菌ワクチンの定期接種」という新しい制度を発足した。

健康寿命の延伸のためにも、肺炎予防の対策を自ら講ずることが肝要である。歯磨き等の口腔ケア・うがい・マスク使用・手洗い・体力の蓄積・免疫力を高め、更にインフルエンザワクチンも接種するようにと、埼玉医大金沢先生はお勧めを呼びかけてる。

(26・12)

年の瀬の総選挙

安倍首相は国民に信を問うとして、慌ただしくも年末解散総選挙を実施し、その結果300近い議席を確保し、引き続き政権運営の第三次安倍内閣を発足させ

ることになった。今回も、明るい選挙推進協議会会長として、棄権防止と若年層への投票促進を願って、中野駅頭で啓発運動に携わったが結果として、戦後最低の投票率52.65%に止まり、六百数十億の税金を投じた意義は何だったのかと疑問を感じる年の瀬であった。

投票に関し、(1)与党に・(2)野党に・(3)自分とは無関係と投票に行かなかった3集団に有権者を分けると、現在の日本の多数派は棄権した人と言える。棄権を意志表示として見れば現状承認を意味する。棄権もまた「政治への意志表示の形態」と認めるべきか「政治的判断を保留する」なのか判断に苦しむ。投票で意志を示せと言いたい。

現実には円安・ドル高・原油値下がり・株価急落とあまり良くない傾向の中、明るい新年は期待できないようだ。

(26・12)

健康寿命を伸ばそう!アワード

誰もが健やかで、心豊かに長寿を全うするため、生活習慣病予防や地域包括ケアシステムに取り組んで居るところの企業、団体、自治体の中から、厚生労働省の肝入りで、本年度「第3回健康寿命を伸ばそう!ア

ワード」表彰が発表された。

長野県の須坂市が最優秀賞に選ばれて居た。(11月18日)さすが、健康日本一の長寿を誇る長野県の受賞であった。

日本橋生まれの私は、父の故郷長野市に戦時疎開し、縁あって現在中野区長野県人会事務局長として微力ながら「信州人の結束」に努めて居るので、我がことのように喜ばしい。日頃から健康寿命伸延について語って来た関係で今回の慶事は我が意をえたりと感じ入った。ちなみに、一つ違いの妹が須坂在住で、ゴルフ・フラダンス・カラオケ等と元氣一杯健康寿命を伸ばしている。(26・12)

「夢へ」

新聞の一面の広告で、大相撲33回前人未踏の優勝に向けた白鵬の姿、文面に「これがゴールではない。さあ・次の夢へ」とあった。

「到達点は出発点」(26・9)を述べたが、それは「夢」も記すべきであった。若者の特権である「夢」は今、夢も希望も無い世の中に変わってしまつてはならない。

私達老人のゴールにも、来し方・生きざま・日々の

積み重ねた人生の体験と経験等を踏み台に、更なる「夢」を望むのは至難だが、前向きに生き抜くのも、若者に対する刺激になればと考えるのだが・・

(27・01)

五つ星

私共指圧師の業界で、人格・識見・技量に優れた人に対する表彰制度がある。この度、新年会の称号授与式の席上、名譽ある「星位証」の中で最高の「五つ星」を、山岡祥広理事長と共に受賞した。

ご来賓の西川太一郎荒川区長より「『ミシュラン』の五つ星のように、何事も最高のランクである」とお褒めのご祝辞を頂戴し、望外の感激を新年早々味わった。浪越徳治郎名人位を最高に、準名人につぐ目下現役最高の榮譽を授与された事になる。

一つづつの積み重ねが「継続は力」を實行することにより評価された訳である。師範位を受賞後五年毎に一つ星が増すことになるので、最低30年以上の実績が要る。

喜びの中に、人の範の難しさと年月を感じ、新なる叱咤激励と受け止めた。(感謝)

(27・01)

羊(未)年

年賀状にさまざまなデザイン・イラストの羊が集まった。前回の新年会で「羊」に関する文字を集め、余興のビンゴゲームに使用して好評だった。今年は乙未に当たる。

十二支は月や時刻、方位を示すために生まれ、それぞれの動物(架空は龍)が当てはめられた。「未(ひつじ)」は8番目、6月、午後1〜3時、南々西に当たる。

羊の世界飼育数は11億頭(2013)、その中で中国が国土と気候のせいか約2億頭と最高飼育数(日本は1万6千頭)。漢字は羊の正面上半身の象形文字、中国由来の文字の多いわけ(美・翔・善・儀など)を知った。

羊は古来、富の象徴で財産そのものであった。羊は古代人の衣食住を全て賄う動物であり、そう見れば羊は¥(Yen・円・通貨)に深い関係がありそうだ。一本不足だが。

新年会の余興に「羊羹に羊三匹揃い踏み」とお年玉袋に「羊羹」を入れて差し上げた。私は8度めの未成年が巡って来た「年男」、今年生まれる新生児が小児化の煽り100万を切るのではないかと心配している。

(27・01)

青春の詞(ことば)

尊敬するT夫人からの年賀状に、私の生き方が「サムエル・ウルマン氏」の詞(ことば)のようだとあった。浅学非才の私には判らなかつたが、後日ご送付くださった「青春の詞(ことば)」を拝見して、過分なお褒めの言葉と知り感激した次第。それは・・

青春とは人生の或る期間ではなく、こころの様相を言うのだ(中間略)。

年を重ねてだけでは人は老いない。理想を失う時に初めて老いが来る。(略)

人は信念と共に若く、疑惑と共に老いる。自信と共に若く、恐怖と共に老いる。

希望ある限り若く、失望と共に老いる。(後略)

かの電力の神様だった松永安左衛門さんの訳詞になる、サムエル・ウルマンさんの「青春の詞(ことば)」が、私に不老の指標と希望を下させた。心に刻んで置きたい。(感謝)

(27・01)

がんリスク検査

AICSによる

「味の素」で知られるアミノ酸専門メーカーが標準

各種アミノ酸製造の技術と研究から、血液中アミノ酸の濃度を検出することにより、対応臓器別の「がん」リスク検査から、早期がんの発見に繋がるという朗報を知った。

A I C S (Amino index Cancer Risk Screening アミノインデクスがんリスクスクリーニング) により、少量の採血で判定する実用化された検査法である。われわれのからだのタンパク質は、25種類のアミノ酸で構成され、健康時は血中の各濃度は一定だが、罹患によりそのバランスが崩れることで、「がん」の種類別パターンを割り出す原理である。現在は、胃・肺・大腸・前立腺・乳腺。子宮・卵巣・脾臓を調べられる。簡単に採血により「がん」早期発見がより可能になった。そして、精密検査への動機付けに繋がることが期待する。

(27・01)

イスラム国は教徒ではない

イスラム教団体声明(1月27日)

イスラム教スンニ派の過激派組織「イスラム国」による日本人質事件で、イスラム教団体(日本アハマディア・ムスリム協会(名古屋市))は「イスラム教と掛け離れた概念を持つ「イスラム国」の行為は決して

許されるべき事ではない。彼らはイスラム教徒ではない」と声明を出した。

国内の仏教徒やキリスト教徒らは宗教を超え、イスラム教徒にも参加を呼びかけ、拘束されている邦人の解放を祈る集会を国会周辺で開くようだ。

人智の良識を超越した凶暴な無法者に、神の怒りが届くことを願って止まない。

(27・01)

糖尿病に三つの「ア」

糖尿病は血中のブドウ糖が増える病気(疾患)である。血糖値とヘモグロビンA1cは1〜2カ月間の平均的血糖を基準に判断する。高血糖値が続くと、神経障害や網膜症、腎臓障害になる。さらに動脈硬化症により狭心症、心筋梗塞、脳卒中が3倍にも増加する万病の基ある。

国立医療研究センター野田光彦先生によると治療には、食事・運動・薬物療法が三本柱で、特に食事療法としての三つの「ア」に要注意と警告された。

油・甘味料・アルコールの制限を守り、運動により血糖値を下げるホルモン「インスリン」の効き目をよくすると提言された。

食事療法の重要性は、何事も腹八分、過食を控え、

飽食の中の栄養失調にならないようバランスを考え、誘惑に負けない根性を養い、大切な命と引き換えにならないよう、糖尿病を撲滅しましょう。

(27・02)

邦人殺害「イスラム国」

エッセイに取り上げるにはあまりにも急激で許せぬ蛮行のため、邦人救出は最悪の結果となった。日本政府が武力行使に加担せず、平和希求と平和国家としての歩みが、国際社会で高い評価と尊敬を得て、日本の外交力の基礎になっているにも拘わらず、罪のない邦人の救出が出来ず、情も理屈も通じない「ならずもの」への対応は、良識の埒外(らちが外)を尊い犠牲で知らされた事になる。「二家族の心痛はいかばかりか。間違いであつて欲しいと願いたい。

この時期に、安倍首相が中東を訪問し、イスラエルとの協力関係を強調する対外的デモンストレーションの影響と見るか、国会で積極的平和主義を推進すると強気の答弁は首相官邸の日の丸の半旗が空しい。

(27・02)

アビガンが助つ人

ある病気の治療に使われる既存の薬が別の病気にも有効だと分かる事がある。

フランス国立保健医療研究所(INSERM)は、昨年3月ギニアでの集団感染が源発で猛威を奮っている「エボラ出血熱」の治療薬として、日本のインフルエンザ薬「アビガン」(一般名ファビピラビル)が西アフリカ・ギニアでの臨床試験で著効と評価した。

アメリカWHOでは、感染患者は13000人を超し、9000人の死亡者が出たと発表した。日本ではこれまでのところ発生の報告は無いが、水際防止での検疫体制で懸命である。

政府は開発した富士化学(富士フィルムHD)に対し、未承認薬・適応外薬の使用を認める判断を示した。臨床試験の結果、副作用の懸念も無く、エボラ出血熱との新たな対応として、量産体制可能は心強い次第である。

(27・02)

18歳選挙権

新春、中野区選挙管理委員会は「中野区成人のつどい」に於ける啓発活動の実施結果を公表した。8割以上が学生でアンケートに協力、模擬投票の実演にも参

加してくれた。

現在、中野区には、直近に三大学（早稲田・明治・帝京平成）が開校され、学生の街でもある。

アンケート集計によると、4月の地方選挙（区議会議員）に8割が投票に行くと答えたのが心強いが、残り「忙しい、関心が無い」とあった。

今国会で「18歳選挙権成立へ」公職選挙法改正案が提出され、成立すれば平成28年約240万人の未成年者が有権者に加わる。中野区の8割の学生の意志が、若者の投票率の向上のためにも反映することを願いたい。

同時に、成人も2歳引き下げの整合性も考慮すべきである。
(27・02)

sorLA (タンパク質)

アルツハイマー速報Ⅳ

アルツハイマー病の原因物質「アミロイドβ」(既報26・11)を脳内で掃除するスイーパータンパク質(sorLA ソーラ)の構造決定が大阪大学高木教授のチームで明らかにされた。sorLAを増やせば、新しい治療法の開発になる訳である。

脳の神経細胞内で作られた「アミロイドβ」が長

い年月をかけて脳内に蓄積され、その影響で神経細胞が死滅し、アルツハイマー病が発症する。

sorLAの構造が中心に穴を持ち、「アミロイドβ」を捕らえ、スイーパー(掃除人)の役をして分解経路に運び込み、蓄積されることが明らかにされていた。

既報「糖尿病」(25・11)でインスリンがスイーパーと知ったが、より効果的なタンパク質の構造決定で、早急の利用が待たれる多くの患者さんへの朗報になった。
(27・02)

生育光線

太陽光線に含まれる4〜14 μm の波長を持つ「生育光線」が身体に当たると重合し、分子活動が活発化する。また、太陽光線にはセロトニンを分泌させ、ガンや骨そしような症の予防や不眠症、「うつ・引きこもり症」の解決になることが知られている。

紫外線の浴び過ぎは肌に良くないが、夏場は皮膚ガンを予防の必要がある。

太陽の恵みは、身体が温まり細胞内のミトコンドリアを刺激し、エネルギーが充実し、セロトニンのリラックス効果、更にはメラトニンの増加で体内時計の調整により時差ぼけ解消にもなる。

冬、引きこもりがちにならず、一日最低30分、恵みの太陽光を浴びよう、とは日本睡眠医学協会大谷理事長の提言である。

健全な体調保持には、常に昼夜逆転の現代社会の生活を反省し、自然の無限の恩恵を生育光線(太陽光線)に求めることが大切である。即実行である。(27・02)

ユーグレナ II

本邦医薬品業界最大の製薬会社ウロコ印のタケダ薬品が、2月17日健康補助食品として「ユーグレナ」を発売した。

既報ミドリムシ(26・10)は植物としての固い細胞壁が無く、動物性の細胞膜によって消化率が高まり、大量培養が可能な結果、近未来の食料革命になると思っていたところ、その製品はカプセル入りのクスリ感覚で摂取するもので、食べるものでなく、栄養補助食品として発売される事になった。

59種の栄養素を含む「ユーグレナ(ミドリムシ)」は培養により大量生産の結果、低価格になり、人類の健康維持に寄与するものと信じていたのだが、大手の独占にならないようお願いしたいものだ。(27・02)

ユーグレナ III

ジェット燃料に

1週間後、石垣島産大量培養のミドリムシが「野菜・肉・魚の栄養素がこれ一つで」エポラ社から錠剤として新発売された(価格も少し安い)。更に神戸製鋼も参入を表明した。

既報のように、ジェット燃料にまで用途が広がって来た。ミドリムシを開発したベンチャー企業「ユーグレナ社」は国際石油資本の米国シェフロン社と提携し、航空ジェット機向け燃料の精製を行うと発表した。化石燃料にバイオ燃料を混ぜる形はコストは高いようだが、石油価格の下落と有限の化石燃料、炭酸ガス排出削減等の関連から、その実現早期化を期待したい。夢は広がって来ている。長生きはするものだ。(27・02)

コレステロール基準値

既報(26・05)健康基準値で激変のコレステロール値を報じたが、この度米国政府発表で「食品のコレステロールの過剰摂取を心配する必要はない」として、一日300mg以下の目安が撤廃される可能性が出た。卵黄や蝦(海老)などコレステロールが多い食品も

摂取量と血中コレステロールの関連性が否定され、厚生労働省も食事摂取基準2015年版から摂取目標量を廃止している。つまり、血中コレステロールの7割は人体が合成しているので食品摂取はたいして気にすることは無いと言うわけで、血中コレステロールを増やす犯人は飽和脂肪酸であることを認識し、心筋梗塞や脳卒中の予防にはまだ要注意をしたほうが良い。

(27・02)

花粉症と抗コリン薬

良く効く薬は副作用も強い。

いよいよ、花粉症の季節が到来する、表題のように市販のカゼ薬や花粉症のくすりに抗コリン作用を持つ成分が、第一世代抗ヒスタミン剤として含まれている。これは、一方では認知症のリスクを高める副作用がある。

認知症患者には、この抗コリン剤服用者が多いとアメリカ・ヒューストン大学が発表した。これに対し大規模サンプルと長期追跡調査をしたワシントン大学が追認し、結論付けた。

カゼ薬や花粉症の市販薬を何も考えず安易に求めないよう、医師の処方に従い、脳への影響の少ない第二

世代の抗ヒスタミン剤の使用をお勧めする。

(27・03)

医療保険制度

厚生労働省は大幅赤字運営が続く国保(国民健康保険)の財政基盤強化のため、運営を市町村から都道府県に移し、公費配分の追加のためジェネリック医薬品の普及を促進させる保険者努力支援制度を創設し、医療費を抑制する改革法案を国会に提出した。

国保は自営・無職・非正規労働者等が加入しており、保険料収入と高齢者増加のための医療費出費の比率のギャップが大きい。

既報「健康第一は間違いか」(26・10)が気になってくる。現行の保険制度持続のため、「健康寿命」を伸ばす事こそ、年寄り・高齢者の出来る最大且つ、ささやかな協力と考えたい。

(27・03)

砂糖摂取量

自動販売機で甘味料入り一缶を飲むと世界保健機関(WHO)での成人一日量25グラム(スプーン6杯)を軽くオーバー(40g/350g)してしまふ。

WHOでは従来の一日分約50gの半分量25gに抑

える奨励指針を正式決定した。同時に、肥満や虫歯対策と糖尿病等の慢性疾患に対する予防に、食物から取り込む力ロリー（熱量）のうち、砂糖の割合を10%から5%に設定した。尚WHOによると一日当たりの砂糖摂取量は世界平均63g、日本45gであるとのこと。既製品の中の砂糖の量を充分意識してゆく注意が大切である。糖尿病にならないためにも。若いと思つて濃い味付けにならず、薄味（塩分も糖分も）に慣れることも肝要である。

(27・03)

大相撲の郷土力士

春場所は連日満員御礼の上、横綱白鵬の34回優勝で盛況に終わった。遠藤・逸之城・照の富士ら新しい世代の逸材が注目されている中で、学生横綱・アマチュア横綱の特権で今場所幕下10枚目付け出しでデビューした長野県の本曾出身の「御嶽海」が山国信州に「海が誕生した」として報道された。

「本曾の星」は千秋楽に一年先輩の同じアマチュア横綱出身の幕下筆頭「川端（大翔丸）」を破つて6勝1敗で来場所十両を狙う位置になる。47年振りの関取誕生に長野県民は熱い声援を送っている。

就職場所の春場所、公務員内定を蹴つて「自分の人

生は自分で決める」と両親の教育方針を選んだようだ。昔から「江戸の大関より郷土（くに）の三段目」と言われている。大道君（本名）に早く同世代の有望株になつて欲しいと県人会からエールを送る。

(27・03)

2025年問題

ワビとサビ

団塊の世代、第2次世界大戦後の1947〜49年生まれの方々は現在の日本経済を支えておられる。そして10年後には全員75歳以上になる。

医療費のピークは75〜79歳、生涯に懸かる全体の凡そ半分を占める。国の試算では今後10年、医療費は約1.4倍、介護費は約2倍と予想している。年金等を含めた社会保障全体の費用も増え、GDP(国内総生産)の2割以上を占める額に相当する。

小子化の中、今後を負担する現役世代が減つて来ている。

ワビとサビは風流だが、われわれ超高齢者は「PPK」を目標に「健康寿命」を延ばしながら、病気を見つけても敢えて無理に治療しない自然体が、老人のせめてもの自助努力だとすれば、侘びしさ（ワビ）と寂

しさ(サビ)が混在する思いでもある。

(27・03)

長野駅

北陸新幹線が開通し、東京・金沢が結ばれ、今までの終着駅長野駅は通過点になった。仏都長野の駅舎は、仏閣型の造りで善光寺にふさわしい駅舎であったのが、長野冬季オリンピックの年改装された。今年4月5日より七年ごとの善光寺ご開帳を前に新幹線開通を記念してさらに大きく改装されていた。駅前の如是姫の像も作り替えられたのか新しくなっていた。

父の祥月命日は春の彼岸の最中、今年も善光寺裏山の雲上殿(納骨堂)に墓参をした。ご開帳の頃は、桜が最高で信州の春が満喫出来る。第二の故郷長野は善光寺と共にあり、長野駅は通過駅にならないよう街は歓迎一色のようにだ。

東京から2時間、昔を思うと感無量、近くなったものだ。
(27・03)

ピケティの新資本論

経済学の難かしい高度の専門書がベストセラーになる。フランスの経済学者トマ・ピケティ氏の著書がア

メリカで評判になり、日本が追従し600ページもある翻訳書「21世紀の資本」がそれである。経済格差が1980年代から拡大し、保有する資産の多寡で貧富の差を論じている。

先進国が可成の勢いで成長した期間は戦後の30年程度だという。ピケティ氏は欧州を分析の中心としているので、日本で欧州流格差を論じるのは愚であるが、この本で暗示することは「経済観」の転換なのだ。富の再分配や格差は正等昔の経済学が当てはまらない戦後30年代の研究データを提供した、いわば経済的知識の民主化なのだ。

カラオケ教室の婦人から「ピケティの本を見たか」と聞かれ、マスメディアの宣伝力に驚いた次第。法政大学経済学部出身の一人として、あわててダイジェストを読む一幕であった。
(27・03)

減塩の必要

厚生労働省2013年実施の国民栄養調査によると、成人の1日の食塩摂取量の平均は男性11.1g、女性9.4g、男女とも減少傾向にあり、最高は60〜69代である。WHO(世界保健機関)の推奨は5g未満で倍以上になる。そこで厚生労働省は5年ぶりに摂取量を改

定した。すなわち、男性18歳以上8g、女性7g未満に変更する(別表参照)。1gでも減塩すれば血圧は下がる。高血圧や脳卒中・腎臓病等の生活習慣病の重症化を防ぐための減塩は高齢者には甘味と

食塩の摂取量(1日当たりのグラム)

年齢	男性		女性	
	実際の摂取量	新しい目標量	実際の摂取量	新しい目標量
12~14	10.7		9.0	
15~17	11.0		9.1	
18~29	10.5	8.0	8.7	7.0
30~49	10.7		8.8	
50~69	11.8		10.0	
70~	10.7		9.4	

※実際の摂取量は、2010、11年国民健康・栄養調査での摂取量の中央値

共に味覚は「薄味」に慣れるべきである事を示唆している。

特に、新後期高齢者は要注意！ (27・04)

リスク少なくて クスリ

日本老年医学会などが、副作用が大きいため高齢者への使用中止を考慮する可きと約50種類の「おなじみのクスリ」を一覧にし、10年振りの改訂予定である「高齢者の安全な薬物療法指針」に盛り込むと発表した。

高齢者になれば、現在健康で薬剤のご厄介になって

いなくても、いずれは体力が落ち、あちらこちらにいろいろ障害が出てくる。何を優先して治療するかにより、多剤の服用を避ければ、今回の指針に沿っての副作用を招かないで済む。

指針を纏めた秋下東京大学教授は、薬の減量や中止は医師・薬剤師と相談して進めて欲しいと言われている。高齢者への持ち切れないほどの処方薬は、一方では服用しなければ副作用も出ず、医療費のムダで済むけれど、何処でその判断をするのが問題だ。

薬剤師のチェックも責任重大である。(すべての一覧は日本老年医学会ホームページで) (27・04)

医療研究機構

いよいよ安倍首相が動き出した。と言っても憲法改正や「軍隊」の問題ではない。既報「創薬支援ネットワーク」(26・11)の日本医療研究開発機構が4月1日発足した。健康医療戦略推進本部長として、文部科学・厚生労働・経済産業の三省を統括、国家予算を集約し、薬・機器の産学連携で研究開発に力点を置き、医療が経済成長の見込める分野と位置付けたのだ。

我が国の現状は医薬品や医療機器の輸入超過のため、基礎研究では世界のトップクラスでも、その成果の実

用化が遅れている。この機構が効率的に具体策を立案し、医療分野の研究開発を進めることで、より健康で豊かな生活を送れると言う訳である。

決してエープリルフルで無い事を願う。

(27・04)

如是姫像由来

善光寺は4月5日のご開帳で賑わっているようだ。

長野駅前に新造なった如是姫像が何故設置されたのかと問い合わせがあり、由来を調べた。

はるか昔・天竺の毘舍利国で釈迦の説法を信仰しない大富豪長者「月蓋(ガンガイ)」が一女を得、意の如く得た姫で「如是姫」と名付けた。国内で疫病が蔓延し、姫も病に伏した。長者は娘を救うため釈迦に請願し、信心の道に入り西方浄土の阿弥陀に祈りを捧げ、姫をはじめ多くの人達を救うことが出来た。長者は釈迦の教えに従い、金の阿弥陀如来像と勢至・観音の二菩薩(一光三尊)像を造り、信心を深めた。その功德により長者は数百年後百済の斉明王に生まれ変わり、この一光三尊像を日本の、時の欽明天皇(552年)に奉獻、我が国の仏教の源となった。その後仏教を信じない物部氏による廃仏毀釈のために遺棄された像が、

本田善光により信濃に運ばれたと「善光寺縁起」に記されている。

如是姫の悪疫で瀕死状態にならなかつたら今日の善光寺は無かった。感謝の心を忘れずに、心に安らぎを与えてくれる如是姫に、アメリカの自由の女神像に似たものがあるのかも知れない。

(27・04)

和痛

健康講座で、お年寄りに「指圧」の話をした際、痛みを取り去る「和痛」を解かり易く説明して好評だった。

エレベーターがスムーズに上下する。定員を超えるのとブザーが鳴り動かない。余分な人が降りると動き出す。この時、ブザーを止めると矢張り動き出す。この譬えが人の流れ(血液)とブザー(痛みの信号)を表し、血液が滞っているのに痛み止め(鎮痛剤)で治す(実は治っている訳ではない)のではなく、流れを変え(人を降ろす)ればエレベーターはスムーズに動き故障せず正常に上下する。信号を止め、重量オーバーで運行すれが懸てエレベーターは故障する。

指圧は血液をを正常にする。痛みの信号は原因があり、ただ止めれば良い訳ではない。

(27・04)

高齢者中止考慮薬

私自身は年の割には治療薬はまったく服用していないが、出張治療の高齢者の枕元に10種類ほどの処方薬が置いてある。

この度、日本老年医学会が表題の治療薬50種を10年振りに新指針案としてホームページに掲載した。

さまざまな病気を抱える高齢者は多くの薬剤を漫然と長期間処方されがちだが、体力低下の高齢者には有害な副作用が出現する。

認知症への抗精神薬・三環系抗うつ薬・睡眠薬・糖尿病治療薬・H₂ブロッカー胃腸薬・制吐剤・非ステロイド鎮痛剤・漢方甘草（腎機能低下者）等がそれらである。

すべては記載出来ないが、日本老年医学会のホームページで一覧出来る。処方調剤薬局発行の「おくすり手帳」が複数医師発行の処方箋に対応出来、かかりつけ医師・かかりつけ薬局が役立つのだ。（27・04）

改正国民投票法

憲法記念日の特集として、昨年6月改正国民投票法で投票年齢を18歳に引き下げる事が決定し、それに伴

って選挙権も同年齢になる（既報27・02）ことが確認された。

憲法改正、特に9条が見え隠れし、18歳というグロバルスタンダード（国際標準）が後押しをしている。

若い人が政治参加することが身近になるけれど、4月の地方選挙の実感として若年層の投票率が全体の足を引っ張っているのが否めない。成人式が大人の仲間入りと自覚をもたせる役割はどう変わるか、政治だけでは無く民法上の解決が迫られている。（27・05）

演歌と歌謡曲

物の本に、明治時代に民権思想を広めるために歌われた演説の歌が「演歌」の名の由来とある。庶民の不満を吐露した大正演歌と続き、長い歴史の中、歌い続けて来た演歌は、世相の変化に伴って「演歌」「宴歌」「縁歌」「艶歌」と形を替え、カラオケ文化向上により、人々の心の癒しと娯楽として定着して来た。

ボピュラーソングといわれる歌謡曲は、暗い世相を吹き飛ばす明るいメロディが心を和ませ、演歌の不倫・別れ・悲しみの明暗の両輪として歌われて来た。ナツメロがその時代々々を思い出させる「はやりうた」として、老若男女に歌い続けられている。年のせいかな、

今のリズム優先の若者の音楽（歌ではないような気がする）には「詩の心・言葉」が理解出来ず、ついていけない。

それでも、声を出すことで心肺機能向上を目指し、趣味の歌謡指導を40年近く実施している。年がら年中、楽しく、ナツメロから新曲まで時の流れに合わせて歌っている。

演歌・歌謡曲は元気の源泉と信じて歌い続けたい。

(27・05)

谷桃子バレエ団

「可憐な名花」谷桃子さんが94歳で亡くなった（4・26）。日本のバレリーナの代名詞的存在だった。

昭和24年秋、星葉学専門学校2年在学中の事。当時アメリカ軍（進駐軍）よりの校舎接収解除（返還）記念に、学生らが文化祭を企画し、今も威容を誇るドーム大講堂に藤原義江歌劇団と谷桃子バレエ団をお招きした。その前座に、私たち音楽部がコーラス「麗しき青きドナウ」と「流浪の民」を披露した。終戦後の文化に飢えていた頃とは言え、大変なイベントを経験した事になる。当時、焼け跡の中、聳える大ドーム講堂は、会場難でNHK「のど自慢」の会場にも使われた

位だった。

小柄な谷さんがバレエ団を結成したばかりの時に「白鳥の湖」のオデットを華麗に踊った印象が、若き日の貴重な思い出であり、今も音楽に携わって居られる原点でもあった。

永遠の舞姫を悼む次第です。（合掌）（27・05）

平均寿命世界一

世界保健機関（WHO）が13日発表した「世界保健統計」で、男女合わせた日本の2013年の平均寿命は84歳、2012年に続いて世界最長寿と発表された。厚生労働省が昨年7月公表した2013年度は、女性（86.61）世界一、男性（80.21）同4位。男女合わせて首位だったことが確認された。

平均寿命（0歳児の平均余命）が1935年・男（46.92）、女（49.63）であったことを考えると、現在84歳の私にとって、とうとう其処まで到達したかと思無量である。いよいよゴールが近いか、もつと延ばすべきか複雑な思いでもある。（27・05）

住民投票

あの強い発信力の橋下大阪市長が大阪都構想で、そ

の可否を問う住民投票は過半数の賛成を得ることが出来なかった。

政府自民党の間で「国民投票のハードルの高さが浮き彫りになった」と次なる憲法改正発議を視野にして、18歳投票（前掲改正国民投票法27・05）引き下げを決めたにも拘わらず、その対策の危機感を表明した。

今回の住民投票は公職選挙法に基ずく選挙とは異なり、なんでもありの（選挙費用もバラ、ポスターの枚数・TV、CMなど）激しい選挙戦の結果が僅差であった。

憲法改正という国民の最大関心事が果たして、どのような判定になるか、待に9条のためにも国民投票を大切に行きたい。
(27・05)

受動喫煙防止を！

薬物乱用防止の一環として小学生に「ダメ・ゼッタイ」を講義する際、タバコと酒が薬物乱用のゲートウェイであることを強調した。そのため家庭内での喫煙と飲酒が子供の関心事になった。

健康寿命の伸延のため、肺ガンの元凶である「タバコ」は一方ではその高い税収が国の財政に寄与している矛盾が児童を困惑させている。

2020年東京五輪・パラリンピックに向けて、日本学術会議は東京都に対し公共の場での受動喫煙を防止する条例の制定を提言したが、むしろ国に対し法律で分煙を止めさせた方がよい。

脱タバコ社会の実現は、心肺機能向上や対ガン対策に寄与する医療費削減にも繋がるのだ。強い意志でタバコは止めて欲しい。自分の為にも、愛する家族の為にも。
(27・05)

かかりつけ薬局

表題は開局中から言い続けて来たことだったが、「おくすり手帳」で管理一元化が可能の中で、国の規制改革会議健康医療ワーキンググループと厚生労働省が、国に対し主病院「門前薬局」の見直しと「かかりつけ薬局」の普及を進めるようだ。

薬の経絡的な服薬指導により、患者がメリットを実感出来る薬局を増やす方針である。医薬分業の徹底で大病院内の薬局が廃止され、処方薬がオープンにされる利点と門前薬局の患者争奪があり、病院を変えると別の薬局に行くため服薬管理が難しくなる。

今こそ、薬の服用残しや重複を防ぐ為にも、「おくすり手帳」ともども、地元優先の「かかりつけ薬局」の

推進は、地元薬剤師会の念願でもあった。

(27・05)

東大逆転の勝利

5月23日東京大学野球春季リーグ戦で、東大が延長10回6・4で法大に勝ち、2010年秋から続いたリーグワースト連敗記録(2分け)を94で止め、5年振りの勝利を挙げた。今季はエラー数がリーグ最小の守備率で守り抜いての勝利とのこと。

わが母校法政も全力を出し切った結果とと思うので、お互いのチームを讃えたい。そして「文武両道」で競い合う姿にエールを贈る。絶対勝つという東大の根性が、連勝すれば優勝が視野に入った法政に優ったと言える。

明治29年5月23日奇しくも日本で初めて野球試合を行った東大の前身一高が横浜外国人チームと対戦し29・4で大勝したと記録があった。

根性野球の成果が実り、負け続けていた弱い東大を六大学の枠内で見守り続けている関係者に感謝したい。さらなる勝ち点も可能である。

(27・05)

関取り誕生

混戦の27年夏場所、終わって見れば照の富士の優勝で23歳の平成生まれが両手に花の大関昇進を果たした。日頃の稽古の賜物で「上を指す」と力強い口上を聞いた。又してもモンゴル勢の快挙ではあった。

どっこい、日本人の若手が台頭して来た。長野県出身で幕下の「御嶽海」みたけうみ(出羽の海部屋)が期待どおり幕下10枚目付け出し2場所(6勝2敗2回)新十両昇進を果たした。同時に幕下優勝の高木立夫(木瀬部屋)も全勝で新十両(7月12日初日、名古屋場所)を確定した。彼は拓殖大出身だが前相撲から8場所(小錦と同率5番目)のスピード出世である。「高立(たかりゆう)」と改名した。同条件で先場所十両入りを果たした「大翔丸(川端) 追手風部屋」と若手三羽鳥が揃った事になる。モンゴル勢の頂点4人に向かって、国技の相撲に日本人として羽ばたいて欲しい。大関稀勢の里も安閑としてはられない。

特に、「御嶽海」はご当地長野県の47年振りの関取誕生である。個人的にも県人会事務局長としても応援しよう。稽古が大切だが「けが」が大敵、白鵬やイチローがお手本だ。

(27・06)

健康寿命と二つの年齢

私から見れば若い五、六十代のガン死が報道され、医学の進歩が追いついていない悲しい逆縁が現実に多くなつて来た。

寝たきりや、認知症を超え、世界有数の長寿国の健康寿命を延ばしているお年寄りにとって、子供の死を見送るほど悲しいことは無い。日頃の生活習慣で特に食生活が次の三つの「年齢」を支配する。

- ①血管年齢（動脈硬化を防ぎ認知症を減らす）
- ②骨年齢（寝たきり二大原因が脳卒中と骨折）
- ③腸年齢（腸内の善玉・悪玉菌のバランスで免疫力を高める）

この三つの「年齢」を保つ「十項目」の食生活改善で健康寿命を延ばそう。

- (1) 白の制限（白米・砂糖・塩）。
- (2) 野菜・果物を主に。
- (3) 肉食を鳥・魚に（四つ足は止める）。
- (4) 乳製品、酵素類。
- (5) 大豆製品。
- (6) 卵。
- (7) 油はオリブ・ゴマ油に。
- (8) 海藻・茸。
- (9) いい水。
- (10) 禁酒・禁煙。（既報ガンにならない10の法則から）

(27・06)

舌回し、ほうれい線

年一度のアマチュア歌謡祭での事。審査員のY先生の確な批評の中で「活舌法」で発音を綺麗にし、歌の内容を正しく伝えるようにと、ご専門の楽理論を述べられていた。

歯科大学教授式「3分間舌回し美顔術」が女性週刊誌で注目されている。それによるとブルドッグ並の皮膚の「たるみ」や「むくみ」「目尻のシワ」「クマ」「シミ」がその原因のひとつである舌の衰えを活かす「活（滑）舌法」で「ほうれい線」が消えると言われ、歯科学会も注目している。

舌を回し挙げ、活力を与えると「ほうれい線」のタルミが消え、二重アゴも解消すると、良いことづくめである。カラオケを歌う前に、「カキケココカコ・・・」とアナウンサー並みの発声練習をお薦めする。20歳若返る。お確かめを！

(27・06)

変形性膝関節症

関節内でクッションの役割を保つ軟骨が、老化や経年変化で弾力を失い、擦り減って発症し、関節部への負担増で炎症が起こったり、水が溜まって腫れ、膝の伸展時に痛みを生ずるのだ。原因は加齢や肥満、女性

ホルモン分泌低下、激しいスポーツ、遺伝等が挙げられる。一方で、股関節や足首の堅さ、運動不足による筋力低下が悪化の要因でもある。

トイレの洋式化、寝具のベッド等で膝の屈伸や、しやがんだ姿勢が維持できず尻が床についてしまう。足首が堅いと胡座が出来ない。

自らする改善法は、減量（体重のコントロール）や筋力トレーニングを行い、股関節や足首を回すなどして、ほぐし、緩める運動から始めると良い。炎症期で無ければ、膝は冷やさず、入浴中に屈伸運動で可動域を広げたい。

痛みを我慢したり、治らないと諦めたりせず、重症化する前に速めに発見と治療をお薦めする。O脚、X脚にならないよう膝は大事にしよう。（27・06）

大腸がん

40代からの発症者が増える大腸「がん」は早期発見、治せるがんでもある。

国立がん研究センターの予測では本年新たに大腸「がん」と診断される人は135,800人、今年初めて全ての「がん」の中で最高の見通しと報告された。大腸「がん」の死亡者は女性で一位、男性も肺がん・

胃がんに次いで三位。日本人は半世紀前から8倍となり、主原因は食生活と高齢化、生活習慣病である。

四つ足肉（赤肉）やその加工製品（ハム・ソーセージ等）、飲酒・喫煙が発症リスクを増大すると言う。

日本人は欧米人に比べ、大腸が長いと言われる。言うならばライオンと牛の違いかも。便秘等が停滞因子であるため、大腸「がん」予防の一つに生活の改善と適切な運動（30分の軽い運動と一時間位のウォーキング）がお薦めである。（前掲食生活10法参考）（27・06）

高校生の主権者教育

18歳選挙権付与で、高校3年生の半数近くが有権者になる。選挙管理委員会・明るい選挙推進協議会・教育委員会そして校長会がスクラムを組んで、高校での政治教育を進める環境造りをしなければならぬ。それは、如何に良質な「主権者教育」が為されるかに懸かっている。

現在、若い世代の政治への無関心や低迷する投票率の中で、新たに約240万人の有権者が加わる訳だ。教育基本法には「良識ある公民として、必要な政治的教養は教育上尊重されなければならない」とある。

遅きに逸しているが、高校生の主権者教育に期待するものである
(27・06)

指圧は按摩に非ず

指聖浪越徳治郎先生は「指圧は按摩（あんま）に非ず」と資格の法制化を成し遂げられた。世界に冠たる指圧の効果は「法」の位置（按摩・マッサージ・指圧師法）を高めた訳だ。

昨今、理容室（床屋）と美容院が客の取り合いで揺れ、一本化しようとして揉めている。厚生労働省は1917年の理容師法と1957年の美容師法が根拠で、「法」の区分遵守を盾に夫れ夫れの免許は維持する方向の様だ。つまり男性が美容室に出入りする問題の規制緩和が争点なのだ。

医科の分野は内科も外科も一本の医師免許なのは、高度の修行の位置づけと思うが、分けて欲しいのは死亡事故続発の移植外科など戴けない事実もある。
(27・06)

民主主義への挑戦

安保法案に関し「憲法違反」と指摘される法案を国民に理解させようと言う。

表現や言論・報道の自由は民主主義の根幹なのに、権力による統制や弾圧が日本を破滅に追いやった事実を認識しているのかと言いたい。

自衛隊が今、国民の支持を得ているのは、自衛隊は一度も戦争をせず、海外で一発の銃弾も撃たず、災害で人々を助けて来た積み重ねの上にあるのだ。憲法の平和主義に徹し、外国の戦争には加わらない、武器は使わない原則を貫いて来たからだ。

今回の法案はそれを変えてしまうのだ。民主主義の基本理念に反する、多数党の奢り（おごり）では無からうか。あえて廃案を願うため筆を取った次第。
(27・06)

学校検診

文部科学省では来年度から小学校の健康診断から「座高測定」と「ぎょう虫検査」を廃止するようだ。

先頃、担当の小学校の保健委員会で、「姿勢」について私見を述べた。成長期の女子の「青春側湾症」について脊椎変形の原因が重いカバンを片方に偏重して持ったためと解剖学で学んだことと、近頃子供の身体に異変（腕を真つすぐ挙げられない、猫背、しゃがむと後ろに転ぶ、身体が堅く、バランスが悪い等）が目立ち、

疲れ、肩凝りといった症状が大人並に現れているようだ。原因として、終日同じ姿勢でスマホ等のゲームに夢中になった結果である。正しい姿勢を保つようPTAの父母委員に訴えた。

国は来年度から小・中学校の学校検診で、四肢発育の状態を見る検査を義務付けると言う。食事内容が良くなり、栄養状態が改善された結果、手足が伸びて、胴長が減り、座高検査も不要になったのだから、なおさら姿勢のチェックは重要である。

子供達よ、身体を鍛える為に、外に出て元気に飛び回れ！
(27・06)

ある日の新聞社会面

戦後70年、沖繩戦の「ひめゆり決死の脱出」のお二人の女性は、語り部として事実を伝え続けたい、悲しい歴史を知らずに平和を考えることは出来ないと言語。共に87歳、89歳になられる。

同面に比較しては不謹慎かも知れないが、知名人三方(80、89、89歳)の死亡通知が記載されていた。共に80代を力強く生き抜いて来られた記録である。

昭和90年に当たる今日、元気でご活躍の大正生まれ、そして昭和一桁の先人たちに心から更なる感謝と敬意

を表したい。健康で長命であることを祈って！

(27・06)

安保法案抗議

93歳の瀬戸内寂聴さんが死を覚悟して(病を推して)18日、国会議事堂近くで繰り広げられた「安全保障関連法案」に反対する抗議行動に出られた。「命懸け」のスピーチが2000人の参加者の心に深く刻み込まれた。

国会で審議中の集団自衛権の行使容認を柱とする上記法案に反対する、地方の市長(野田市)が市議会でも反対を表現した。日弁連等の「安保法案違憲表明」が相次ぐ中、これらの行動から国会では何故理解せず、否決出来ないのか、議員達の良識が疑われる。

今こそ、「憲法九条を改悪し、戦争に近づく安倍首相の行動に断固反対する国民運動」を起すべきである。戦後70年、多くの犠牲の中で得た「平和」を守るためにも！
(27・06)

※タイトル「記備談語」とは「記事・備考・談話・語録」の頭文字から命名。関係団体への情報を勝手連的発想で、日々アンテナを巡らせています。
(薬剤師・指圧師)

忍耐は幸福の鍵

豊泉 清

どこの国にも大勢の人が日常会話で口にする格言がある。短くて簡潔な文の中に人生の知恵が凝縮されているから、外国語を学ぶ際に、暗唱用短文の教材として打って付けたと私なりに解釈して、日頃から格言を丸ごと暗記するように心掛けていた。では辞書で見つけて雑記帳に書き留めておいた格言の中からいくつか抜粋して紹介してみたい。

◆中国語は漢字だけで表記するから、外国語としての系統的な知識がなくても、字面を追うだけで何となく理解できる表現が結構ある。

行要好伴、往要好隣

「道に行くには良い伴侶が必要、住むには良い隣人が必要」と解釈できる。「旅は道連れ、世は情け」の中国版である。

千里馬常有而伯樂不常有

「千里走る名馬は常にいるが、名馬を正しく評価できる伯樂は常に居るとは限らない」

伯樂は馬の鑑定眼が優れており、名馬か駄馬か瞬時に判断できる特殊な能力の持ち主である。どんなに優れた才能を秘めている人でも、その才能を見出して正しく評価できる人物に巡り会わないと、せっかくの才能が開花せずに、生涯埋もれたまま過す場合もある。

捨華求実

「華を捨て、実を求めろ」と訳せる。華やかな外観よりも充実した内容の方を重視する。日本の「花より団子」と瓜二つの発想である。因みに花と実を同時に手に入れると「才貌双全」と表現する。才能と容貌、つまり実質と外観が共に完全と解釈できる。

売油娘子水梳頭、売鞋的赤脚跑

「髪油を売る娘が水で髪の毛を梳（とか）す。靴を売る者が裸足で走る」

髪油を売る女性商人が自分の髪は水で梳かしている。鞋は靴、赤脚は裸足（はだし）、跑は走るという意味である。靴の商人が裸足で走っている。「医者の不養生」や「紺屋の白袴」に相当するという解説が辞書に載っている。

◆韓国語はハングルという固有の文字で表記する。では韓国語辞典で見つけた格言をいくつか列挙してみよ

う。(図1)

1. 「水は深ければ深いほど音がしない」

浅い水は音を立
てて流れるが、深
い水は静かに流れ
る。実力のある人
は謙虚である。「能
ある鷹は爪を隠す」
の韓国版である。

2. 「木登りが上手な者は木から落ちて死に、泳ぎの上手な者は水に溺れて死ぬ」

得意とする分野でも失敗することがある。日本の「猿も木から落ちる」や「弘法にも筆の誤り」に相当する。

3. 「下手な薬屋が人を殺す」

客の症状に合わない薬を調合して、却って健康状態を悪化させるような薬剤師である。生かじりの中途半端な知識や経験で物事に手を出すと必ず失敗する。「生

1. 물이 깊을수록 소리가 없다
2. 나무에 잘 오르는놈 떨어지고 헤엄 잘 치는놈 빠져 죽는다
3. 어설픈 약국이 사람 죽인다
4. 가마가 검기로 밥도 검을가
5. 뿌리 없는 나무에 잎이 필가 図1

兵法は怪我の元」に相当する。

4. 「釜が黒ければ飯も黒いか」

黒い釜で炊いたご飯が真っ白である。表面だけで内容を判断してはいけないという戒めである。

5. 「根の無い木には葉が無い」

葉が茂っていれば、その木には必ず根がある。日本の「火の無い所に煙は立たず」に相当する。

◆古代ギリシヤでは学問や文芸が大いに栄えた。西欧各国語に訳されて世界中に広まったギリシヤ語起源の格言が数多く存在する。ではギリシヤ語辞典で見つけた格言を披露してみよう。(図2)

1. 「二羽の燕では春にならない」

高校の英語の授業で習ったことがある。一羽の燕を見て「春が来た」と喜んでいると、翌日急に冷え込むこともある。速断や即断の戒めとしてよく使われる。

2. 「点滴石を穿つ」

やはり高校の英語の授業で同じ内容の格言を教わった。ぼつりぼつりと落ちる水滴でいつしか石に穴が開く。小さな努力でも長く続ければ大きな成果が達成できる譬えとしてよく使われる。

3. 「転がる石には苔が生えない」

これも高校の英語の教科書に載っていた。絶えず活動していれば沈滞しないという譬えで、本来は転がる石は善なりという解釈だが、一ヶ所に落ち着けず、のべつ居場所を変えていると大成しないというのが日本流の解釈である。西欧とは逆に、転がらずに苔が生える石の方が善なりと日本人は評価している。外国の格言の解釈が逆転する例としてよく引用される。

4. 「沈黙が言葉に勝る場合もあり、言葉が沈黙に勝る場合もある」
日本では「沈黙は金なり」という一方的な表現だけ

- | | |
|---|----|
| 1. <i>μία χελιδὼν ἕαρ οὐ ποιεῖ.</i> | |
| 2. <i>πέτρην κοιλαίνει βάνις ὕδατος ἐνδελεχείη.</i> | |
| 3. <i>λίθος κυλινδόμενος τὸ φύκος οὐ ποιεῖ.</i> | |
| 4. <i>ἔστι δ' οὐ σιγὴ λόγου/κρείσσω γενοίτ' ἄν, ἔστι δ' οὐ σιγῆς λόγος.</i> | |
| 5. <i>μίαν μὲν γλώτταν δύο δ' ὦτ' ἔχουσιν.</i> | |
| 6. <i>ἀρχὴ ἤμισυ παντός.</i> | 図2 |

が流布している。高校の英語の教科書にも「沈黙は金なり」だけが登場した。

5. 「人間には舌が一つしかないが耳は二つある」

自分で喋るより他人の話を聴く方が大事だというお説教に由来するそうである。

6. 「始めれば全体の半分」

仕事に着手すれば既に半分は完成したに等しいという認識である。着手しなければいつまでもゼロである。

◆アラビア文字は曲線と点から成っており、右から左へ書く。ではアラビア語辞典で見つけた格言を披露してみよう。(図3)

1. 「もし決意が本物ならば道が開ける」

「精神一到何事か成らざらん」のアラビア版である。

2. 「困難と共に安楽がある」

「苦あれば楽あり、楽あれば苦あり」のアラビア版である。

3. 「ゆつくり行くと安全、急いで行くと後悔」

「急いで事はし損じる」と同じ発想である。

4. 「反復の中に利益がある」

忍耐強く何度も繰り返して練習してこそ技能や知識が身に付く。

5. 「忍耐は幸福の鍵」

辛抱強く努力を続けていけば未来はバラ色である。4番と5番が私の最もお気に入りのアラビア語の格言である。

◆ロシア語のアルファベットは、ローマ字と同じ文字がほぼ半数、

ロシア語固有の文字がほぼ半数を占めている文字体系である。では最後にロシア語辞典で見つけた格言を披露してみたい。(図4)

1. 「熊でさえ鞭で打てば芸が仕込める」

熊も仕込めばサーカスで観客を楽しませるような演技ができるようになる。教育のない人間は熊にも劣る存在とロシア人は見なしているようである。

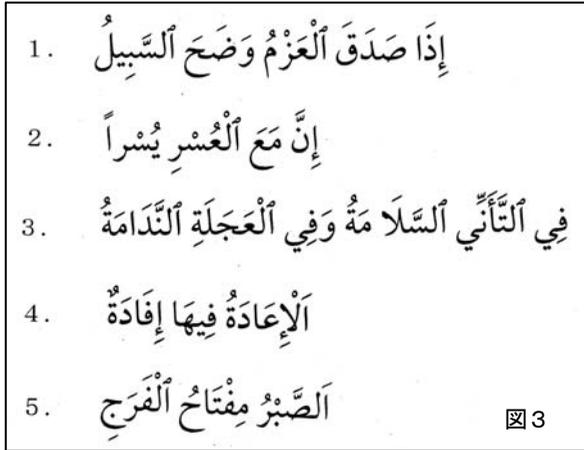


図3

2. 「二頭の熊は一つの穴の中で仲良く暮らせない」

熊には単独行動をする習性がある。この格言は「両雄並び立たず」の意味で使われている。

3. 「熊を殺す前に毛皮を売る」

熊を射止めて毛皮を剥いてから売るのが手順である。日本の「捕らぬ狸の皮算用」に相当する。

4. 「狼から逃げたら熊に出会った」

狼に襲われて何とか逃げ切ったら、今度は目の前に熊が現れて襲ってきた。中国語には「前門拒虎、后門進狼」という表現がある。前門では虎が通り抜けるのを拒絶し、後門からは狼が近付いてくる。進退ここに窮まれりという状況である。

5. 「狼と一緒に暮らしたければ狼のように吠えろ」

「郷に入りては郷に従え」のロシア版である。

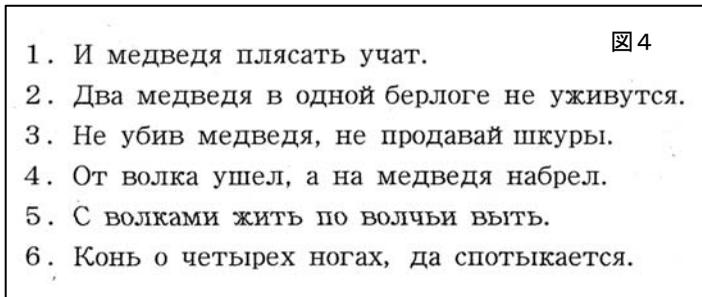


図4

6. 「馬は四本足だが、それでも躓（つまず）く」

四本足の馬は二本足の人間に比べれば遥かに安定しているから、絶対に転ばないと思いがちだが、それでも躓いたり転んだりすることもある。「猿も木から落ちる」「河童の川流れ」「弘法にも筆の誤り」などに相当する。

◆手元の中国語、韓国語、ギリシャ語、アラビア語、ロシア語の辞典で見つけた格言を披露してみた。若い頃に独学で上掲のローマ字以外の文字も少々齧ったことがある。「文字は習えば読める。習わなければ読めない」という、小学生でも理解できる極めて単純明快な論理に基づいて勉強を始めてみた。

学校で英語を習った日本人は、外国語と言えば反射的にローマ字で書くものと考えるのが常識と思われる。本稿はローマ字を一文字も書かないで外国語が論じられるかという反常識的な仮説に基づいて試みた実験でもある。本稿を書き終えて「仮説の正しさが証明できた」と感じている。

【医芸柳壇】

豊泉 清

胃葉でお開きにする宴の席

食通の口はよく食べよく喋り

天高く二言めには痩せたいな

天高く財布の中身は痩せ続け

夏痩せをしない体質つらい秋

異常気象夏バテ治らず秋もバテ

ダイエット口にしながら食進み

飽食を粗食に変える老いの智慧

おかわりと茶碗差し出す食の秋

柿たわわもぎ手のいない過疎の村

慢性医療の一コマ

斎藤 三朗

主治医への遺言 其の一

【悪性リンパ腫の安藤さん（85歳）】

平成22年9月、近くの総合病院から症状が落ち着いたとして転医されてきたのです。

一年余りの抗がん剤医療のため痩せた体型は見るに忍びない状態でしたが、話しぶりはしっかりしたのでした。

「先生初めまして安藤です。先生の笑顔を見て安心しました。病気の事は後にしてわしの人生を聞いて下さいませんか。」

「どうぞベッドに寝てからで結構ですよ」

佐渡から出て20余年の人生記

ご存じでしょうか佐渡島は狭いですので百姓の五人兄弟だった我が家では家を継ぐのは所詮長男ですから、わしは高等小学校卒業とともに近所の仲間と新潟市に行ったが職はなく夜行列車に仲間と乗り込んで上野駅

に早朝つきました。手に職などない12歳の子供を引き受けて呉れるはずはないのです。東北からの若者はつてがあつてか早く就職できるようにだが佐渡出には厳しかった。浮浪児のような暮らしもやったが仲間と「横浜に行こう」と話があつて電車で横浜に。

まったく偶然に新潟出の先輩の案内で建具さんの丁稚に雇ってもらえました。懸命に建具工に努力して10年経つて漸く一人前近くなつて親方が小店を持たせて呉れたのでした。

22歳で建具や横浜で開業

小さな作業場だったが、一人でこつこつと茶箆笥や机などせつせと作つては売つたものです。幸いぐらかの蓄えも出来たので世話する人がいて、家内に巡りあつたのです。やがて二人の子供にも恵まれて狭い我が家にも笑いが絶えなかつた。しかし大東亜戦争が始まつてましたし、すべてが戦争勝利のためといつて「贅沢は敵」として人々は必至に働いていたのでした。しかし戦争が終わり？に近くなつたせいにか国民総動員への掛け声が一層つよまつたのでした。でもわしらは敗戦らしいと思つてました。

戦争が始まって3年程して戦況は不利になってきたのです。南や北の島々での玉砕が報ぜられるようになってきました。

中でも昭和20年5月29日の午前10時半頃の日中、サイパンをでたB29、200機が横浜を襲ったのです。焼夷弾が雨のように降り注いだもの、わしの家もやがて燃えるに違いないとまだ幼い子供にもできるだけ工具を持たせて横浜の北を指して退避しました。この事があとで良かったのでした。

8月15日お昼に天皇がラジオで重要なことをすると隣組みから知らせがあり、焼け残った仲間の家にお邪魔して一家四人がラジオの前に座ったのでした。最初のことばはちよと聞こえなかったが、大筋は我が国は負けたんだということだった。夫婦や仲間たちは涙を流してた。でも其のうち「やがて平和になったんだ」万歳の声があちこちからおきてきた。

焼け落ちた家や作業所も出来て子供にも手伝わして建具、机や椅子、茶缶筒などまに合わないほどいそがしかった。

復興の横浜でも複雑な動きに

とにかく戦後の状態はどこでも同じだったと思いま

すが闇屋さんが大手をふるっていたし、お金さえあればなんでも揃ったが、建具屋も材料の高騰にはなやまされた。しかし横浜市全土家具が必要なのでした。工夫によって材料を少なくして値段を抑えました。やがて子供が大きくなっておやじのマネをしながら机なども作れるようになったのです。

今日はもう長くなつてしまいましたがこの辺で終わります。また明日はわしの最後の人生の話としましう。

最後のわしの人生ものがたりです。

「お早うございます。先生握手しましょう。」

「昨夜はよく眠れましたか。朝食はどうでしたか。遠慮なくなんでもおっしゃって下さいね。」

「さて今日はわしの病気についての話ですが、わしは80歳になるまで病氣らしい病氣はしてなかったんです。たまたま82歳の時に市から大腸ガンの検診通知がきたんで、いつもの開業医さんの所に行ったのです。

「安藤さん珍しいですね。毎年の健康診断では立派な結果の人が大腸ガン検診にね。この結果は四日もすればわかりますよ。」

そうこうするうちに結果を聞きにいったが、先生は

「安藤さんは痔もちではないですよ。少しですが大便に血液がまじっています。心配はないですが知り合いに大腸カメラの達人がいるので紹介しましょう。」と話してくれました。

あつという間に大腸カメラを終えて先生は「肛門から数十センチ上に15ミリのポリープがありました。数日してカメラで取りますのでお出でになつてください。」

確かに5分程で終了したんです。

83歳に自覚もなく体重が30キロ減少！

一年体重の変化にはあまり気にしなかったが自分もこれはただ事ではないと家内とともにまた開業医先生に。「胸のレントゲンや心電図にも異常なし。」、体の診察も済んで「結果がでるまで三日後にお出でになつて下さい。」

先生は「血液の状態は白血球の数がやや少ない以外には、糖尿病や、甲状腺の病気も見当たりません。安藤さんからだのどこかに異常はないですか。」

「そういえば痛みはないのですが口の奥にウズラの卵の半分くらい腫物が2か月まえからあるのですが、出血もしなかったのですのままにしておいたのでし

た。」先生は早速みて「はは！これが問題だったんですね。早速精密検査のため大病院の血液内科に紹介します」

大病院では毎日検査の連続でした

横濱市立医大では毎日のように検査がつづきました。CTやMRIなどは苦痛がないのですが採血や胸板からの採血は厳しいものでした。

検査が終わり先生が「結果が判りましたので奥さんや子供さんをお呼びください。」と。

先生は「安藤さんの病気が悪性リンパ腫ですね。高齢者もあるし抗がん剤は厳しいでしょう。」安藤さんも「もうあれは副作用も強くて二度とやりたくないですよ。」

先生も「苦しみから逃れるには患者さんの心がけが第一です。今入院してる病院の先生とよく話し合ってみて下さい。」

家内も二人の子供も「再発なら仕方ないのかオヤジさんが納得いくまで斎藤先生と相談してみたら。」と「どうせなら楽な死に方を選んでみたい」と安藤さんは小さな声で答えてました。

大聖病院から帰って「先生薬な死に方をしたい」と。

先生と話し合った結果、

1) 病氣と関係ない治療はしない。栄養剤の点滴もしない。

2) 痛みが出た以外には余分な注射はしない。

3) その時は先生がやってる麻薬の使用しない方法を是非やってください。

4) 出来るだけ口からだけの食事、スープなどでやる。

5) 病氣がさらに厳しくなっても個室には移動しない。

以上の五項目でこれからの療養にすることにし、職員とも一致した。

口の中にある腫瘍も次第に大きくなりましたが出血もなくスープなら異常もなく飲み込みました。

「先生に遺言がありますよ。」

「先生、お早う御座います。握手してください。明日は大東亜戦争が始まった日になりますね。私の人生は抽選に外れたんですか戦争にはいかなかったの」

今日は握った握手の力が次第に弱くなるようすです。

た。

「先生、お昼過ぎには家内や手が空いたなら子供や孫にも会いたいです。」「皆が車で間に合わないようですの、先生にわしの遺言をしておきましょう。」

「最初は御約束した薬な死に方が出来たのに感謝します。第二は故郷に遺骨の一部を持っていてください。第二は家内の今までの苦勞に感謝します。子供や孫たちも仲良くしてください。第四は戦争は止めてください。本当に有難う御座いました。」

昼のスープを美味しそうに飲んでから家族がそろって来た時間静かに命を終えた安藤さん、享年85歳でした。

☆此の物語は「清水が丘だより、27号、平成24年1月1日号」の抄録に掲載してあります。

主治医への遺言 その二

【慢性喘息に悩まされた中山さん（77歳）】

チャイグストラウス症候群で

ある朝の事、回診が終えて何時になく機嫌が良かった中山さんが「先生わたしね、お話ししたいことがあります」

ます。私は7人もの大勢な中で育ったのですが、五番目のひよわ児で小さい時から喘息で苦しんできたんですよ。男兄弟は三人シナ事変に行き、あの時は名譽の戦死だと言われたのをまだ10歳くらいだったので覚えてます。

結婚しても子供に恵まれず夫と戦後苦しみの中で働き口を見つけては稼いだものでした。そんな状況でした中で病気の連続で、子宮筋腫や喘息で悩んでました。近所の開業医の先生が「貴方の喘息は長かったのでまこれに見るチャージグストラウス症候群という状態になっているのですよ。」と。

「先生難しい病名を忘れないで良く覚えてると思いますでしょう。失礼でしょうが先生も「存じですか」と。

「わたしの大学時代の小児科の先生がアメリカ帰りの先生だったので、難しい病名の一つのチャージグストラウス症候群、つまり喘息患者さんに希に起こる全身におこる血管の破壊の病気だと教えて戴いたことがあります。わたしはまだ見てない症候群だが勉強してみましよう。」

長い事わたしをみてきた日赤病院の先生は「あなたの病気はその症候群だと思いますので、我慢しなくてすぐ病院に入院してくださいね。」と言われたのを覚えて

てますが、「まだまだわたしには病気がついて回ったのです。」

慢性C型肝炎で6ヶ月治療を

50歳を過ぎた頃でしたが「からだがだるくて小便が黄色くなったので開業医の先生に相談した所「中山さんは40歳のころ子宮筋腫をやってますよね。その時やった輸血のせいでC型肝炎になったのですよ。日赤病院の内科に紹介しましょう。」

50歳台の半分は入院してインターフェロンの注射をやりました。噂に聞いてたのですが副作用もあり大変でしたが、幸いの事にウイルスが消えたのでした。此れで肝臓ガンにはならない！と満足したのでした。」

夫の急死。わたしは転んで肋骨骨折

夫は持病がなくて安心していたのですがある日のあさ急に胸が苦しいと言ってるうちに命を絶ったのでした。警察のお世話になって解剖までして戴いて心筋梗塞ということが判ったんです。

「ショックで家の中で転んで胸を打ったので一時はわたしも死ぬのではと思ったりしました。幸い救急車で日赤病院に運ばれて肋骨三本が折れただけで3ヶ月

入院して退院になりました。」

ケースワカーさんが「中山さんね。これから一人暮らしは大変ですのでどこか病院を探してみましかか。」と話してくれて、

紹介されたのが清水が丘病院でした。

「この病院は知らなかったですがついた時、看護師さんや事務のかた、レントゲン技師さんも親切でひと安心しました。入院してから喘息の発作も軽くすんで今日まで185日も過ぎてしまいました。長くなりましたがあとは明日にでもお話しましょうね」

やはり家に帰りたいです！

「お早うございます。昨日は私の情けない病気の話ばかりで申し訳なかったです。今日はもうしばらくまえに気になっていたのでありますが、この所気分も良くなったので窓際にあたって外を見るのが多くなつたせいで窓から見える黄色い花に注目しています。わたしのマンションでもそこには色々の花々もありますが、もう近所や親せきもあまり来ません。でも家には帰りたいです。」

「あの黄色い花はなんでしょうか。私も知らなかつ

たので今日家に帰ってから調べてみましょう。」

「金糸梅」が気を和ませてくれた！

翌々日先生は一枚の写真をもってきて「あの花の名前は「金糸梅（キンシバイ）」と言って16世紀頃に中国からわたってきた花で、オトギリソウ科の花という事がわかりました。一体どこから持ってきたのかをあの小公園の管理をやつてる医事課の人に聞いた所、あの花はもつと小さい時に家の周囲にあつたものをもつてきたの。今では大きくなり見事な花を咲かせているんです。と答えてくれたんですよ。」

「あの黄色い花は遠く挑めているだけで心が落ち着いてくる不思議な花ですね。私のマンションにはああいふ花はないですし、最近はお訪ねてくれる人もないしさびしいですよ。」

「金糸梅」をジット二階の窓から眺めていた中山さ



んは秋が迫つてくるとかなり消耗してきた様子で

「先生、私はもう天涯孤独の身です。あと少しの命だ
ろうと思えますので喋れるうちに先生に遺言を話して
おきますが宜しいでしょうか。『わたしのような孤独と
なつてゐる老人にも楽しみがある様な生活が送れるよう
な世の中を作つて下さい。もう一つは病院の生活でも
和みがあるようなものを作つて下さい。』の二つです。」
と。

やがて冬が近づいてくる気配を感じ朝から軽い喘息
が出て朝食もほどほどに呼吸が静かになつて鬼籍に入
られたのでした。

☆此の物語は「清水が丘だより」の34・35号に抄録が掲載して
あります。

機上の名画座

嵐の砂漠

今年の2月、大砂漠の光景を体験したくてモロッコへ出かけた。ところが砂漠のホテルに着いた晩から強い風と横なぐりの雨にみまわれ、それが4日間も続いた(図1)。青い空、白い雲、砂漠の果ての地平線といった光景をあきらめて、カサブランカ空港から日本に帰った。持参した本は嵐のホテルで読み終えてしまったので、20時間におよぶ帰りの機中は映画を見て過ごすことにした。座席のポケットにある映画のリストを開くと、作品のタイトルがジャンル別、言語別にズラリと並んでいる。日本語の作品も10本以上ある。まず日本で見逃した「柘榴坂の仇討」をクリックした。

鈴木 啓之



【図1】 サハラ砂漠の嵐(モロッコ)



【図2】 映画「柘榴坂の仇討」主人公のふたり

「柘榴坂の仇討」ざくろさか あだうち
原作は浅田次郎で、2014年に映画化された作品である。安政7年3月3日、幕府大老 井伊掃部頭直弼いいかもんのかみなおすけ(中村吉右衛門)の行列が江戸城に向かう。雪のなかを行列が進む俯瞰シーンは秀逸である。行列が桜田門に近づいたとき、水戸浪士が襲いかかり大老は暗殺される。不覚をとった警護の藩士 志村金吾(中井貴一)には仇討の藩命がくだる。長屋住まいをしながら仇を

さがすが、歳月だけがむなしく過ぎる。やがて時代は明治となり武士も藩もなくなり、仇討禁止令も布告される。苦難の末に襲撃犯のひとり佐橋重兵衛(阿部寛、いまは直吉と名乗り車夫に身をやつしている)をやつと見つけだし一騎打ちをいどむ。しかし刃をかわずうちに亡き大老のことばがよぎり金吾は刀を下ろしてしまふ。その夜金吾ははたらく妻のセツ(末広涼子)と落ち合い(図2)、ふたりは人通りの絶えた江戸の町を連れ添って家路をいそぐ。「あす掃部守様のお墓に参りたいと思う。お前もお供いたせや」と金吾が言うとき妻は「はい」とこたえる。映画はふたりの後ろすがたをいつまでも映して終わる。

井伊大老のお墓は世田谷の豪徳寺にある。このお寺は私の家の菩提寺で、両親もここに眠っている。井伊家の墓所は大きな一画を占め、大老をはじめお家にかわる方々の墓石が立ちならぶ。樹齢を重ねた大銀杏が何本もそびえている。小さいころから家人に連れられて墓参に訪れ、いまは子供や孫と年に数回訪れている。映画が終わったあとしばらく目を閉じてお寺の光景を思い浮かべながら旅情に浸った。(今年のお彼岸に墓参で訪れた際、井伊家の墓所に寄ってみた。井伊大

老の墓石はひととき大きく、正面に立つと宗観院殿に始まる21文字の長い法号が読める。墓所には四代の藩主とともに、正室、側室、家臣らの墓石が雨にぬれてたたずんでいる。そぼ降る雨のなか緑がひとときわ映える日であった。)映画のリストで次に目に入ったのは「すべては君に逢えたから」というタイトルである。

「すべては君に逢えたから」

東京駅開業100周年記念企画とある。2013年の秋に全国公開された作品だそうだ。東京駅を舞台にした男女6組のカップルが演じる悲喜こもごものラブストーリーである。そのなかのひとつのカップル(玉木宏、高梨臨)が初めてのデートで映画館に入る。見ている映画が「カサブランカ」で、ほんの数秒のワンカットだけ映画の画面が映り、「君の瞳に乾杯」というテロップが読める。監督の「カサブランカ」にたいするオマージュであろう。

数時間前に発ったカサブランカの街が舞台の映画である。急にオリジナルの映画を見たくなりリストを開くと英語版「Casablanca」が見つかった。さっそくリックする。

「カサブランカ」

1942年(昭和17年)にアメリカで公開された古典的作品である(図3)。学生時代にリバイバル版を新宿の映画館で見た。時



〔図3〕 映画カサブランカのポスター

代は第二次世界大戦下、舞台はフランス領モロッコの都市カサブランカである。ある晩リック(ハンフリー・ボガート)の経営するクラブに偶然むかしの恋人イルザ(イングリッド・バークマン)が、反ナチスの運動家である夫とやってくる。夫妻は第三国に逃亡する途上にあるが、偶然再会したリックとエルザは再び燃え上がりややこしいことになる。しかし、結局男は女性とその夫に入手困難な通行証を渡して逃亡を助ける。

印象に残る回想場面がある。ドイツ軍の砲声が近づきパリ陥落も近い。リックとエルザはパリ脱出を計り

列車の駅で待ち合わせる。しかしエルザはなかなか現れない。雨のなかをイライラしながら待つリック。そこに「残念ながら私は行けません エルザ」というメモが届く。雨に濡れてインクの字がみるみる滲んで消える。中折れ帽にトレンチコートのリックは呆然と立ちすくむ。ボギー(ハンフリー・ボガートの愛称)が多くのレストランのこころをつかんだシーンである。着古したトレンチコートの皺に当時の若者はカッコよさを感じたものである。

BGMに主題曲 *As Time Goes By* のメロディーが切なくなられる。反ナチスのシーンをまぶした恋愛ドラマである。学生時代一緒に見た友人とともに感動を語り合い、数日間は甘美の世界に酔いしれていた。ハンフリー・ボガートもイングリッド・バークマンも世を去って久しい。今年のカヌ映画祭の公式ポスターは、生誕100年にあたるバーグマ



〔図4〕 2015年カンヌ映画祭公式ポスター

ンの笑顔の写真である(図4)。

こんな場面がある。酒場の女性がリックに「昨日どこにいたの」と尋ねると「そんな昔のことは覚えていない」と答える。「今夜逢える」と訊くと「そんな先のことはわからない」という。このキザなセリフを一度ぐらいいは言ってみたいものだ」と友人たちと冗談話を交わしたものである。撮影はすべてハリウッドのセットで行われた。実際のカサブランカは中層階の味気ないビルがならぶ無味乾燥な街である。映画に登場する白い壁の家々、止まり木のオウム、喧騒の広場などはスクリーンのなかだけのメルヘンである。

「モロッコ」

モロッコといえば、ゲリー・クーパーとマレーネ・デートリツヒの主演映画「モロッコ」がある。外人部隊の隊員であるトム(クーパー)と酒場の女性アミー(デートリツヒ)の恋物語りである。1930年の作品で、日本では翌年公開されている。医局に居たころの雑談で好きな映画女優の話になった。恩師のM教授は「ぼくはマレーネ・デートリツヒだな」(図5)と発言され、話が野球におよぶと「巨人軍の澤村栄治がマウンドで投げるのを上井草球場で見たよ」と言われた。

何世代もまえ

の女優さんや伝説の名投手を見た者はなく、みんな言葉につまった。機内の映画リストで「モロッコ」を探したが、さすが

に85年前の作品はない。

カサブランカから成田まで機上の名画座で2,3年分の映画を堪能した。眼が疲れたけれど楽しいフライトであった。(平成27年春に記す)



【図5】 映画モロッコの
マレーネ・デートリツヒ

【詩】

朝食

藤倉 一郎

雀が一羽
庭で餌をついばんでいます
真夏の朝のひととき
仲間のさえずりもなく
熱帯の気象の中で
疲労と飢えと
倦怠のまま
朝食です

父も母も妻も子も
みんな死んで
孤独な老いた雀の
朝食です

上空をカラスが
しゃがれた声で

わめきながら
飛んでゆきます

悔恨

藤倉 一郎

金魚が一匹だけ
水槽の中で
泳いでいます

この間まで五匹いた仲間が
突然死んでしまつて
わたしだけ一匹のこつたのです

四角い石のかげらと
二つの貝殻が底に沈んでいる
水槽の中

わたしは終日
壁にそつて巡つたり水面と水底を
いったりきたりしています

孤独と

無聊で

発狂しそうです

大勢の仲間と争って食べた餌も

欲しくありません

ひっそりと泳いでいます

仲間がいるということとは

何と楽しいことでしょうか

もつとやさしくしておけばよかった

深い悔恨だけです

終末

この荒涼たる世界には

一羽の鳥も

一匹の昆虫も

細菌やウイルスさえも

姿を消して

人間はもちろんいない

藤倉 一郎

悲しさも

寂しさも

喜びも

ときめきも

あらゆる情感は消えて

虚しさがどこまでも拡がる

季節は失われ

風も雨も

地震も台風も

すべて消去されて

孤独な魂が

ひとりさまよう

太陽も月も星も

すべて消失して

暗黒だけが広がる

光もない

音もない

終末の世界である

雑感

藤倉 一郎

1) 高齢化社会は人類を破滅に導く

長寿は人類の長い間の夢であった。その長寿が日本で達成されようとしている。男性八〇歳、女性八十七歳という平均寿命に到達したのだ。これで長寿世界一だと喜んでいてよいのだろうか。長寿になれば要介護の老人はますます増え、認知症とすりかえられた老人性痴呆はますます増加する。老化による脳活動の低下から、これは生物学的に不可避のことなのだ。記憶も記銘もすべて障害されて、人間として機能しなくなってしまうのだ。脳だけでなく高齢になれば運動能力も低下し、自分の身の回りのこともできなくなってしまう。それでも社会福祉の推進によって介護や病気の管理が進んでいくので食事を与えられたり、生命維持に必要な医療を行うことによって、寝たきりでも生存が可能なのである。こうして今日百歳以上の老人が日本全国で六万人以上もいるのだ。しかしこのうち自由に生活できるのはほんの数パーセントで他の大部分の人は病院や介護施設で養育されているのである。それで

も統計上は百歳は百歳であるから、人口統計上は生存ということになるのである。これらのかろうじて生存している人々は思考能力が失われ、自力で歩くことも、生活することも不可能で、たんに生命を維持しているにすぎない。しかし人間の生命を尊重する現代思想はこれらの人々を神を扱うように大事に取り扱っているのであるから、生命維持はますます進歩する。酸素の補給をしたり、食事が取れなくなれば点滴や胃瘻を作って強制栄養によって呼吸をさせ、心臓を拍動させて栄養補給をして生命維持に全力を尽くしているのである。これらの老人が生かされているのは何の利益もないのであるが、これが現代社会の通念となっている人道主義という思想なのである。

本来医学は平均寿命三十、四十という古代から寿命を延長することが人類の夢であった。しかし寿命が延びてくれば新しい問題が起こってくるのである。人間の肉体も精神も高齢に伴い老化し体力は落ち、働くことはできなくなり、脳の老化は精神活動を低下させる。これをなんとか食い止めようというのが現代医療であるが、それとは別に人々は一日でも長く生きようという欲求があるのである。医学はたしかに進歩している。二十世紀に猛威をふるった伝染病は、ほとんどなくな

り現在は老化によるがんや動脈硬化が主たる死因となつている。これらの病気は高齢化に伴い増えるのでこれを全部なくすることはできない。

老化をどう受け入れ、人間の終末をどのように迎えるかという問題を全人間的にきちんと整理しなければ、この問題の解決はないだろう。いずれにしても高齢者の医療と介護は莫大な資金を要するし、いまのままではますます増大するのでいずれ医療保険も破綻を免れない。人類はこの問題を解決しない限りは滅亡の道をたどることにならう。

2) 経済成長の病理

現代社会はすべて経済優先である。あらゆることが、経済的に有利であるかどうかということが問題になる。人々の生活も国の政治機構もすべて経済効率の悪いものは据え置かれ放置される。それで世の中で経済的に不利なものはずべて脱落してしまふのである。最近文科省が地方大学の文系をなくそうという案を提出した。これは理系は産業育成に有効であるが、文系は何の役にも立たないという考え方である。理系だけが社会の発展に寄与し経済を活性化させると考えている。理系をめぐる発明、発見、工業の産業化が国の発展に影響

するが、文系はこれに対してまったく役立たずという考え方である。

近未来しかみていない人々はこれが正しいと認識するのだ。経済の発展が国の成長につながると思えるからである。国の成長は国民所得も増え国民生活は豊かになるかもしれない。国民生活が豊かになるということは喜ばしいことである。しかし、これが際限なくつづくとしたら、どうなってしまうだろうか。確かに百年前に比べたらわたくしたちの生活は豊かに便利になった。しかし、人の心はどうなったであろうか。

今日の経済至上主義が世界を混乱させているのだ。この世界観に世の中が統一されていることが、人間の文化をかき乱しているのである。経済が豊かになり、物の生産が増え、消費がすすめば人間生活が豊かになるという構図を世界に広めようというのが今日の世界観だが、この考え方を根本から問い直さなければならぬ。今日の資本主義という政治経済機構は明らかに末期症状を呈しているのである。殺人は安易に行われるし、モラルをはずれた人間関係が多発しているではないか。

経済成長だけを目指した国でない、心が豊かになるような新しいイデオロギーを発見しなければならない

時代なのである。

3) 高速という麻薬

技術の進歩は高速という麻薬を人類に与えた。車に乗っていても、速く走ってほかの車を追い越していくのは快感である。風を切って緊張感に漲って走っていると爽快なのはだれでも経験することである。新幹線で流線形のモダンな車体が時速300キロで走るということは子供だけでなく、大人もきもちいいのは事実である。だからと言ってどんどん速度を上げれば快適だし早く目的地に着けるのだから最高だというわけでもない。事故が発生したら大災害になってしまう。それに開発には多大の経費を要する。莫大な金をつぎ込んで高速に力を入れることは人間社会にとって必要なことであろうか。短時間で仕事ができるので効率的であり、仕事の余暇を活かすことができるかもしれない。しかし現代人はレジャーや趣味と余計なことが多すぎないだろうか。人々を消費に駆り立てるために趣味に旅行に観光にと宣伝のかぎりをつくしているのである。これで人間の思考力を鈍らせ、肉体的にも経済的にも浪費させているだけでないだろうか。人間の文化を明らかに誤解していないだろうか。高速も文化だと誤解

しているのだ。人生は速度を落としてゆっくりあるのがいい。名古屋まで東京から1時間で行けたからといってどれほどの効果があるというのだろうか。世の中全体が高速という麻薬にとりつかれてしまったのであろうか。

4) 高層建築という幼稚性

東京スカイツリーができて世界一になったと喜んで観光客が大勢つめかけているようだが、こんなくだらないことはない。大体この小さな地球にとってこんな突出物を作って高い高いと自慢したところで、まったく子供じみた楽しみでしかない。大きな地震が来れば一瞬のうちに崩壊である。そんな危険な建築物を作るのを許すほうも許すほうだ。これで参観者が多くて経済的に収益が上がって、ほくほくだと喜んでいますが、長い目で見れば、きわめて幼稚なことである。世界一の高い建物をたてるのではなくて、もっと安全で人間の役に立つものを作ってもらいたいものだ。人間の目標が次元の低い所に置かれているからこういうことになるのである。もっと着実に心を豊かにするようなものに力をいれてほしい。ギリシャ時代の叡知に満ちた思想を取り戻そうという哲学が現在には完全に消失している。科学とテクノロジーだけが文化のすべて

であると錯覚しているのだ。科学は人間が案出した精神活動の一部であり、これで世界がすべて解明できると思っているのは大きな誤解だ。科学は世界を観察する一つの方法ではないのだ。現代は科学にすべてを依存しているが、これは大きな錯誤である。

5) 戦争という愚かさ

戦争は確かに悪である。戦争はしないのがいい。それは誰でもそう思っているのだが、戦争をすることによって多少の犠牲を払っても自国に利益をもたらす可能性があるときに、戦争が起こってしまうのである。自国の利益のみを考えるから、戦争になるのであって相手国の立場を考えれば戦争はおこらない。各国がすべてこのように考えれば戦争はおきないのである。しかし一国の主導者が自国の利益のみを考えたととき、この考え方は破綻してしまう。そういう国が近辺にいるから安全保障のために自国を防衛し、場合によっては、そのような国に対処できるような軍備体制にしようというのが、我が国の首相であるが、これは従来の軍備国家と変わりない。日本は不戦を宣言して70年経験してきた。この実績を今後も継続していくのが良い。世界に向かって平和宣言の有効性を叫びつづけるのがよ

い。この70年の実績を国際的に強くアピールして、世界中の人がこれに共鳴するように宣伝する必要があるのだ。

まず第一に戦争放棄した日本はこの文化遺産を国際的に認識させるために、ノーベル平和賞を獲得することである。そのことによって世界の見る目が変わり、国家間の争いをなくすことが当たり前になれば、戦争などという愚かなことはしなくなるであろう。人間はもともと争い事が好きという面もあるので、それをスポーツ面ではオリンピックに夢中になればいい。文化面では文学や絵画や音楽に力点をおき、宇宙開発に力を入れればいい。地球上に人々の関心を集中させないで、地球外に目を向けさせるのがいい。武器の開発は抑え、核兵器は地球上からなくすように世論を誘導しなければならぬ。人間全体が戦争の愚かさを認識して、平和で生きることの価値を認識しなければならぬ。このような地球的規模の社会を形成するために日本は戦争放棄という信条を高く掲げて、のどかな地球国家形成のためにオピニオン・リーダーとして活躍したいものである。

あり得ない理想主義などと言わないで、愚直にこの道を進めるべきである。

文芸特集号 執筆者一覧

小川 昭子	東京都狛江市	(小児科)
後藤 健	岩手県西磐井郡	(耳鼻咽喉科)
佐藤 玄祥(博)	東京都中野区	(指圧師)
斎藤 三朗	神奈川県横浜市	(内・消化器科)
白矢 勝一	東京都小平市	(眼科)
鈴木 啓之	埼玉県川口市	(皮膚科)
豊泉 清	群馬県高崎市	(産婦人科)
新本 稔	広島県広島市	(外科)
浜名 新	東京都杉並区	(内・脳外科)
藤倉 一郎	埼玉県北本市	(循環器科)
安田 修一	神奈川県横浜市	(内科)
山田 遼	東京都練馬区	(外科)
吉元 昭治	東京都小平市	(内科)

ご投稿ありがとうございました

さだまさしさんの歌にはいつも感心させられる。なぜこんなすばらしい歌をつくれるのだろう。「精霊流し」など悲しい歌から「雨宿り」「亭主蘭白」「亭主失脚」など面白い歌までさまざまである。

今年6月に10歳年下の弟が突然亡くなった。ずいぶん個人的な人間であったので彼の死のインパクトは大きすぎ、なかなか立ち直れなかった。私に兄貴、兄貴と慕ってくれ、またその一方、あちこちで諍いを起こし私を悩ませた弟感情の起伏が大きく怒り狂う時もあつたが心根はやさしい人間だった。

兄弟の大きな絆は突然死という形で碎かれてしまった。安らかな顔で眠る弟に名前を呼びかけたが返事はない。

なぜ人は生きていくのか？すべての人は遅かれ早かれこの世を去

ることを運命づけられている。

お通夜で、親戚が集まる中、私はいつの間にか「命の理由」を小さな声で歌っていた。従妹がその歌もう一度歌つてと言われて自分が歌っているのに気が付いた。

文芸部雑記 白矢 勝一 『命の理由』

「私が生まれてきたわけは父と母とに出会うため。私が生まれてきたわけは兄弟たちに出会うため。私が生まれてきたわけは友達みんなに出会うため。私が生まれてきたわけは愛しいあなたに出会うため。春来れば花おのずから咲くように秋来れば葉はおのずから散るように幸せになるために人は皆生まれてきたんだよ。苦しみの花のあとからは幸せの実が実るように」

生まれてきて最初に会う人は父と母、そして兄弟。人は皆幸せになるために生まれてきたんだ。弟は幸せだったのだろうか。彼の人生に少なからず関わってきた私ですらそれには答えられない。

果たして幸せとはなんだろうか。幸せと感ずる瞬間はあつという間に消えてしまい、日常の世界ではそれを感じることは少ないのではなからうか。

戦争で爆弾が降ってくる世の中に生きていると、爆弾の降ってこない世界が幸せな世界。食べ物のない世界では食べ物がある世界が幸せな世界。

不幸せでなければ幸せなんだと結論づければ、普通に生きていくことが幸せということになる。永久の別れとなつたが弟は何も言わず私の心の中に生きている。

編集後記



最近の情報番組で「サイズが5段階変えられるサンダル」の話題をみました。とてもシンプルなデザインで、正直「かっこいい」とは言い難いデザインですが、なんのために5段階のサイズ調節ができるサンダルが必要なのか、理由を聞いて納得しました。

発明家のケントン・リーさんが考案した子供用のサンダル、これは貧困のために靴を買うことのできない子供たちのために開発されたものでした。現在世界には3億人もの子供たちが靴を手に入れられず裸足で過ごしているそうです。援助などで靴を手に入れられたとしても、子供の成長は早いものなのですぐにサイズが合わなくなつ

てしまいます。しかし、サイズが合わなくなつたからといってすぐ新しい靴を…というわけにはいかないのが現状です。裸足になるかサイズの合わない靴を無理やり履くか、という事態になってしまいます。裸足で過ごすことは、一部の地域ではとても危険な行為だとい

います。感染症をおこしたり、怪我をしたりと、病気や怪我と隣り合わせの行為です。しかもすぐに病院に行けるといいうわけではなく満足な治療をうけられるとは限りません。ならばサイズの違う靴でもまだまだしかというところ、こちら子供成長にはかなり危険な行為で、指の壊死や、やはり感染症などをおこすこともあるそうです。そこでケントン・リーさん考案のサイズが5段階変えられるサンダルは、歩けるようになってから10歳くらいまで履けるものと、

10歳くらいから15歳くらいまで履けるものの2種類で、靴のない子ども達を守ろうと開発されたものだそうです。

豊かな国に身をおいていると思ってもいいことでも大変な想いをしている人たちがいることに驚きます。私も以前、自分の服や子供服を海外支援団体を通して送ったことが何度かあります。少しでも役に立てていれればいいなと願うばかりです。

今回、初芝先生が体調不良のため「透視像」をお休みさせていただきました。文芸特集号は毎回発行できるか心配しているのですが、「文芸特集号」を懇意にして下さっている会員の方もいらつしやるので今後も出来る限り発行していきたいと思っております。次の冬季号は新年号です。皆様よいお年をお迎えください。(ES)